

平成七年三月
津山郷土博物館紀要第七号

津山松平藩町奉行日記 四

津山郷土博物館

津山松平藩町奉行日記 四

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫の中から、「町奉行日記」明和四年および明和五年を収録した。

一、本文の表記法は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として当用漢字および現行活字体に改めた。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに(ママ)と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

躰てい 扣ひかえ 嚙あつかう 歎か 喧嘩けんか 音物いんもつ 稠敷ちびく 又候またぞろ 与風よと 早おちる

5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而(て)、江(え)、者(は)、茂(も)、与(と)は、小活字で示した。

今(より)は、例外として残した。

6 虫損・破損は、「」でその状態を示した。

7 日記の表紙・奥書等は、その部分を□□で囲み、(表紙)のように注記した。

8 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は尾島治が担当した。

明和四丁亥年正月三日至

御用日記

大沢三平

廿 平井半平

井上弥兵衛

(表紙)

明和四亥歳

正月元日 晴

御用番 小須賀一学殿
月番 村山平学

一恒例之通諸士登城於桜之間御帳付早而御勘定奉行村田孫兵衛三木
伊平太郡代町奉行兼役大沢三平御席江罷出御祝儀申上ル

一大書院敷負殿理喜藏殿兵庫殿一学殿御受礼ハ敷負殿其外例之通

一殿様旧冬十九日御登城被叙四品御伺ニ而越後守様与御改号被成候

旨御奏者所ニ而御礼是後追々演説尤明二日於御用場御帳付之義被
申聞候

二日 晴

一御用初御祝儀前御帳付早而御勘定奉行当役御藏奉行御金奉行御席
へ罷出江戸表御祝儀御用初御祝儀申上早而御吸物御頂戴大御目附
所へ御礼申也

一退出後於会所大年寄札元三人并山内屋定右衛門札元手伝ニ付札元
一所ニ受礼諸吟味兩人例之通場所去歳日記同し

三日 晴

一町年礼例之通也

四日 晴 五日 晴

一村山平学ハ呼ニ参山岡与左衛門元長家者忠介与申もの旧冬廿八日ニ
出奔致候処当朔日迄も不罷帰依之請人江母当人共ニ与左衛門方長
屋之手を離候段申渡候然る処翌々日勝田郡蓮尺村之もの忠助縁家
之由ニ而長屋へ参右村々之火付計を盗捕候処繩を抜出候由相知候ニ
付夫々心懸罷在候処昨夜門内へ右忠助忍ひ込候故早速召捕其段
相届出候依之同心差向相受取牢番預ケ取計候様被仰渡候旨被申聞
即刻手配致候夜入同心中山伝内金嶋喜代次差向請取牢番預ケ取計
候右請人ハ鉄砲町茂七下請ハ今町勝屋孫太郎裏屋太兵衛と申者之
由尋手紙遣候処返書ニ右之段申来ル取計相濟平学へ届ケ申達ス

一右之趣平学ハ申聞無之内同役之場喜内を以内分有之候

六日 晴 御出席

一於会所御藏元次ニ三くり屋礼座例之通平太兵衛出座権六同断早而
町方年寄共受礼

一大年寄例之通名披露中之口ハ玄関へ出る御用初御吸もの御酒薦引
申合三平引之八十次数之子引之余例之通無滞相濟む

一坪井役所松下助七ハ年状到来七日之朝也

七日 晴

一与左衛門方一件ニ付請人他參差留申渡置候

一先達而追込申渡候茄子盗人十兵衛小屋之者ニ宮原ニて捕候一昨日
夕小屋ニて回を付候処近來町在所ニ而盜致候も其之節一所に追込
候者とも申合之趣粗及白状目明夕届出候ニ付申達シ今夕半番預ニ
申付候權六孫八罷出る

一此度御官位之御祝儀座頭共頂戴之儀及御沙汰銀札場ニ而内借之儀
村田孫兵衛江相頼遣ス

八日 雪 九日 晴 御用場 十日 晴

一他国他所座頭とも備前伊予守殿袖留一ツ官位元服相兼ニツ當時内匠守
殿袖留一ツ官位元服相兼ニツ 此後前髪ニ取候哉又ハ御官位之節前髪も相
是迄メ三ツ 濟候や少分此度此方様御官位者御元服ニ而初冠成候義ニ付備前之通

二ツ分頂戴可仕備前ニ而内匠頭殿前髪も取候祝義も候ハ、此方様ニ
も可申告諸事備前引並ニ吉凶頂戴もの可申出旨先達而被仰渡候間
右之通候旨押而申出候乍然一学殿ハ被仰渡候ハ御官位之御祝儀ハ

とて御元服之義ハ備前とハ訳ハ違候しかれとも当正月御初冠被成
候ニ付少分御元服御祝儀兩様被下之候旨平学殿答ニも被仰渡候且

又御前髪被為取候御節ハ御家中町在御知せハ有之候備前ニ而も同
様事ニ可有之候然者内匠頭殿其義触無之ニ付是迄右祝儀取不申旨

座頭とも申方不取其意候然者此方様ニも内匠頭殿同様ニ兼而書取候
様可申聞旨被仰聞候ニ付其段申聞候処甚不致承知右法知らせ者申

候て是非頂戴ニ可罷出趣相聞へ其段申上候処先聞置候様ニと被仰
聞候ニ付今日兩様御祝儀遣し候出役川端又六金嶋喜代次

一高巻貫四百八十八匁五分〇廿五匁者 札衆分式人老貫百七十匁衆分

百十七人〇九十匁打かけ十八人〇八十七匁「」初心三十五人〇五
十老匁名替女十七人〇五匁小替女式人四十匁配當場役料〇二十
匁書役方墨
右ハ配當場城正吟味役城古名代城譚兩人印形委細ハ大年寄日記ニ
も有之

十一日 晴雪天 十二日 晴 御出席無之

十三日 晴 十四日 晴 御用場

一來ル十六日大年寄札元諸吟味御藏元名面付中奥目附中へ差出ス
一此間配当銀高座頭人数書付御用所並大御目付所へ差出ス

一小姓町杉屋助右衛門家売同町作人政吉買三百目
一伏見町仁兵衛買三町目大山屋買主八百「」

一此間牢番預ケ忠助義尋之為權六伝内差遣ス口書一件ニ有
十五日 晴

一例年之通御具足御祝儀諸士登城御用番一学殿御奉行ニ而頂戴早而
孫兵衛伊兵太三平御用席へ罷出御祝儀申候御退出之砌松之間御縁

側ニ而町医岩佐孝碩渡部甫庵川崎桃庵箕作丈庵川村「」北山修齊
各向北敷居之東下大御目付 早而中之口大年寄札元川口藤十郎ハ病札元手
村山平学西下大沢三平

伝山内屋藤右衛門初而登城地方目付例之場所名披露相濟御入座又戸田
市「」左衛門伊勢屋七右衛門姫路屋伝藏今津屋平藏是又名披露御

用所例通福永屋藤左衛門八席中

一於宅大年寄札元諸吟味盃事地方目付同断例之通盃計

十七日 晴 十八日 晴 御用場

一江戸表大年寄とも歳暮献上相済候由御奏者村山左仲三原金太夫
書状到来玉置忠兵衛相渡ス

一山岡与左衛門方一件ニ付久世役所へ書状文段御用所御評議大御目
付中段々御対談ニ而相決書面認文段別ニ有

十九日 雨

一昨日久世へ右飛脚遣ス

廿日 雨

一昨夜八ツ過頃安岡町一方屋小太郎と申者之内ニ而火焼候失火候得
共纒義ニ而近辺寄消留申候ニ付大御目付村山平学江一通り申達し候
御席一学殿江も御沙汰申候

一久世役所返答申来ル去ル四日之日起之一件也是迄「」江不申出
候得共右村内之者共一通り相糺早速可遣旨申来り御両所江申達ス
文段別に有之候石井平助ヲ遣ス

廿一日 雨 会所御出席無之候

一入牢茂右衛門儀平病氣ニ付医師遣ス

一泰涼院様今日御仏参可成之旨御延引之旨申来り

廿二日 晴 廿三日 晴 御用場

一佐渡守様玉置忠兵衛方御止宿ニ付引受之筋取計候様大御目付太田
舍人懸りニ而被申渡候

一去ル十八日百間土手御藪に嶋裕羽織一指込有之今日及御沙汰御建

ふた来ル廿九日迄ニ建置候様郷中申渡ス

一今夕四ツ時過久世へ飛脚到来忠助一件連尺村辺致悪事候段粗被及
御聞候故若右之者請取候様ニ茂可致哉之旨先頃御内事被仰聞候ニ
付連尺村辺致吟味候処勝南郡藤田上村百姓惣兵衛方ニ而去十二月

廿八日牛盜取候を直取戻候得者忠助江対し願筋無之旨申出掛り合
茂無御座候間左様御心得被下御取計御座候様ニと存候右之段可得
御意旨申来り候

廿四日 晴

一今朝昨夕之来書一学殿并大御目付村山平学江も申達し相応之返
書遣ス文段別ニ有之

一西今町日向屋利兵衛甥宇助今般御使組被召抱候ニ付届之書面差出
ス且此儀ニ付去ル十八日御使組小頭へ呼出し而召抱候段申渡候段
同廿日之晩ニ書付差出候処曾いつ方へ御筋へ御沙汰無之儀支
配方之者帯刀も致し候義も不存万端難相濟ニ付大御目付村山平学江
存寄及噂置候処已来ハ右之御取計御座候触町奉行江も存候様ニ被
成度旨一学殿江達し被置候由

廿五日 晴 廿六日 晴 会所御出席

一細工町大工弥七借屋忠助四十七歳去六日与風立出尋申付ル

廿七日 晴 廿八日 晴 御用場

一町会所修覆入用之儀大御目付中へ申達シ候処先格取計可然旨ニ付
三步銀ニ而是迄致来候間三木甚左衛門へ申談候処歩銀を外へ遣候儀
か様ニも出し方ハ可有間申付候儀可然旨申聞候ニ付又々大御目付
中江申置候佐渡守様御止宿ニ付馬屋成惣鉢之繕入用

廿九日 晴

一村永屋甚右衛門并倅兵吉出牢申渡於会所平太兵衛同心目付権六
出番左五兵衛伝内大年寄孫右衛門忠兵衛諸吟味市郎左衛門各立合
申渡候御達

先達而鳥羽屋懸り合付源次郎片輪も「成哉平」同数も
可懸哉旁手鎖親類取計候処別事申合て禁置候手鎖を逃し不届
付過代牢舍申付候置候格別以用捨今度ハ出牢申付候旨

右村永屋始終之書面入置候故略之御届御両所へ申達ス

一栄嚴寺而来月三日分三七日別町付建札之儀寺社方分申立相済
嚮有之寺分も大年寄へ申出候付今日両所御届ケ申達ス

一昨日申達置候会所修覆之儀百匁て請取候旨申付大年寄目付藤
森権六罷越及見分候処破損場入用も無相違相見分付則取掛り候
様申付ル

二月朔日 晴 御用番 小須賀一学殿

月番 渡部惣馬

一会所御出席無之

二日 晴 小雨

一入牢幸右衛門平藏相煩候付医師遣ス

一与左衛門方元長屋忠助母子地并鉄砲町請人茂七西今町多兵衛兩人江
預ケ忠助取計筋立候迄養育致候様申付「」

一惣社宮当月廿日分三月十五日迄地祭建札両橋に建申度旨申出御さ
たに及大年寄へ申聞候

三日 晴 御用場

一近々当町佐渡守様御止宿被成候付例格之趣大御目付所分触書出
ル扣に有之

一おけ屋町桶屋与右衛門家百五十目吹屋町作人八助買

四日 晴

一御道筋坪井町分西今町夫分安岡町同心伝内供夫分院庄波戸場御茶
屋見分賄出ス

五日 晴

一三町目分東不残御手伝見繼林田東新町二衛夫分在分御境目迄賄地方目付宅而
同心左五兵衛罷帰一学殿へ御届申達ス大御目付江八手紙而達ス

一今夕雲州御家中青沼東兵衛分来廻文

佐渡守様先達而御泊休相極候処令相違左之通障之義無之候ハ、致
印形候様飛脚関札二三日之中為持可越由玉置忠兵衛方ハ御止宿
付断書廻文別に参候

二月四日 根雨泊 新庄休 院庄休 土居泊
二月五日 久世 院庄休

一学殿并太田舍人江申達ス

六日 晴

一来ル四月出羽守様御暇被仰出候ハ、御発駕被成五月十三日勝間
田御泊十四日院庄御休同日久世御泊此段三嶋文右衛門分廻文御両所江
申達ス

一耳目明才兵衛倅岩右衛門儀去ル申十二月十三日日記之通路之其節
欠落致候付親才兵衛申付置候処何となく致徘徊候付昨夜目
明江申合候処召捕候旨申出明て御伺之上牢舍申付候喜代治此岩

明江申合候処召捕候旨申出明て御伺之上牢舍申付候喜代治此岩

右衛門儀旧冬似せ札竹十郎を偽引出し候由引合有之由追而ハ取計可有之義也尤一学殿并渡部惣馬江も申達ス

一本郷村野村義平源助福渡村徳三郎ハ米銀借受候処弘滞去歳野井乃ハ復翰ニ申出候ニ付濟口申付候ハ共不相濟当正月末迄日切是又不筋立日延候儀去月廿九日申出今津屋伊右衛門仲人ニ付其段申聞セ候

一 鍛冶町市右衛門弟喜市と申者栗井村江養子遺ス

七日 小雪 会所御出無之 八日 晴

一 御閑札院庄御茶屋江来ル和田又蔵御徒

一 大坂ハ広瀬義平近藤伊左衛門ハ本屋七郎兵衛ハ吉文字屋懸り合滞銀之儀再書到来扣に有之

一 旧冬ハ往反有之候銅商売之者内々見分致度尤一切此方失墜無之儀ニ付可相成候ハ、今一応可承由義平ハ申来ル御兩所江及御尊置候

九日 晴 御用場

一 橋本町喜太夫去歳百日逗留ニ而罷帰候西国順礼願候処日切相延候ニ付家主市松ハ断書出し候間加日之儀旅先ハも不申越此元親類も無之日切筋立不申故人別放チ可申儀と御伺申上候処何之思召も無御座可然取計候様一学殿被仰渡候故惣馬江も申達し人別離之儀申渡シ帰候ハ、其旨申聞不致承引候ハ、相訴候様ニ申渡させ候

一 年頭献上物無滞相濟村山左仲三原金大夫ハ奉書到来ニ付則大年寄共江申渡し候

一 銀之助様来十二日ハ町会所江佐渡守様御通行御透見被為入候ニ付

其段年寄江為申渡候御下屋敷御役人御作事一

十日 晴 十一日 晴 十二日 晴

一 今日佐渡守様御通行玉置忠兵衛方御小休ニ而其儀無滞相濟町奉行替村田孫兵衛相勤候同心部屋目付藤森権六平吉并栄内室并政次罷出ル

一 銀之介様町会所御出被成候御道筋去歳之通也

一 御使者宿斎藤孫右衛門方御取次後藤清蔵町方御使者鈴木織人

一 町奉行ハ御入込被成候見量手替ニ度初者院庄御供揃院庄ハ俄に御城

御小休之趣ニ成三原ハ孫兵衛迄人を走せ夫ハ大番所江通達切何方御役人ハ先江玉置方ハ案内致し候筈候様相頼候由此方様ハ出役無之候

一 御奏者番中ハ去ル二日出飛脚到来

一 殿様益御機嫌克被成御座且又去ル朔日御前髮被為執候之旨申来以之為御悦来ル十五日御帳付辰之刻ハ己之刻迄出仕可仕之旨廻文大御目付所ハ御用日十五日ニ相成候旨為知廻文

十三日 晴 十四日 晴

一 紺屋町灰屋善右衛門儀下御屋敷御京弁当之御紋「一輪」候処蒔絵師ハ御紋之手本不埒成義相渡候不届ニ付追込可申付候旨被申渡候ニ付大年寄ハ申渡候但蒔絵師御紋之手本遣し候也 今日取計之処故有之先見合追而御差図可有之也

一 佐渡守様御役人藤島新八と申者ハ玉置忠兵衛方ハ来書此間出役之内被下物去歳之通ニハ不参辰之歳之格ニて候由名前并金子御目錄等参候得共出役之面々之内行届キ不申書面ニ而たとへハ町奉行兩

人と有之名前も不知又八川部波戸場ニて此間被下相濟候上氣境之品も有之配分難成委細入込候訳即刻太田舍人江申達候来書外ニ有之

十五日 晴

一 御預御帳付

一 佐渡守様被下もの候儀ニ付忠兵衛少一応尋之書面遣し其上ニ而有無相知候而配当致候様頼負殿思召候旨太田舍人少被申渡候

一 岡山入部有之候由相聞候間町分少聞合候様被申渡大年寄へ申付候一昨夜東新町肥後屋清右衛門下女中之町ニ而何者とも不知後少抱へ口を覆ヒ上着を剥取られ候由尤着物ひとへものあかね裾表江戸茶ひしもん松皮菱之内ニたき菊此段渡部惣馬へ申達又同心江も申聞心得させ置候

一 佐渡守様此間御小休へ町奉行も不罷越同心杯も忠兵衛方不相固一通りニ而罷在候事如何ニ思召之由以来ハ右之節ハ御休場江參諸事氣を付且又往來を止御跡押之跡江大勢付參候躰甚法外之事ニ候間以來氣を付候様ニ頼負殿被仰聞候旨太田舍人被申聞候ニ付同心共江其旨申合メ置候尤此間通切ハ急度差留候由相聞候ハ三平ハ院庄江罷出候ニ付一身之不意ニハ無之候得共以來之「」ニ候旨同人ニ申聞候御先私同心共不意無之段同人江申達候

十六日 晴 会所無御出席

一 鍛冶町豊吉家売八百目町内文吉買

一 紺屋町灰屋善右衛門追込申付候御所江御届申達ス

十七日 晴 十八日 晴 御用場

一 渡部惣馬少被申渡候ハ惣而牢人と号シ虚名を申廻候者有之候ハ、見合次第其所ニ留置早速役所江可訴出旨相触候様被仰出候旨以之同心共江申渡下方江も廻文差出ス

一 大御目付所少廻文近來病犬有之候趣相聞候此以後病犬有之候ハ、町奉行所少非人共江申付何方之犬ニても打殺候様ニと有之候間此一段為心得申達候様御用所御申ニ付申達候

一 先達^{十九日節}而召捕入牢申付置候岩右衛門今日会所江呼出し其方儀先達而悪事有之追私申付候処似せ札訴人致候ニ付徘徊申付候処又候去歲於神戸悪事致し欠落之上徘徊致候旨相聞召捕入牢申付候此度急度可申付候へ共似せ札師竹十郎連出し候働ニよつて立去り申付徘徊差免候全住居不相成旨申渡尚又才兵衛江も右之趣大年寄申渡相濟御届申達ス

十九日 晴

一 久世御代官竹垣庄藏殿通行ニ付例之通先私并掃除等申付

廿日 晴

一 岩右衛門取計昨日之同様有之

廿一日 晴 会所御出席被成候

一 福渡村徳三郎野村本郷村米銀不相濟候ニ付再訴出ス

廿二日 晴

一 灰屋善右衛門追込差免申来則申渡候届達ス

一 今日配当銀相渡ス藤森権六神田権兵衛罷出人数百六十人銀札五百八拾目五分也三十匁例之通是ハ今般御前髪被為取候為御祝儀

被下之候

廿三日 晴 御用場

一配当相渡候段書付を以御所^江申達ス

一先達^而美濃職人町浜七夫婦追^然ル処浜七妻祖父茅町太兵衛^ハ願

書私妻去秋^ハ大病相煩難儀仕候右浜七妻縁離之状を取当時^ハ老

人^ニ而御他領^ニ暮居申候間^而婦住宅被仰付被下候^ハ、妻病中看病為

仕度旨歎出候^ニ付此間及御沙汰御聞濟今日申渡ス

廿四日 晴

一新魚町はりま屋清兵衛播州龍野播磨屋清右衛門方へ引請候故人別離願

廿五日 晴

一西新町高松屋平兵衛借屋^ニ罷有候笹屋類族本人同然伊兵衛孫岩娘

つた当亥八十七歳近年左裏致罷在候処十日計以前^ハ痰氣相煩和道

河部周益針医吉武^并掛療治養生不相叶今日巳ノ下刻病死致し候旨

届出一学殿^并大御目付渡部惣馬^江届手紙遣ス御使番井上弥兵衛宗

旨奉行村井六之進死骸改濟林田長松寺火葬

一忠兵衛備中早嶋油屋義平方^江内用^ニ付明廿六日^ニ罷立往来十日計之逗留^一度書付聞届

廿六日 晴 会所無御出

一中之町住屋喜七家売百五拾日同町作人茂助買

一西新町作人李之丞家売百匁中之町藤屋藤助買

廿七日 雨 廿八日 晴 御用場

一江戸赤坂御屋鋪華崎新^一と申仁先頃佐渡守様御通り之節出役へ

被下もの御途中^ハ送り越候処名前不都合故難取計尤玉置忠兵衛

宛^ニ候故同人^ハ問合之書状遣候趣今日大御目付太田舍人^江申達し

可遣旨^ニ付則申付候

一町会所修履料百目会所^ニ而岸権^六江書付相廻候様^ニ同人^ハ通用有之

其通り取計也尤追々御沙汰も申上候旨御聞届被成候^ニ付御勘定奉

行中へ被仰聞候

一於御次一学殿被仰渡山内屋藤右衛門先達^而札座手伝申付被置候所

今般札元並に被仰付候此段可申渡旨被仰渡立合大御目付渡部惣馬

被罷出候猶又追^而御聞合申上候所並之通五人扶持名字共同様之事也

一來月五日更山院様三十三回御忌^ニ付泰安寺^ニ而御法事被仰付且又

同八日豊光院様御敷湯有之由大御目付所^ハ廻文出ル夫々相触させ

候右^ニ付同心辻詰町方自身番宵朝終日申付ル

一惣社宮万市町為賑小^一之者参万歳致候願御聞届被成御触ハ見せ

もの有之候間罷越事御停止之御触書出る

一河原町新太郎^ハ勸進元仕候旨書付差出一札申通

廿九日 晴

一去歳川上屋先妻狂氣^ニ付牢御貸被成候処今般弓削村源八と申者縁

類^ニ付引受申度段々々一札ヲ出し候^ニ付京町松江屋平七^ハ願書何

とそ出牢ヲ仰付被下候様^ニ相歎昨日御伺候処聞濟^ニ付今日^{榮内}喜代治^差

向松江屋相渡候御届申達ス右書付外^ニ有之候

一山内屋茂渡と名字改申度書付差出及御沙汰置聞届申渡ス

一今暮時勝間^町大屋文吉裏借屋理右衛門失火有之候得共町内切^二而

採消申候^二付禁足申付尤御届御所^江申達

晦日 晴

三月朔日晴会所御出席

御用番 小須賀一学殿
月番 太田舎人

一更山院様御法事^二付御布施頂戴之儀座頭共申出御伺申上候処被下置候趣被仰渡其段申達シ候

二日 雨

一学殿^ハ御手紙被下職人町新助先年追扨之様子御尋被下候弥三兵衛覚書之趣申達ス

三日 晴 四日 雨

一明日座頭共^江御法事^二付御布施相渡ス出役申渡置

一林田町作人利助借屋弥田郎悴平吉備前赤坂郡福田村百姓長次郎^与申者へ養子^二遣ス

五日 晴

一今日今町へ例之通同心差出ス御法事宵之詰ハ無之由町方ハ宵明日自身番申付候同心ハ昨晚差出候

一座頭共^江御布施被下同心差出ス配当場城正方はれ式人拾式匁五分衆分百老人五百五匁打懸拾六人四拾目初心三拾八人四拾七匁五分寿名十九人式拾八匁五分小警式人式匁五分惣人数百七拾八人銀札六百六拾六匁内三拾目役料筆墨紙共^二

一上打穴村長兵衛^与申者乱氣之鉢^二而今日今町辺往来^二障^二相成殊更御法事半町方にても取計難儀仕旨同心共^ハも大年寄^ハも申出候^二

付あはれ候ハ、捕可申旨同心^江申渡置太田舎人^江達置候処^二階町辺迄趣候^而召連帰目明^ハ同心^并柴内政次受取紺屋町灰屋喜兵衛縁類之者之由灰屋善右衛門も同断^二付預置候所晚方先村庄屋元右衛門^并仁三郎善右衛門^与申者連^二參^一相渡もつとも善右衛門喜平次方^ハも人を付相返候由同心組且大年寄^ハも届出^ル

六日 雨 七日 晴 会所御出席無之
八日 晴 九日 晴

一郡代所日記^二粗有之略^一

三月九日

御用番 小須賀一学殿

大目附 太田舎人

町年寄月番

藏合孫左衛門

一大沢三平退役被仰付跡役平井半平被仰付候

一御用所^江勘定奉行中^と一所^二罷出^ル申上候儀無之段申上即刻退座

一大沢三平^ハ相渡置候願書数通大目付渡部惣馬^ハ被戻請取

一於会所大沢三平^ハ目録を以引渡有之請取相濟尤右之段太田舎人^江

手紙^二而相届^ル

一木知^ケ原御番所^江相廻候印鑑老杖久世役所^江相廻ス

一右飛脚御使組之義勘定奉行中申遣ス麻嶋半兵衛来^ル状箱相渡申付

ル

一小桁御番^江印鑑老杖石丸紋吾^江相廻ス

十日

一 円宗寺村吉祥寺鐘鑄来ル廿六日致野吹候ニ付東西両橋江建札之儀
願相濟候旨社取次村井六之進合通用有之并大年寄藏合孫左衛門
合も申出候ニ付御用番小須賀一学殿大目付月番江手紙ニ而相届ケ勝
手次第之旨藏合孫左衛門江手紙ニ而申遣ス

十一日

一 久世役所合之返書麻嶋半兵衛持參請取ル

一 右返書ニ大沢三平同役相勤候様申越候ニ付大沢三平退役段又々申
遣候ニ付飛脚御使組之義勘定奉行中江申遣ス日笠覚左衛門罷越候
付状箱相渡申付ル

一 明十二日御用席御出席有之候旨大目附太田舍人合廻状到来

十二日

一 御用所御出席有之付出仕

一 御用所御面謁有之夫合肩衣取勘定奉行中と一所ニ罷去去ル五日更
山院様三十三回御忌ニ付座頭共江御布施被下置候書付一学殿江差
出入左之通

半切 覚

はれ衆分

衆分

打懸

初心

寿名

小替女

惣人数百七十八人

式人

百老人

十六人

三十八人

十九人

式人

此銀札六百三十六匁

外三十匁 配當場役料

惣合六百六十六匁

右者更山院様三十三回御忌御布施被下置三月五日相渡申候以上

亥三月

大沢三平

一 京町味噌屋清八方江逗留願左之通

播州池田

森田武右衛門

大和屋五兵衛

同 清兵衛

同 利兵衛

大坂今橋

天王寺屋七右衛門

上下九人

右願聞置ニ而相濟

一 小性町為屋長助後家売家代銀札式百目ニ相極メ伏見町作人西治江

売渡願書差出承届ル

一 堺町西田屋藤右衛門旅人宿屋株中ノ町正木屋伊右衛門江相讓申度

旨承届ル

一 新魚町魚屋長兵衛同町林田屋次右衛門と家替相長兵衛合次右衛門江

負銀札「」百目遣之候旨承届ル

十三日

一 久世役所合返書日笠覚左衛門持參請取ル

一吉井榮内近在罷帰候段相届ル

十四日 御用所御出席無之

一近来大坂江罷越居申候中市屋新十郎江三人扶持被下置大文字相印御免被成候旨申渡候様御用番中勘定奉行中江被仰渡申渡相濟候旨通用有之

一右中市屋新十郎義町人別之者故貴役可申渡之処急御用向而勘定奉行中登坂被申付右ニ付今般之義者格ニ者不相成候

一中ノ町菓屋文右衛門家屋敷表口三間半裏行拾四間役半役也代銀札五百六十匁相極メ同町久屋又兵衛江亮渡願承届ル

一安岡町坪屋多吉持来之自国請酒株去ル未三月改出来ル亥暮迄五年限宮脇町柏屋伊右衛門江預ケ置候処右商売相止メ候付坪屋多吉方江取戻シ自国請酒商売仕度之旨承届ル

一京町花屋権兵衛元魚町糺屋彦十郎所持之旅籠屋株当亥歳合来ル丑歳迄三ヶ年之間借請商売仕彦十郎手前旅籠屋相止候願承届ル

一鍛冶場土橋満水ニ付落舟渡不相成候旨藏合孫左衛門申出即刻御用番中大目付中江手紙ニ而相届ル

十五日

一丑ノ中刻藏合孫左衛門罷越唯今勝間田駄合送り物洪紙包壹ツ合羽壹ツ御紋付津山ト書候之符壹ツ持参御飛脚跡之者老入勝間田合川辺迄之内ニ而病死之由右死骸送り来り候由申出ル御飛脚之者ニ候ハ、勘定奉行中江右品々致持参得と申達候様申付遣ス此方合ハ何方江不相届

一右病死之者吟味候処下村友右衛門殿家来山田治助与申者ニ而中間

小頭三谷十兵衛請込候付引渡候旨藏合孫左衛門承届ル

一鍛冶場舟渡繕出来不申候付郷中石舟勘定奉行三木伊平太及通用借請候

一右同所舟渡相始候旨申ノ中刻相届ケ即刻御用番中大目付中江手紙ニ而相届ル

十六日 会所御出席無之

一神戸村院庄村入牢四人之者共不快之処同宿故医師遣申度之旨申出候ニ付勝手次第之旨申「」

十七日

一玉置忠兵衛裏堺御堀端埤覆繕仕候付御堀江足代おろし申度願書藏合孫左衛門差出ス

一宮脇町角屋午助御太鼓打平松吉右衛門役介義助与申者当亥式拾八歳罷成申候右義助義養子貴人別加へ度旨承届ル

一牢番杉山勇助罷出神戸院庄入牢四人之者町医中嶋仙庵療治ニ相成候旨相届ル

一目明し扶持請取証文石名平太兵衛差出奥印取計同人江相渡ス
一非人扶持請取証文同断

十八日 御用所御出席有之

一西今町久保田屋利右衛門借屋糸屋源兵衛先達而罷出行衛相尋候得共相知不申候ニ付最早日数百日相成候付人別離レ願書差出候間御用所江申上大目付中江も申達ス願之通申付ル

一京都祇園三位旧冬御札差上ケ候御初穂未打廻不申候由藏合孫左衛門申出候間御用番中江及御沙汰置

一玉置忠兵衛繕所断書大目付中相渡候

一戸川町沢屋茂助引請越中と申者「一候由蔵合孫左衛門相届ル右度々参り候者ゆへ願書不差出候由承届ル

十九日

一京町味噌屋清八親利左衛門義先達而願相済大坂久宝寺町式丁目土居原治右衛門方江罷越候処先月廿四日廿日計日延願出候処今以用事不相濟候_ニ付又々十五六日之日延願出承届ル

一吹屋町吹屋八左衛門田宗寺村吉祥寺釣鐘鑄請合候付来ル廿日夕八日計之逗留_ニ而職人十人計召連参度之旨承届ル

一寺田治助方江御用_ニ付京都御用「一諏訪与右衛門と申者今日罷越兩三日逗留致候之旨承届ル

廿日 別条無之

廿一日 会所御出席無之

一下紺屋町原田屋馬七借屋者美濃職人町長八_并つち右兩人西国三十

三所百日計逗留願承届ル

一二階町堺屋伊助方江大坂江戸堀三丁目坂本屋定助五十日計逗留尤寺証文持参之旨承届ル

一齋藤孫右衛門悴已之八義明廿二日出立十日計之逗留_ニ而播州細月乃井野屋四兵衛方江差遣度旨願書差出ス加判人玉置忠兵衛承届ル

廿二日 晴天

一安岡町西原屋惣助借屋者善心同町生「一屋喜四郎借屋者久助同人妻はる同人娘くま右四人四国願尤明廿三日出立往来百日計逗留願承届ル

一茂渡市右衛門備前下津井俵屋孫右衛門方江明廿三日出立往来十日計逗留罷越度之旨尤寺証文持参之旨願出承届ル

廿三日

一新職人町新助義先達而御神忌之節徘徊之義地蔵院_ハ相願御免被成候処老母有之甚相歎候_ニ付帰住宅之儀又々今般地藏院_ハ相願候_ニ付帰住被仰付候段御用番中_并大目附渡部惣馬被仰聞右之段蔵合孫左衛門江申付ル

一高野宮花鎮神事_ニ付人形廻シ八九人「一芝居一株願_ニ付被仰付兩橋江建札_并惣町太鼓打廻り之儀相濟候間寺社方_ハ通用有之御用番_并大目付中江及御沙汰申出候ハ、申付候様_ニ蔵合孫左衛門江申付置

一非人加廻り先達而申付置候処最早差免可然之旨大目付中江申達差免

一玉置忠兵衛裏通堺繕_ニ付御堀江足代下シ度旨大目付申達相済申付ル

一豊国屋重右衛門先達而大沢三平_ハ申付有之候処今以筋立不申候旨勘定奉行中より其節三平_ハ孫兵衛江遣候書付左之通

豊国屋

重右衛門

先達而御勘定奉行中_ハ大年寄を以被申付候一件致承知候而御役人中よりも被申談候義も乍請此度右之儀致交約候_ニ付勘定奉行_ハ届ケ有之候何れ之役所_ハても申付を請候上_ニて違背いたし義甚不届之事_ニ候何分先達而約諾之通無「一変筋立可申候

右之趣去月廿四日大年寄斎藤孫右衛門へ申渡候尤書面之義を口達^ニ而急度可申付旨取計申候以上

五月三日

大沢三平

村田孫兵衛様

右^者明和^二酉年申渡有之候処今以不相濟候^ニ付今日孫兵衛^ハ通有有之又々申付候様藏合孫左衛門^江申付ル

一 福渡村徳三郎借物再訴状差出郡代中へ申達ス

廿四日 雨

一 船頭町舟元屋佐助高野宮芝居勸進元願承届ル

一 石名平太兵衛不快^ニ付仕断有之

一 三舟孫八病氣之処今朝病死之旨相届ル

一 高野宮社地おいて近々見せ物有之御家中御触書出ル例之通被取計候様石名平太兵衛へ申遣ス

廿五日

一 大年寄共^并札元共呼出シ盃いたス

廿六日 会所御出席有之

一 船頭町今津屋平藏大坂江戸堀丹後屋弥兵衛方へ明廿七日出立廿日計逗留願承届ル

一 高野宮芝居明朝放示いたし同日^ハ本狂言候由届出ル御用番^并大目付中^江手紙^ニ而相届ル

一 寺田治助方^江諏訪与右衛門先達^而罷越候処昨晚罷帰候旨大年寄^ハ相届ル

一 高野宮芝居出役之儀神田権兵衛申付ル

廿七日

一 東新町鍛冶屋仁右衛門家内四人町人別離^レ林田村定次郎借屋^江引越度旨承届ル尤郡代中承合

一 高野宮芝居^ニ付同心藤森権六室井政次出役別条無之段申出ル

一 銀之助様明廿八日四ツ時御供揃^ニ而長法寺^江被為入候御道筋大番所夫^ハ本覺寺前通鉄炮町土手舟場右之段隅田族^ハ通達有之資格之通取計申付候様大年寄^江申遣ス

廿八日

一 元魚町武兵衛願大久保加賀守殿御支配所当国久米北條郡大井和西村藤七^与申者当亥三十式歳引請度願御席^江申上大目付へも申達承届ル

一 鍛冶町鍛冶藤九郎願悴儀右衛門当亥三十五歳去ル七月^ニ不斗罷出行衛不相知町内人別離願御用席へ申上大目付中へ申達承届ル

一 二宮芝居出役同心石名佐五兵衛神田権兵衛無別条

一 西川大久保加賀守殿役人小形伴佐衛門同進吾^ハ当役被仰付候為悦書状来ル相応返書遣ス

廿九日

一 二宮芝居へ中山伝内吉井栄内罷出ル

一 村瀬八兵衛申聞候福本屋一件太田舍人^江内分申置

一 鍛冶場前渡守馬指日用頭鉦打配當場銀札両通右印形いたす

四月

御用番 小須賀一学殿

大目付 渡部惣馬

大年寄月番

玉置忠兵衛

一安藤鞆負殿御宅^二而御用番^并大目付列座勘定奉行郡代兼役被仰付

町奉行役井上弥兵衛へ被仰付於会所引渡相濟渡部惣馬双方^ハ手

紙^二而相届ル

四月

御用番

小須賀一学殿

大目付月番

渡部惣馬

大年寄月番

玉置忠兵衛

朔日

一拙者儀今日被召御家老安藤鞆負殿於御宅小須賀一学殿^ハ被仰渡町

奉行役格式物頭被仰付候大目付渡部惣馬立合

一於次間渡部惣馬被申聞候同心組共会所引取宅^二指置先々之通可相

勤旨被仰渡候

一会所^江罷越前役平井半平^ハ町奉行所諸道具書付之通請取組之者引

渡相濟ム

御役人石名平太兵衛及対談

一入牢之者書付^テ通半平^ハ請取

二日

一郡代平井半平^ハ出牢手配来ル神戸村茂右衛門同村平藏院庄村儀兵

衛同村幸右衛門右出牢拙者手配認牢番^江遣又吉井栄内指越会所迄

召連相渡罷帰ル

神戸村茂右衛門義^者御領分追払相成候由及承候残三人村方^江被指

戻候由

一泰源院様明三日八ツ時泰安寺^江御仏詣之旨隅田様^ハ申来り御道筋

掃除御先払差出ス

一御用所面謁^并役儀神文之事大目付^ハ被申聞候

三日 御用場出席

一御用場於大目付役儀神文立合後藤清藏以田藤助尤麻上下着用

一於御用席御家老御年寄中面謁大目付同道尤裏付上下着用

主計殿鞆負殿理喜藏殿兵庫殿一学殿右五人相濟ム

一木知^ケ原御番所^江遣候印鑑久世陣屋^江近来指越候儀^二付今般役所印

自分印式ツ遣し可申旨及御沙汰候右飛脚之儀御勘定奉行^江申達候

大目付中^江も申達ス

一今日被召候面々左之通

大御番頭格三拾石御加増郷中惣吞込 三木甚左衛門

大御番組但勘定所^江詰

岸権六

大役人壱石御加増

下山六次郎

一石名平太兵衛町奉行所付相勤候様^二支配頭^江被仰渡候左様相心得

可申旨渡部惣馬被申聞候

一江戸表御役御礼状認御奏者所^江指出ス

一勝間田町大屋仁左衛門大坂^江奉公^二罷越度願承届ル

一堺町小林山城借屋左助家内四人公領香々美大町村^江引越願御用所^江

申上承届ル

四日

一 大年寄^并惣町戌歳暮亥之年始指上物代金書付江戸表^江相廻候三木伊平太^江被指越則忠兵衛^江相渡ス

五日

一 木知^江原御番所^江遣ス印鑑壹枚久世御代官所^江書状相添指遣ス
此兩判内御引合御通シ

候様被仰付可申上候文意

状留^ニ有之

印鑑
□○ 津山
町奉行所

一 小桁御番所石丸紋吾^江右印鑑指遣ス

一 斎藤孫右衛門悴巳之八播州細月^江罷越十日計逗留願置候処今四五

日日延断書出ル

一 中之町住屋喜七借屋磯右衛門家内式人人別離久世村^江引越願御用所^江申上承届ル

六日

一 同心組三船孫八番代悴磯八申付ル

七日

一 斎藤巳之八播州^江罷帰ル届有之

一 二階町嶋屋藤吉ねちわく細工手伝人加古川五郎三郎長治郎五月中

旬迄指置申度旨断書出ス

九日 御用場出仕

一 安岡町五大夫聳加兵衛帰住宅願申出御伺申上相濟候大目付中^江申達^一「最初御存無之事御日記」留ル^ニ不及旨渡部惣馬被申聞候右

願之通申付ル

一 万人講建札之儀申出候及御沙汰三木氏^江対談郡代中^江手紙遣ス日限之儀岸権六承合候様申付ル

一 山岡与左衛門元長屋者忠助事御尋被成吟味之上重^而可申上旨御答^ニ及

一 大年寄三人札元四人改致面謁吸物盃事故^者致ス組之者^并牢番足輕三軒屋番人罷出盃事故素飯吸物御酒出候

十日

一 二宮社地見せ物今日切相濟組之者毎日指出無滞相濟候旨御用番大目付手紙届ル

十一日

一 中之町作人平次郎家質願出承届ル

一 一宮市町触書指出ス

一 一宮市町参懸り軽業拾式人連吹屋町矢原屋長兵衛世話やき仕度旨願書出ス

十二日

一 堺町三津屋平左衛門備前岡山^江往来十日之逗留罷越度旨承届ル
一 坪井町桔梗屋庄右衛門院庄村神戸村宿米滞追訴指出郡代所^江相廻ス

一 美濃職人町三好屋三郎兵衛大坂^江引越願書及御沙汰申付ル

十三日

十四日 御用場出仕

一 万人講十月十五日日限相極候旨申上ル

一雲州百姓強動之儀有之由往来者承合候様被申聞候大年寄^江申付ル
一中之町引越本証文出ス

一細工町左官源三悻源右衛門去ル六日罷出相見へ不申兼々不行跡^二
付義絶勘当願書及御沙汰大目付中^江も達ス

十五日

十六日

一茅町研屋平蔵借屋鞍馬屋文助家内四人二宮村忠三郎借屋^江引越度
願郡代所申合聞届ル

一東新町五兵衛借屋作人勘助家内三人林田村弥助借屋^江引越度願郡
代所申合廿三日申付ル

一書役川端円六事栗田氏^江罷越及対談

十七日

十八日

一山岡与左衛門元長屋^二罷在欠落致候以後夜陰与左衛門屋敷^江這入
罷有候忠助と申者去ル十四日伺相濟今日出牢御領分追払申付ル我
等於宅申渡ス古城御境目^江送ル

十九日

一川端円六改致目見書役^二召抱ル

廿日

一京町堺屋善七悻山三郎三年前大坂^江年限罷越此度帰宅断書出ス
一西新町辰巳屋平八借屋^江林田上町九八借屋文五郎と申者指置申度
願郡代所申合せ廿二日承届ル

廿一日

一堺町小鳥屋治郎右衛門宿切手大坂北久宝寺町大和屋源七手代儀兵
衛宇兵衛小間物風壳初^而罷越候旨申出ル

廿二日

廿三日 御用場出仕

一寺田治助亡父伝助^江被下候御扶持方之内五人扶持被下候旨於対談
間一学殿被仰渡大目付立合於私宅寺田治助玉置忠兵衛同道罷出右
之段申渡ス尤忠兵衛方^江同道罷出候様以奉書申遣ス御用番手紙^二而
御届申遣ス

一小性町年寄役田戸屋惣十郎^江今日大年寄於宅申付ル

一銀之助様二宮辺^江御出被遊候旨沼田様合為知手紙来ル御帰筋町分
存知候様大年寄^江申遣ス尤御先払^者先格之通不出事

廿四日

一東新町皆木屋文右衛門借屋丸木屋甚兵衛家内六人林田村弥三郎借
屋^江引越度願郡代所申付承届ル

一堺町三津屋平左衛門弟善蔵備前国児嶋郡八浜油屋嘉兵衛方^江養
子^二指遣度旨承届ル

廿五日

一美濃職人町三好屋三郎兵衛大坂引越願承届候^二付中女老人小女三
人小桁木知^ケ原御番所女通切手指出シ裏印致遣ス

廿六日

廿七日

一鍛冶町鍛冶屋治左衛門年寄役免之願出ス
一福渡町重屋治右衛門年寄役免之願出ス

一坪井町浜野屋利三郎林田町平福屋嘉兵衛致来り古道具取売相止候
付致度旨願出承届ル請人宮脇町土佐屋金十郎

一京町北村屋庄八河原町大工平七致来り古道具取売相止候付致度旨
願出承届ル請人京町仕立屋新助

一三丁目若本屋茂次郎小性町浜田屋善六仕来り古道具取売相止候付
致度旨願承届ル請人今町浜屋文六

一上紺町神目屋長右衛門美濃職人町乗物屋文藏致来り古道具取売
相止候ニ付致度旨承届ル請人下紺屋町原田屋利助

一会所ニ有之候闕所物普請取懸候付片付候様申来り権六文六指出シ
片付置書付有之

廿八日 御用場出仕

一三丁目兵庫屋喜助弟伊兵衛之出入截許書之趣御用所詰之伺吟味次
第可申付旨被仰付

一石名平太兵衛例年之通一宮市町可指出之旨伺之相済ム
一本覚寺入仏并説法之建札東西橋江出度旨寺社取次から申聞御用所江
申上候大目付所江も申達ス大年寄江申渡ス

一細江藤右衛門長屋出火火元江罷出ル早速鎮り門長屋焼失御用番御
届罷帰ル

廿九日

一中之町藁屋藤吉借屋徳助御中間奉公罷出候願承届ル者人人別除
一中之町佐渡屋伊右衛門借屋左助御中間奉公罷出度旨者人人別除

晦日

一石名平太兵衛一宮市町江罷越賄之儀平井半平江申談候処大沢三平

一所ニ罷越候故中嶋定八宅支度済申様相聞御賄料出候様ニ不相見
由被申候追而評議之上取計可申旨先賄者致候様ニ立宿江可申付義被
申聞候一小勘者吉田文左衛門江平太兵衛御貸人中間者人被指越候
様申遣ス

五月 御用番

小須賀一学殿

大目付月番

村山平学

大年寄月番

斎藤孫右衛門

朔日

一石名平太兵衛例年之通一宮市町江出役

二日

三日 御用場出仕

一市町後より非人加廻り申付候様可仕之旨及御沙汰大目付中江申達
一町方火之元入念候様可申付旨御家老鞞負殿御指図ニ而一学殿被仰
渡候大年寄江申渡ス

一市町後触書両通大年寄江相渡ス尤例年之通相触可申旨申渡ス

四日

一福渡町年寄重屋次右衛門願之通役義指免ス大年寄宅において申渡
ス

一鍛冶町年寄鍛冶治左衛門願之通役義指免ス尤鍛冶頭者其俣相勤候

様申付ル

一 一宮市町江同心組毎日指出シ今日切引払相済見届罷帰ル御届先格不申上候

五日

一 当日為祝儀内山下其外所々廻勤

六日

一 平井半平入来昨夜二宮村ニ而清八と申者出火候安岡町人別ニ而作者之由御届之儀相談有之候ニ付町分遂吟味候処安岡町久米屋清八と申者去ル卯年双方江相願出作安岡町人別ニ而有之ニ付火元慎之儀御用番大目付所御届申遣ス出火之様子者郡代所被相届候右平井半平申合せ取計候

一 寺社取次村井六之丞手紙一宮鳥井石近日町筋為引可申旨案内有之大年寄江為知置候

七日

一 銀札場奉行中手紙到来錢百四十箇船式艘ニ而川下札元川手形両通被指越裏書致印形差遣ス

一 福渡町平治家内四人大坂江引越願及御沙汰大目付所江達ス

一 堺町小嶋屋治郎右衛門願出候大坂北久太郎町堺筋「一」屋理兵衛と申者小間物売初而罷越宿仕度旨承届ル

一 小性町福升屋長七願出候中之町藤屋伊助致来り之古道具取売此度相止私仕度之旨聞届ル

一 新魚町ニ而福渡町重屋治右衛門家屋敷表口三間半裏行拾壹間代百匁魚屋庄右衛門江売渡申候承届ル本証文出ス

一 西新町舁屋嘉平治弟長十郎江銀借無心申候処不得心ニ付嘉平治年

寄方江參り長十郎江罷越存寄有之旨理不尽之儀申ニ付大年寄江断出依之先町内五人組番付候様申付候旨申出候之間九日御用所江及御沙汰呼出シ理開申候様申渡候処翌日嘉平治酒給醉不調法申候段誤り申出候間大年寄方江嘉平治長十郎呼出呵可申旨申渡ス年寄共卒忽申出候段是又呵可申旨申付ル

九日 御用場出仕

一 御用所ニ而一学殿被仰渡候寺田治助江先達而名字指免候哉右申渡年月改可申上旨被仰聞候罷帰遂吟味候処酉ノ十二月親伝助上方筋御用出精相勤候ニ付其方名字指免向後屋号相止可申旨先役申渡之趣書付一学殿江持參指出候

一 大目付所被申聞候衆分座頭何と申拾授弟子学文何拾授支配候哉承可申聞旨右江戸表申来候旨早速大年寄配當場呼出シ遂吟味可申出旨申渡ス

一 中市屋惣助大坂表において主計殿御出坂御役人名字指免式人扶御加扶持被下候旨御用番一学殿被仰渡候右之段吹屋町年寄江申渡候様大年寄江申付ル

一 先達而御仕置相済盗人諸事之道具牢屋敷内ニ堀埋メ捨可申旨御伺申上御聞届相済ム

一 本源寺江出火之砌欠付候町人別先日間違候而出不申候由寺社取次被申聞以後入念罷出候様大年寄江可申付旨申渡ス

一 勝間田町福打屋市左衛門方江林田上町湯本甚七妻借屋与兵衛与申者引請申度旨郡代中申合承届ル

十日

十一日

御領分在中衆分

一去ル辰之歳ハ申歳迄町家売式拾歩一銀札并ハ關所銀牛井半平ハ送り

書付左之通石名平太兵衛持參請取申候右欠枚請取相認遣ス

一 壹貫六百拾三匁六分六厘廿歩一銀役所
入用遺殘

一 四百五拾七匁八分八厘式毛
遣イ殘リ

一 錢壹貫文

福渡町
過料銀

右之品々大沢三平ハ上納可相濟銀札之処今般被引渡候存寄之趣難

請取段平井氏江申談候処石名平太兵衛申聞候旨佐久間兵右衛門殿

江戸ハ御帰被成候而御指図有之等故三平延引被致之旨達而存寄申候而

ハ当り障りも相聞候間先請取置申候

一 津山領衆分座頭書付配當場城正ハ指出ス

備前岡山阿部拾授弟子

備前石原拾授下津山堺町住居仕候

古都

津山桶屋町衆分城常弟子江戸細谷

城秀

拾授下津山元魚町住居仕候

津山桶屋町衆分城常弟子江戸細谷

拾授下津山福渡町住居仕候

城保

作州西北條郡一宮村衆分城古弟子江戸

城正

細谷拾授下津山紺屋町住居仕候

一 宮村城古弟子江戸細谷拾授下

香々美市場村住居仕候

城喜佐

森瀬勾当弟子備前石原拾授下

右川都

東南条郡高野西村住居仕候

右之書付江戸表ハ申来候旨大目付中被申聞十四日大目付所江指出

ス

一 安岡町若木屋六右衛門後家家売願書南側表口式間裏行拾間代百匁

買主同町井手屋茂市承届本証文出ス

一 細工町弥七借屋忠助正月六日逐電行衛相知不申旨御用所及御沙汰
人別除

十二日

一 大盤若就御執行六ツ時登城芥子之間江相話ル御禱祈無滞相濟ハ御

家老御年寄退座以後御奏者番ハ順席ニ致拜礼候御用所江大目付跡江

差統罷出無滞相濟恐悦之旨申上ル御札三枚勸者ハ相廻ル外ニ拾枚

請取組中江遣ス

一 安岡町久米屋清八出火火元慎今日御伺申上差免ス御両者江届手紙

遣ス二宮村出作人故郡代中江為知手紙遣ス

一 材木町ハ注進宮川水門之内練綿俵相見申候旨断出候大目付村山平

学^江罷越及対談可申処他行留守^二而及文通御用番一学殿^江罷越大目付申合遂吟味近町^江預置可申旨被仰渡候御徒目付中沢曾右衛門下目付本沢伝八同心組藤森権六室井政治立合遂見分材木町年寄^江預罷帰ル印等書付置候事

十三日

一右綿俵本主相知候ハ、可申出旨惣町^江觸候様大年寄^江申遣ス

一中之町作人平次郎家質人委細本帳^二有之略之

一船頭町高瀬屋勘右衛門去ル九日之夜繰綿舟積仕候内壹本致紛失候書付出ス遂吟味印等書出候様申付置候追^而相伺本主相違無之故右之綿相渡遣ス

十四日 御用場出仕

一服部弥左衛門棒術稽古有之候

一伏見町鞘師平左衛門今日使組^二被召出候大目付中^ハ為知有之大年寄へ申達ス町内年寄^江も為知候様申付ル以後之例難成様に大目付中^江申達置候事

一銀之助様火業御見物七ツ時御出被成候旨御道筋隅田族^ハ申来り右町々^江為知候様大年寄^江申遣ス

十五日

十六日

一三丁目藤本屋勘兵衛願院庄村去ル酉歳宿賄米五石壹斗三舛相滞候旨願書指出郡代中^江相廻ス

一材木町七兵衛大工政治借屋^二居申候処此度金田伊内長屋^江引越度旨承届ル

一吹屋町作人宇兵衛家北側表口三間半裏行六間半但半役也代百匁^二相極町内木屋喜助^江壳渡申度旨

一京町茶屋清右衛門断書越中富山忠右衛門加右衛門例年之通当十月迄召抱置申候旨申出ル

一福渡町小紋字屋茂市年寄役免之願出ス

十七日

一牢舎人扶持米六俵請取書致奥書遣ス

一橋元町黒茶屋虎吉小家杯^二而罷在候之處此度出入奉公罷出度旨大年寄内意申出候人別除奉公^二罷出候者^二家主^二而^者町法相背ケ申^二付家屋敷いか様共片付候^而願可申旨申聞ル追^而讓家吉野屋勘六^江讓度旨申出願承届遣ス

十八日 御用場出仕

一服部弥左衛門出業有之

一銀之助様御見物御出之遊例之通族^ハ申来ル大年寄^江申遣ス
一三丁目有元屋願書郡代平井半平^江相渡筋立候様被仰付可申旨申達ス

一福渡町年寄茂市願之通役指免ス跡役坪井町浜野屋宗兵衛浜屋源右衛門兩人^江申付ル尤大年寄宅^二而廿日に申渡ス

一備前松平内藏頭殿初入聞合大年寄^ハ岡山和田屋八右衛門^江頼遣置候処来月四日御城着之旨申越早速大目付中へ申達ス

十九日

廿日

廿一日

一京町晝屋伊兵衛願下高倉村文吉と申者私由緒御座候付引請住宅仕
せ度旨郡代中江申合ス

一伏見町辻屋市郎兵衛家売表口三間裏行拾式間五尺代三百六拾匁同
町田邑村治助江売渡申候本証文出ル

廿二日

一銀之助様河辺江明廿三日御出被遊候申来り例之通大年寄江申達
ス

廿三日 御用場出仕

一愛宕山威徳院使僧福田養元江大年寄江申来候当春於宿坊火災消
除大願護摩執行然処資縁料無之ニ付助力を以三年之間日々抽丹誠
候付御寄附被下候様申出候旨孫右衛門申聞候惣躰勤化之儀者難成

事ニ候得共愛宕之儀只今迄兩年ニ一度宛惣町江金三百疋ツ、辻ニ而
取集初穂出来候古例ニ付並之通ニ難申聞右之訳御用所江申上町々ニ而
少々ツ、心次第取集遣候様可申付旨伺相濟大年寄江申聞ル追而銀
式百目余町々々集り忠兵衛方江預り追而愛宕威徳院使僧罷越候節
可相渡管候

一中市屋新十郎江先達而為礼書状家来宛ニ而指越ス書役円六江返書
遣ス塚田新十郎と改号之由

一夜半時御用番一学殿江罷越候様申来り罷出候処大目付村山平学立
合被仰渡候今日河辺江銀之助様御出被成候処押入村ニ而帶刀致
候者退不申御先私申聞候処外無礼有之ニ付村内庄屋江預ケ置
候大隅社人片山修理弟乙治与申者之由ニ相聞候同心組指向ケ召捕揚
り屋江可遣旨被仰渡尤郡代平井半平江申合取計候様被仰付早速罷

帰同心組吉井栄内中山伝内挑燈巻ツ尤大紋字付持夫兩人町方江申
付指遣ス夜中罷越召捕罷帰ル夜明方牢屋江直ニ遣揚屋江入置尤御
届御両所江申遣ス弥社人片山修理弟乙治と申者常々狂人之様ニ相
聞候寺社取次中江為知手紙遣ス尤賄者修理江指越候

廿四日

一右乙治口上遂吟味申上候様ニ一学殿申来り寺社方人別ニ無之旨取
次中江手紙来ル依之郡代之方人別ニ可有之間郡代ニ而吟味可有之
哉平井半平江罷越対談候処乙治先達而出入奉公人別除之後人別入
不申様相聞候存寄無之間此方ニ而吟味可申旨挨拶ニ付於牢屋吉井
栄内中山市左衛門書役川端円六指添遣し口上承之処取メりも無之
申分ニ而候間書付御用番江指出候

一惣町溝筋為見分組之者大年寄如何罷出ル

廿五日

廿六日

廿七日

一船頭町高瀬屋勘右衛門被盜候線綿俵印等吟味之上相違無之ニ付本
主勘右衛門江相渡可申旨御用所伺相濟今日材木町年寄証文取可引
渡旨申渡ス右相濟候趣大目付中江届ル

一佐渡守様御通行之節御通筋罷出候面々被下物名面相違之訳承合本
陣江遣候処右返書到来

廿八日 御用場出仕

一拙者御役義格式之御礼指上物江戸表江指出候返書御奏者村山左仲
三原金太夫江到来

一御用番一学殿於対談大目付立合被仰渡片山乙治儀乱心相聞候間兄
修理御預被成候寺社^{奉行}取次中江引渡可申旨被仰渡候

一寺社奉行中取次中江及対談候之処修理儀戸メ被仰付候間御意之上
困等用意其節御案内可申間夫迄牢内指置度旨被申聞候故其段御用
番大目付御断申達置候

一去辰歳分申歳迄町家売式拾歩一銀先役遣ひ残之分壹貫六百拾三匁
六分六厘拙者封印俣御金奉行預置申候尤手配有之勘定奉行及内請
候事

一船頭町福本屋清六和泉屋清助木屋理右衛門加印姫路屋伝藏右之者
共呼出申渡ス銀札場札元分借請候銀札遲滞候旨不埒之事候急度筋
立可申候三十日日切申付候旨申渡ス

一佐渡守様御通之砌被下物菜崎甚八分返書之通大目付及対談夫節指
遣ス

一金式百疋
町奉行ニ有之分火之廻り
磯野伊兵衛江被下

一同式百疋
御郡代ニ有之分金井
伝七江被下

一銀壹枚
御使者ニ有之分大沢
三平江被下

一金百疋
御船役人ニ有之分御先私

式百文ツ、被下候
同心組三人御持組壹人
御族 組壹人

右夫々江式百文ツ、遣ス

廿九日

一六ツ半時茅町出火早速火元江罷出候御用番一学殿大目付村山平学
郡代平井半平罷出ル昼時鎮り御用番御届帰宅
一家数拾五軒間数南側合三拾九間余火元香々美屋友治借屋左七八十
七尤慎申付ル

六月

御用番
小須賀一学殿
大目附月番

太田舍人
月番
藏合孫左衛門

朔日

一今日初而面謁諸吟味役戸田市郎左衛門伊勢屋長右衛門御藏元伝藏
右致盃事候御藏元平藏大坂留守不罷出
一町々年寄初而逢候尤孫左衛門名披露三四人ツ、罷出ル

一 役付後触書指出不申付別紙触書帳之通相触候事
一 例年之通東西橋にて涼不申様ニ触書出ス

二日

三日 御用場出仕

一 茅町出火元慎之者日数七日程ニ而指免可申旨御伺申上相済ム

一 鍛冶町ハ申出候今泉和平治手鑑釵被申候先達而伺無之而者調遣
間敷旨一統被仰付候付伺出候仍而大目附中江及相談勝手次第申付
候

一 中之町年寄前々三人有之処兩人ニ而用事指支候旨内意申出候依之

米屋八兵衛年寄役申付ル

一 鍛冶町年寄大和屋与四郎江申付候

一 西新町富倉宗也家内四人林田上町徳兵衛借屋江引越度旨願出郡代
所申合承届十日申渡ス

一 堺町小島屋治郎右衛門願大坂天満基盤屋安兵衛御当地出入為仕度
私宿仕度旨願之通承届ル

一 元魚町浜岡屋甚七願伊丹屋七郎兵衛所持自国請酒株戌三月御断申
上当亥三月迄借請候又々来子四月迄借請申度旨承届ル

四日

一 中尾幸助罷出御城山枯木作事ハ伐候旨断出ル

一 二階町安東院痲瘡守護神来ル七日ハ燈明指上申度尤寺社御役所江
も御願申上候旨断書出ス

五日

一 市村数馬殿今曉死去

一 伏見町南側ニ而作人佐平治家表口式間半裏行拾九間半代式百五拾
匆二階町大工伊兵衛江壳渡申度旨承届ル本証文出ル

一 鍛冶町鍛冶屋吉右衛門夫婦戌十一月甲州身延山江參詣道中病氣罷
帰不申付五十日日延悴梶兵衛ハ申出ル

六日

一 林田村百性平兵衛伝右衛門郡代所ハ牢舎申付候旨申来り牢手形来
ル早速組之者卷人会所迄指遣し入牢賄村方ハ指出ス右御用番大目
付届手紙遣ス右取計御用番一学殿御伺申上候

七日

一 茅町火元佐助八十七慎今日指免ス御用番大目附江届手紙遣ス

一 出火之節町々詰場間違有之付大年寄宅江町々年寄呼出シ火事場之
外罷出候町々者引取候節役所江年寄罷出相届可申旨申渡ス

一 下紺屋町不動院祇園御戸開来ル七日ハ十四日迄致候旨尤寺社奉行
所江相願候段断書出ス

一 東新町西新町願出候林田上町惣水拔溝并下河原溝尻所々埋り大雨
之砌町筋江越水流レ銘々内庭江入込難儀仕候水浚被仰付可被下旨
願出郡代所江申談中町勝間田町同断

八日

一 鍛冶場舟渡し満水留り候段申出御用番大目附中江御届申達ス

九日 御用場出仕

一 鍛冶場舟渡し今朝ハ往來致候旨大年寄申越於御用場申上ル

一 伏見町作人治兵衛後家船頭町高瀬屋勘右衛門悴勤兵衛後家養子離
縁家造作料取戻し可申及出入遂吟味候趣裁許書之趣御用所江委細

申上候吟味次第被仰付大目付中^江趣意申達候

一 座頭共来ル十二日廿日兩度之御供養御布施頂戴仕度旨申出御用所^江

申上候被下之旨被仰渡御勘定奉行中銀札場取替有之様^ニ御申達被下候様申談尤先格右大年寄^江申渡ス

一 橋本町黒茶屋虎吉願書同所黒茶屋長三郎家屋敷表口六間式歩五厘裏行拾七間御役老軒半之処去西四月長三郎と出入罷成候式割^ニ被仰付寅年迄^ニ長三郎相渡候様被仰付右半分之内老間七歩五厘西四月請取残り^者寅年迄^ニ請取申候様被仰付候然処右家屋敷町内吉野屋勘六^与申者由緒御座候付相讓申度旨願出候段々入念遂吟味候処讓り家と申例有之候得共親類或ハ家来^江讓り格別諷町内^ニ而も無扱儀承届候^而願書候事一通り^ニ而ハ不相成候得共虎吉事奉公^ニ罷出候旨内意相聞候無扱詆之由申付種々評議之上格別^ニ承届候以後之例^ニ難相成事

一 大目付中廻状来ル十二日惇信院様七回御忌於泰安寺御供養被仰付候同廿日有徳院様十七回御忌於地藏院御供養被仰付候此段為相知候様被仰出候右組之者^并牢屋三軒屋番^江相触候

一 右^ニ付町方触書指出ス火之元自身番申付ル

一 当日西大番所今町端^レ江為固同心組兩人指出ス

一 今日被召候面々左之通

大番頭格渡部惣馬郡代格式番外栗原新五兵衛御藏奉行河井円左衛門御金奉行近藤伊左衛門中奥目付堀江左膳御藏目付青木浅之進中奥組^ニ被召出候五人扶持ツ、被下服部弥八細江武助山岡藤治山田倉太柴山熊藏^ノ五人再養子被仰付藤掛奎右衛門養子被仰付勾坂治

五右衛門

十日

一 目扶持非人扶持五月分手配兩通指出致奥印大年寄^江相渡ス

一 牢屋^江組中山伝内神田権兵衛指越^{□□}村穢多番治郎兵衛代り家来権兵衛去ル八日林田村入牢者伝右衛門^江宅^ノ酒たはこ取次牢内^江入遣候由丹物も可有之哉牢内一々相改候処丹物^者無之候得共法度之物入遣候儀不^レリ其分^ニ難成穢多頭九郎右衛門太兵衛^江右兩人^并相番穢多太郎兵衛長吉勘四郎治郎久右衛門^ノ五人以上七人穢多頭^江預ケ候段郡代中^江御申付被下候様申送ス尤牢番^ノ穢多頭直^ニ申渡候御精進日打続候間先預申付置候

一 江戸御普請役明日御城下通行候旨村方^ノ申出候由御郡代平井半平^ノ相談有之候町在申合取計候在分ハ庄屋案内町分^者掃除保頭先扨申付候

十一日

一 江戸御普請役林忠助大野権治郎四ツ時過通行右御用番大目附^江届申遣ス

十二日

一 惇信院様有徳院様御供養御布施座頭共^江被下今日頂戴兩応分遣ス例之通組之者罷出ル銀高式貫式拾四匁委細別帳有之

一 大坂御役人広瀬義平山田隼太^ノ書状来ル坪井町本屋七郎兵衛^江大坂新斎橋木挽町吉文字屋市兵衛と申者書物代滞銀式貫四拾八匁有之去九月先役申来り七郎兵衛返濟方申渡候追々相濟残り老貫式百八拾八匁余有之今度追願書市兵衛^ノ大坂御屋敷迄指出候不被触候

得者御番所^江訴出候積り左候得者公刃乍飯初不安儀御楽^ニ取計^ニ而相濟度由申来り御用番及御沙汰本屋七郎兵衛筋立候様申渡ス

十三日

一町医師名面帳大年寄^ハ出ス

一林田町山本屋与^之七入湯願承届ル

一京町種屋平当八拾式才罷成及老年無縁之者^ニ御座候付及飢候之

旨町内組合願書指出ス十四日於対談間一学殿^江御内意申上候処思

召被仰聞去年米三俵被下候節委細先役三平^江被仰渡候由何角六ヶ

敷相聞候先延行於町内致世話候様^ニ大年寄^江申聞候

一細工町治左衛門願香々美円宗寺村佐七郎悴伝藏当亥四拾七才妻四

拾式才夫婦借屋^江引請度旨郡代中申合承届ル

十四日 御用場出仕

一於対談間一学殿御尋被成候大年寄^并札元帯刀之訳被仰聞候得と承

知可申上旨退

一牢番穢多治郎兵衛取計之儀御伺申上委細末^ニ有之

一坪井町本屋七郎兵衛^江大年寄宅^ニおいて吉文字屋市兵衛方^江書物

代滞銀相払候様申渡ス右申渡候段大坂御役人広瀬義平山田隼太^江

返書旁申達ス

一東新町豊野屋宗孝借屋福嶋屋文右衛門林田上町太七借屋^江家内式

人引越申度願郡代所申合承届ル右願書家主名印無之指出候付向後

家主名印有之様申渡ス

一安藤鞆負殿近々江戸御発駕^ニ付為御暇与致伺公懸御目候

一座頭共被下物員数書付御用席^江申上ル大目付所^江達ス

一徳守夏秣^ニ付如例組之者兩人夜分指出ス

十五日

一石名左五兵衛小頭^ニ申付ル其方亡父左五兵衛先年小頭^ニ可相成筋

之処尤内々断申出平太兵衛^江小頭先役被申付其筋亡父存奇奇特之

至候其以來出精相勤候跡之儀今般其方小頭申付候間万端入念可相

勤候

一大年寄札元四人帯刀之訳書付出ス

一大年寄三人宝曆九卯五月十四日帯刀御指留他所他領罷越候節勝手

次第致帯刀候様被仰付候同申三月屋号御指除名字計相用就御用郷

中^江罷越候ハ、帯刀可仕旨被仰付候

一札元四人宝曆十辰三月廿八日三人札元役被仰付三人扶持被下門松

相印御免宝曆十一巳十月三日市右衛門藤十郎名字御免被成三右衛

門^著前々々名字相名乗候尤式人扶持御増被下候宝曆十四年申三月

朔日屋号指除名字計相用就御用一宮市町^江出勤之節帯刀御免

一茂渡藤右衛門明和三戌十二月十四日札元手伝被仰付三人扶持被下

置門松相印御免被仰付亥二月札元並^ニ被仰付五人扶持被下名字御

免被仰付候

右之趣書付指出候処札元他領他国^江帯刀御免之旨書付出候付申渡

帳先役日記相改候処一宮市町計^ニ而他領他国之儀ハ御免無之候心

得違之儀と相見候其段札元へ申渡候様大年寄^江申付ル

一二階町山手屋弥右衛門家守吉右衛門借屋四郎兵衛断出候悴文治郎

去ル十二日夜四ツ時同町三木屋彦右衛門前^ニ而小脇指拾ひ申候御

註進申上候旨書付出ス年寄^江預置伺之上町内関貫^江落主有之候

八、町内年寄^江断出候様張紙為致候

一三船磯八今日請状相渡候見届川端又六請人吹屋町作人治郎吉

十六日

一〇〇村穢多治郎兵衛儀今日牢屋^江呼出郡代下代神西作兵衛組金嶋

喜代治立合手錠申付ル穢多頭^ニ預ル相番穢多共呼出此度旨令用捨

以後入念候様申渡候御用番大目附^江御届申遣候尤村庄屋儀兵衛罷

出ル家来権兵衛儀^者端夕奉公他領人別之者之由相聞候不及貪着主

人治郎兵衛答申付ル

一三木甚左衛門蓮葉入札之事申来ル触書認大年寄^江相渡ス

一有徳院様十七回御忌就御供之節自身番火之元之儀触書出ス

十七日

一片山修理弟乙治儀寺社方請取度旨案内有之今日出牢於牢屋修理^江

御預被成候旨小頭左五兵衛罷出申渡ス修理^江相渡ス道中寺社取次

依願組之者指添尤手錠之儀修理宅迄送り遣ス中山伝内神田権兵衛

罷出ル寺社足輕植月元右衛門罷出ル尤大小笠紗籠相渡ス元右衛門

請取書指出ス御用番大目附^江御届申遣ス

一寺社取次中^江出火之節^{三ヶ}寺妙法寺出人足書付相認遣ス文言帳面

之通

十八日 御用場出仕

一明日鞞負殿御発賀^ニ付今御退出之砌御奏者大目付中同様^ニ御通筋^江

罷出御暇与可仕候前格之由三木氏咄^ニ而承候郡代中申合可罷出旨

大目付中^江内々噂申候処鞞負殿^江御申候処先今日ハ無用^ニ被仰聞

候重^而御指図有之筈也

一退出之砌鞞負殿玄関迄罷越口上申置罷帰ル

一来ル廿五日暑氣伺御機嫌御帳付候旨御奏者番中ハ廻状到来

一二代共在中^江罷出殊出火之節踏込着用申旨敷立付ケ着用可申旨郡

代中御代官三木氏大目附を以被仰渡有之候当役^江御沙汰無之

一御用番一学殿於対談間被仰渡茂渡市右衛門当春以来御勝手向至^而

致出精候^ニ付他国他領尤就御用在分^江罷出候節帯刀免之候立合大

目附太田舎人

一茂渡市右衛門同道我等宅^江罷出候様大年寄孫左衛門方^江申遣ス右

之趣書付申渡ス立合石名平太兵衛小頭大年寄罷出ル

一伏見町小坂屋善治願本多惣太夫組奉公相勤申度町内人別指除度旨

承届ル但井上善治と改筈右願書家主名印無之付認差出不申旨申付

ル以後右之通家主印形右之様申渡ス

廿日

一西新町永野屋安之丞姉さち同娘とく召連東北条郡太田村源助妻^ニ

遣度旨郡代所申合承届

一武步中買名寄帳造酒株帳請酒屋名面書付指出ス

廿一日

廿二日

一銀之助様加茂川辺^江御出被遊候旨隅田族分爲知手紙到来大年寄^江

申遣ス

一宮脇町福松屋和七大坂上町津田屋平六方^江当亥分丑歳迄身上持返

留仕度旨承届ル

一二階町四郎兵衛棗先達^而拾ひ候脇指新魚町古道具屋嘉助落し申

「一」色目書付引合相違無之ニ付相戻し可申哉之旨断出候メリ書付取之相渡可申旨申渡ス

御用番大目附所^江も申達候

廿三日 御用場無之

廿四日

一新魚町魚屋平六後家家屋敷表口三間裏行拾貳間代百五拾匁買主同町三笹屋市兵衛本証文出ル

廿五日 御用場出仕

一暑氣伺御機嫌御帳付辰之中刻出仕

一御堀掃除日雇賃百三拾匁大年寄指出御作事^江相廻ス請取手形来ル則孫左衛門^江相渡ス

一会所^江町奉行罷出候事御用向無之ニ付相止申度旨太田舍人を以伺申上候処以後不及罷出旨被仰渡候

一一学殿於対談間被仰渡先達^而申立之寺町類火之者共御手当被下候勘定奉行^江も被仰渡候銀札三百目被下候

一清水友斉御次坊主被召出候旨大目附を以被仰渡候御勘定奉行^ハ呼出申渡候様被仰付之旨依之太田舍人へ存寄申達候友斉儀町人別ニ

御座候間被召出候迄^者町奉行^ハ申渡候筋ニ奉存候先達^而鞘師与左衛門使組被召出候是以一通り為御知計^ニ御座候是等^者組奉公之儀

御座候頭^ハ召抱候筋故与左衛門^ハ町奉行所^江願出申筋^与被存候段申達候処早速御用所^江罷出被申上候得^者此度^者先其分^ニ相済シ可申

以後^者御評議之上町奉行^江被仰渡旨一学殿被仰聞候旨舍人被申聞候依之大年寄^江友斉御次坊主被召出候旨町内年寄^江申聞候様申渡

ス

一馬持共拝借大豆如例年願書指出言人大豆貳俵ツ、拝借被仰付候尤大目付所達勘定奉行中^江も申談

一新魚町^ハ吹屋町^江通西側海老屋伊助裏通紙屋七助家屋敷代百貳拾匁同町海老屋伊助^江壳渡申候承届ル本証文出ル

一歩中買名寄帳指出ス

一大坂広瀬山田^ハ先頃之返書来ル

廿六日

廿七日

一三丁目兵庫屋喜助訴訟之儀相手同人弟船頭町同人家守伊兵衛喜助妻之親船頭町高瀬屋惣右衛門家屋敷之儀及争論去戌十二月先役大

沢三平遂吟味置候趣を以先頃御用所御伺申上候右之家名代替之断不申出不届^ニ付家屋敷役所^江取上双方^并年寄五人組呵申渡ス惣右

衛門血筋之者候ハ、右之家相続可申付遂吟味候得共親類無之付右之家町内組合^江遣候旨兼取計可申旨申渡ス尤大年寄及指図不申間

伺取計候様申付候家売候ハ、三步当り^者伊兵衛^江遣シ七步^者喜助^江遣シ可然候数年家守罷在候事弟之儀^ニ候得^者致和順家業大切致候様申渡候

一伏見町作人治兵衛後家船頭町高瀬屋助八悴勤兵衛後家養子致し此度致離縁候付家屋敷先達^而助八普請物入置候故普請料取戻し可申

旨申出候付持参金^ニ而も無之故戻し候様難申付右之家後家^江相渡候様申渡ス後家再養子之儀指留候旨申渡ス右^一ヶ条共^ニ今日呼出

書付を以申渡ス請書印形取之置候

一河原町若松屋幸吉借屋市兵衛家内三人広瀬渡守引越申度郡代申合承届人別除

一大坂谷町三丁目丸井大助と申医師西川屋重三郎方三十日計逗留為仕度旨願書出ス医師之儀御用所^江及御沙汰候

廿八日 御用場出仕

一銀之助様加茂川辺^江御出被遊林田町通又^者御船^二而御帰被遊候隅田氏^ハ為知例之通申付ル

廿九日

一茅町両度出火^二付困窮之者共及難儀可申趣拙者場合申立御聞届三百目御当年札被下割合を以相渡火元両人家主除之借屋之者四人^江老人^二付七匁ツ、遣ス表口四拾間程有之老間^二付七匁余ツ、遣ス彦六と申者ハ先年之出火後家伺候付割合並^ハ減委細米銀渡帳^二印ス

右大年寄宅^江町内年寄呼出シ為申渡候尤格別思召を以被下候以後之例^二者不相成事

一京町類族別条無之旨書付指出ス何方^江も不及届尤宗旨奉行中へ大年寄^ハ指出候由

晦日

一去十六日手錠申付置候□□村牢番穢多治郎兵衛指免之儀御用所伺相濟今日牢屋^江呼出郡代下代足輕此方同心組小頭石名左五兵衛罷出手錠差免ス右御用番大目付^江届手紙遣ス

一三軒屋中尾幸助罷出番所^三ヶ所共^二屋根痛御修復書付指出来ル^三

日大目付中^江指出候

七月 御用番

小須賀一学殿

大目附月番

村山平学

大年寄月番

玉置忠兵衛

朔日

一茅町両度出火事逢御憫今日大年寄宅^二而申渡ス委細書付渡之候請取書指出御用^二單子^一江入置

一大橋十太夫殿江戸^ハ帰着

一三軒屋両番所^并明番所共^二屋根洩り御修復書兩人^ハ指出ス

二日

一馬持拜借大豆証文致奥印遣ス

一座頭被下物十二日廿日両度之銀札請取手形致奥印遣ス

一船頭町和泉屋木屋福元屋来ル十日比呼出し可申旨大年寄^江申聞候

三日 御用場出仕

一十太夫殿御出席於御用席役替格式面謁肩衣着用罷出ル大目附同道尤早朝大目付中迄面謁之儀申達候老人ツ、罷出候

一銀札場借物滞之者共咎之儀先達^而伺置候処今日被仰渡相考取計候様被仰付候追^而咎之趣伺可申上旨申之退

四日

一 宗門帳印形取候寺院方出府書付大年寄指出シ宗旨奉行中_江寺院方_江御触被下候様手紙添遣ス

五日

一 宗旨改案文廻状到来順達

一 西新町山口屋留治郎家屋敷売願代七百匁同町飯綱屋源兵衛買主

一 船持共例年之通拝借米船壹艘ニ付米三俵ツ、都合百三拾八俵願出ル御聞届相濟候

一 船頭町作人平六四国遍路罷出度旨百日計逗留承届ル

一 河原町伝助家屋敷売願代九拾匁買主桶屋町作人喜代助本証文出ル

一 下紺屋町平屋忠七願坪井町本屋七郎兵衛持来古道具取売相止候付

私仕度旨請人新魚町平田屋利助

一 林田町神田屋伝吉不勝手付大坂萩柿町舛屋宗兵衛方_江当亥歳_ハ申歳迄十_ハ年奉公罷越度旨家屋敷_者福吉屋平七_江頼置申候

六日

七日

八日

九日 御用場出仕

一 京町種屋円平八拾式才病身罷成親類縁者も無之步行難成今日飢ヲ凌兼候仕合町内_ハ道々心付候得共米高直旁致方無之去年中米三俵被下置候此節迄も給統候得共最早給物も無御座及難儀候段去月町内_ハ願書指出御用番_江御用迄申上候処難渡委細去年先役三平_江談置候事毎度加様有之候_而者_ハ在中_ハ杯_ニも飢人之類も候事難被成之旨

被仰渡御時節柄と申達_而御歎も難申上又捨置候様難致筋候間拙者

了簡_ニ而闕所銀之内米三俵分五拾四匁為手當遣ス

一 来十四日御用場無之旨大目附中為知有之

一 浦賀御関所_江印鑑先々町奉行_ハ相廻候当時指越不申哉之旨被相尋候平太兵衛杯承合候得共相止候訳相知レ不申候当時_者不遣候旨及

返答候

一 例年之通私町廻仕候旨及御沙汰大目附所御貸人馬申達候小勘者_江も申談小頭大年寄_江も申聞候

十日

十一日

一 目明扶持非人扶持証文奥印致遣ス

一 御掘掃除人足賃式百八拾九匁分四厘内先達_而百三拾匁御作事_江相廻殘_而百五拾九匁分四厘大年寄_ハ指出御作事_江為持遣ス請取書来忠兵衛_江相渡ス

十二日

一 牢屋為入用式拾七匁六分牢番足輕請取書_并小手形持參右相渡遣ス

十三日

十四日

一 町廻り七ツ半時罷出大年寄三人諸吟味役兩人屋敷端迄罷出ル五ツ過罷帰ル何之別条も無之

一 配當場城山伯州三笹_江入湯願留守利之都頼置候旨_ニ付承届ル尤大年寄宛願書

一 新職人町村田屋七藏養子御使組高橋庄左衛門役介庄吉_与申者貫申

度旨願出吟味之上承届ル

廿日

一 町廻之刻船頭町年寄今津屋平藏不罷出付相尋申候処保頭申候者寺

参仕未罷帰之由申付不埒之儀大年寄忠兵衛江遂吟味申聞候様申渡

候処翌日書付指出俄眩瞬指起り保養致之内時刻延引仕不罷段不調

法之旨相慎罷在候旨口上吟味書指出尤大年寄之禁足申付置候由

一 吟噲屋利左衛門断出候先年六十六部笈質物ニ取候処其節右六部不

届有之捨置罷帰候依之預置候様被仰付久々罷成候壳弘申度申付勝

手次第申付ル

十五日

十六日

十七日

一 伏見町百万遍致候旨断出候廻り組之者申聞ル其外町々々同々申出候略之

一 三木甚左衛門被申聞候町作人御年貢吟味之節下代町方江指出シ負

人呼集不埒之者ニ者品ニ之手錠申度其節先達而御断不申手錠申付候

後御断可申達旨且又下代吟味ニ町内江罷出候節度々御断者申間敷

候旨被申聞候致承知候旨及返答

十八日 御用場出仕

一 銀之助様明十九日二宮辺江御出被遊候隅田族之為知有之御通町筋

へ無札無之様可申付旨大年寄江申渡ス

一 銀札場奉行中手紙到来役所錢八拾箱備前江積下候付札元川切手兩

通被指越與書印形致遣ス

十九日

一 伊達今右衛門備前岡山松平内藏頭殿初入為御怡御使者被仰付今朝
出立廿二日御使者勤之筈

一 明廿一日泰源院様泰安寺江御参詣御道筋掃除申付御先弘指出

廿一日

一 新職人町家持共連判年寄八郎右衛門儀ニ付願書出入

廿二日

一 大橋十太夫殿家給小川善藏被指越先達而於江戸表被召仕候育木遠

八儀當時下紺屋町ニ罷在候今日町内年寄江不届有之ニ付御預ケ被

成候旨案内有之尤町内年寄届出候付人別相違無之候哉相尋入念候

様申渡ス

一 元魚町広嶋屋小兵衛願私弟八太郎御郡代所内抱御奉公仕度奉存候

町内人別御除可被下旨承届ル加藤吟助と改答

廿三日 御用場出仕

一 船頭町銀札場借り遲納之者共日切申付不相濟付手錠申付哉之旨御

用番一学殿江御伺申上候処左様取計可申旨被仰渡候

一 町方家々庇之外ニ粉庇致候付雨天之砌雨水往還江流道悪敷罷成候

付以来停止申付候様可仕候及御沙汰大目付中江も申達

廿四日

廿五日

一 大橋十太夫殿之手紙到来罷越候処去年於江戸表不届有之右之金子

津山請人山根屋伝兵衛之指出可申之旨遠八印形書付取置御憐愍徘徊

廻指留御国江指戻候右之金子可差出筈之処及不埒町年寄呼出し相

払候様申付候処直段も可致杯不届之趣申出候付昨日町内江預置御

届申達候此度御領分追払致度存候旨相談有之拙者及挨拶候者右御

暇被指出町江罷帰候者之儀候得「私於役所追払取計可申候尤御

用番一学殿江御伺可申上候委細之儀御手前」今御対談被成被置

候様申合罷帰候後手紙到来遠八并役介共迄追払候様被仰下後則一

学殿江罷越右之訳委細御咄申私手前二おいて遠八并役介母妻娘御

領分追払取計可申哉之旨御伺申上候処十太夫殿好之通可致旨御指

図有之尤請人江右引負金指出候様申付候段申上罷帰ル翌廿五日遠

八呼出立合大年寄兩人諸吟味小頭部屋目附書役同心組兩人罷出ル

石名氏不快ニ付立合無之別紙書付を以追払申渡ス早而誤り証文申

付候付彼是申訳ケ間敷儀も口上相聞候間於江戸指出候書付十太夫

殿合預り置右之書付を以於江戸表申訳無之不届相決罷帰金子も不

指出侘等も無之還而直談申訳可致様不届申出候付十太夫殿立腹之

趣仍而役所江被達右之通追払申付候委細申聞誤り書爪判取之組合

年寄共印形取之古城御境目追払候見届中山市左衛門三船磯八

一遠八母妻同娘御領分追払申付ル下紺屋町年寄宅江呼出し小頭書役

組兩人指越書付を以申渡ス古城境目追払見届室井政治金嶋喜代治

一請人元魚町山根屋伝兵衛遠八不届ニ付御領分追払申付候右家財家

屋敷其方江相渡候右引負金其方合十太夫殿江指出可申候右相渡伝

兵衛追込申付ル右之段御用番御届手紙遣ス大目附村山氏昨日委細

不申談候付罷越委細物俣申置罷帰ル

一京町堺屋善七悴山三儀此度酒井三了と相改針術執行為仕度旨承届

ル及御沙汰大目附所江達

一坪井町本屋七郎兵衛大坂吉文字屋市兵衛江滞銀返済及延行手形無

之旨書付指出ス大坂江遣答候様申出候得共訳立候事も無之之間大

坂御元屋「江遣事難成候間市兵衛江年を入訖事可致旨申渡ス

廿六日

廿七日

廿八日 御用場出仕

一学殿御宅江罷越候様申来罷出候処一学殿被仰聞候遠八追払之儀

十太夫殿委細御咄有之承り其元合取計候趣被申聞候遠八人別ニ

訳十太夫殿手前ニ而追払可有之様相談有之由先達而暇被出町人別ニ

相成候哉其砌之様子御尋ニ付御返答におよひ候十太夫殿「御家

来之内之不届故向方ニ而追払可被仰付哉町家江罷帰候間私方ニ而伺

之上追払可申哉之及御対談私方ニ而取計候様被仰聞候左候ハ、御

手前様江委細御対談被成候様申置御伺申上候御頼ニ付私一己取計

候所存ニ者無御座候伺之上蒙御指図取計候儀御座候先年負殿御

組之者江安岡町町人口論之儀ニ付先年大沢三平合申達候者町人追

込之儀者先方合被仰聞候得者取計候戸ノ追放手錠等之儀御用番被

仰渡無之候而者取計不申此方合御伺申上候儀難成様被申候由及承

候併不寄何事先方被申聞候趣尤之道理ニ聞請候儀者御伺不申と申

儀無之様存候不得心成儀者支配頭江被申達候様及挨拶候と相心得

罷在候此度遠八儀十太夫御家来之内者御手前追払御暇出町人別候

得者町奉行伺又者被仰付取計候儀与存罷在候旨委細申上候処御承

知候旨被仰聞候

一後刻於御用場大目附渡部惣右衛門被相尋候一学殿御尋之趣同様之

儀且十太夫殿御暇被指出町分江罷帰候人別之者向方^二而追払被取

計候ハ、同心共御用達可申旨及挨拶之儀同役江御物語候此儀難心

得存候由被申出成程町人別之者向方追払之筋^二者無御座候仍^而私

方^二而取計候様被仰聞候儀御座候且又遠八家財家屋敷請人伝兵衛江

御渡候段是又難得其意被申候成程闕所^二可仕物^二御座候得共請人

遠八引負金指出候様申付候故遠八家財相渡し不足之処伝兵衛相濟

指出候様申付候由及挨拶候処闕所^二可成物何無之遣候儀先格も無

之哉^と之儀候得共指当り先格無御座候此外町奉行所存寄^二而取計

候儀共も御座候旨及挨拶此以後右林之儀前後考取計可然存候事

一三軒屋番人罷出今日御作事^二御修復見分有之候旨申出ル

廿九日

八月

御用番

小須賀一学殿

大目附月番

渡部惣右衛門

大年寄月番

齋藤孫右衛門

朔日

一辰之上刻登城御帳付御家老江戸御留守故御年寄烈席例之通諸士
御礼有之表^早而御用所江御勘定奉行御郡代一所^二罷出当日之御祝

儀申上末座^二退

一中之町年寄福田屋利右衛門役免之願書出ス

二日

一大年寄孫右衛門江申渡

一町家指庇年々増長道筋雨水流損候付追々崩取候様致度触書相認遣

ス文言触書帳^二有之尤庇有之家々名面書付帳面^二而指出可申見分

申付指当り甚難儀之者共断出候ハ、当分指置追々崩候様可申付候^并

溝埋候^而無之之処家立出候分前々之通溝付候様申渡ス取計是又同

然

一〇〇〇〇非人共往来町中を通候付溝端江片寄通行可致候^并左^一「髮^二

いたし決^而平人之並^二髮結申間數旨申渡候様申聞ル

一銀之助様町筋御通之節前後横町立並拜見致間數無礼無之様町々年

寄江入念申付候様申渡ス

一町方之者花火相凶火之類致間數事候心得違無之様可被申渡候

一宗門改帳出来今日指出ス

一船頭町福本屋清六銀札場借物滞日切申付置候処札場奉行村瀬八兵

衛^二手紙到来入銀五百匁指出候付当月晦日迄日延遣可申旨申聞候

間日切御用捨有之様申来尤及対談重^而被仰越候迄^者日限不申付是

迄之日限^者指免候右之段清六呼出申渡候様大年寄江申渡ス

三日 御用場出仕

一德守祭礼之節警固指出候様大目付被申聞候小頭江申渡ス

一妙法寺鎮守遷宮建札東西橋江致度旨寺社取次^二被申聞御用所江相

伺大目付所江申達阿町江申渡候様大年寄江申聞ル

四日

一夜半時大年寄罷出申聞候林田町鋼屋治兵衛宅松井汲也一所罷在候処石垣伝太夫養子守治郎昨三日^与風罷出罷帰不申^二付汲也甥^二而御座候間尋出申候植月村^二而尋當り召連罷帰候於途中閑所^江罷越申度旨申候付汲也宅^江入守治郎閑所^江參候^而自滅致候早速渡部甫庵呼越候得共養生不相叶即死仕候旨申出書付指出候伝太夫方届之趣同役池部八右衛門沼本弥五兵衛承合其上御用番一学殿罷越委細御届申上候大目付中申合取計可申旨申上罷帰ル渡部惣右衛門^江參候処留守^二而口上申置罷帰ル五日早朝罷越対談後則檢使可指遣旨御家人変死故同心組見分不致詰合計可罷出旨尤町内吟味書付取候様被申聞候

五日

一昼時檢使相濟候御徒目付中沢吉右衛門下目付本沢伝八罷出ル同心組中山市左衛門三船磯八指出入石垣伝太夫名代田淵嘉平治出ル同役沼本弥五兵衛罷出ル見分相濟一札松井汲也^と指出入年寄加印右御用番大目付中^江届申遣入死骸之儀伝太夫^江相渡候様申付ル尤御用番御伺申申渡入暮時引渡相濟町内年寄罷出ル大年寄届有之御用番大目付中^江者^二檢使相濟候届手紙遣候計^二而引渡濟候届^者不申遣

六日

一広瀬鍛冶場両土橋御藏元兩人^江去年一ヶ年限^二掛渡し申様申付候処今年も掛候様申付候間御勘定所委細承合可申旨申渡入
一新職人町年寄塗師八郎右衛門不速之趣吟味被仰付被下候様町内
一統願書指出候付左之通申渡入

一年寄不速之事町内連判願出候儀甚重キ儀存候同役年寄有之事^二候得者不速之趣同役得と承八郎右衛門相糺不相用不埒之儀も候ハ、

同役年寄何之不埒有之趣願出可申依之願書^者指戻申候此段申渡候様大年寄^江申付ル

一林田中之町船屋藤吉台根^江昨夕相囮火落申候一昨夕も其辺^江落申候旨申出候大目付中^江噲申置候

七日

一茅町南側^二而香々美屋戸平治屋敷地表口式間裏行拾七間代四拾匁^二作人猪助^江売渡申度旨

一茅町南側木屋六右衛門屋敷地表口式間裏行拾七間代四拾匁玉屋長右衛門^江売渡申度旨

一安岡町作人三右衛門願新田村平三郎後家私親類^二御座候家内三人引請渡世為仕度旨郡代所申合承届ル

八日

九日 御用場出仕

一元魚町山根屋伝兵衛追込指免可申旨御用所御伺申上大目付所^江申達候処是^者急度上^と被仰付候と申^二而無之故御日記留不申由惣右衛門被申候

一船頭町和泉屋清助札座借滞五月廿八日呼出し三十日限申付七月二日十日切^二申付盆中用捨七月十九日廿五日切申付候処八月三日迄日延願書出シ以今埒明不申付証文写相渡し段々不埒致方不束候証文之通急埒明可申旨加印姫路屋伝藏今津屋平藏引請埒明可申旨大年寄宅^二而為申渡候

一石名平治御次坊主被召出長門殿勤被仰候

一伏見町帶屋孫七借屋作人勘助家内四人佐々木喜兵衛追廻シ下屋敷引越申度旨人別除

十日

十一日

一三軒屋番人中村善兵衛罷出申聞候御城山木之枝三間計折レ申候断出ル早速大目付所_江届申達ス

一昨夜半頃因州鳥取松平相模守殿内伊吹才兵衛山下嘉兵衛_江書状到来去月廿二日西寺町佐々木伊_一」_与申浪人者因州高草郡於松上村

致病死候往来手形_者無之候得共愛染寺手形致所持候付役人_江愛染寺_江通達申候処一向存寄無之旨申来候然共西寺町之者と承候付親

類之者も候ハ、可被指越候哉人別之者_二無之候ハ、其段申越候様申来候依之今晚一学殿_江罷越委細申上候返書認御伺申上旨尤愛染

寺一通り御吟味可被成旨候当領人別者無之旨愛染寺遂吟味候処是又且中_二無御座寺手形遣候覚無御座候由書付出候右御用番御指図

付返書遣ス尤大目付渡部氏_江罷越委細今朝申談置候
一下紺屋町紺屋忠五郎此度真嶋郡本郷村紺屋甚右衛門方_江当亥歳_江来ル寅歳迄四ヶ年紺屋手間申度罷越申度旨私家屋敷ハ甥吉之助と

申者_江引請諸役等相勤申候旨願出承届ル

十一日

一中之町年寄福屋利右衛門病身付役願之通指免ス

一新職人町塗師屋八郎右衛門存寄有之付年寄役指免ス是_者先日町内一同_二八郎右衛門不筋有之様申願書指出候得共重キ事付願書指戻

シ同役年寄_江町内之趣意を承糺存寄申聞不筋立事候ハ、同役年寄_江願出可申旨申渡ス願書戻候方々町内不和_二而町用事も指支候由相聞候間役義差免ス

一船頭町年寄_江人_二而_一用事指支候由付熊野屋伝兵衛年寄申付ル

一吹屋町年寄吹屋六兵衛申付候就他行十五日申渡ス
桶屋町大坂屋治郎右衛門元魚町藤野屋十治_江親喜助借金候借物滞訴状指出候間筋立候様藤野屋_并加判人呼出シ申渡ス大年寄_江申付

十三日

一佐藤男也夜半比江戸_江帰着

十四日 御用場出仕

一藏合孫左衛門伯母妙隨儀勝山御領分真嶋郡下方村治右衛門方_二罷在候病身付当年中私方_二逗留為致度旨願出候元来原田善藏妻之由

先達_而御暇被下候者之役介故善藏相果當時住所難儀仕孫左衛門引請致世話遣度旨委細御用所_江御伺申大目付中_江も及対談承届候様被仰渡候其段申渡ス

十五日

一吹屋町年寄吹屋六兵衛_江今日申付ル

十六日

十七日

十八日 御用場出仕

一下紺屋町佐太郎借屋勘治郎家内四人石田五三郎長屋_江引越度願人別除

一 堺町北屋喜八南側家屋敷表口式間裏行拾六間七年以前已歳小性町

廿三日 御用場出仕

米屋伝兵衛名代にして私買請候処此度私名面付替申度願出候先格名代^ニ而調候付替之儀も有之付承届候

一大目付渡部氏^ハ手紙追廻土手^ニ元脊負善兵衛娘之由病氣行倒罷在候由元町人別之者と存候間近町^ハ心を付候様可申付旨申来ル大年寄^江申遣ス当番組之者様子見せに遣候

一 中之町榎屋乙吉兄文太郎英田郡倉敷村矢野原屋彦市方^江当亥^ハ申年迄三年切奉公罷出度願承届ル

一大目付中被申渡候右之女元来当所出生町人別之者候間飢シ不申様元町内^ハ取計居所等も小家掛^ニ而も為致何分町奉行存寄^ニ而取計可遣之旨御用所思召之由被申渡候右取計方平太兵衛大年寄存寄も承

一出火之節牢屋^并割場^江出人書付大年寄持参

候処元細工町親善兵衛一所^ニ罷在廻国^ニ罷出其節町内願も無之旨申出候依之細工町^ハ引請取計候様申付候然処困窮町之儀甚難儀之趣相聞候非人小家^江も遣し可然哉先年山嵐権兵衛と申者母步行難

一 小原村太郎兵衛悻三之丞妻^ニ安岡町伝右衛門娘貫候願郡代中間合有之候之処安岡町願^者先役大沢氏去戌七月十七日承届候旨申渡候付其段栗原新五兵衛^江及挨拶

計^{□□}^江遣候由相聞候故渡部氏^江罷越及相談申候処左様^ニ而ハ不仁之筋相当り可申間町分^ニ為取計可申旨被申候町内難儀之筋も候ハ、八木少々之儀^上被下候様可相成旨被申聞候弥細工町取計候様申付小家之儀鍛冶場土手下^ニ建させ可申場所見分等小頭指出候及指図候

十九日

廿四日

一 和泉屋清助銀札場借式貫目余内五百目入銀致候付来月五日迄日延遣候由断手紙村瀬八兵衛^ハ被指越依之追^而申来候迄^者用捨候旨和泉屋^江申渡候様孫右衛門^江申付ル

廿五日

廿日

一 万人講残り札文句判行^ニいたし此度散らし一所^ニ添配候旨指出ス

廿六日

一 目明非人扶持証文奥書いたし遣ス

廿六日

一 鍛冶場前土橋請負一札御蔵元今津屋平蔵姫路屋伝蔵^ハ指出ス広瀬土橋^者御郡代^所差出候様申付ル

一 右善兵衛娘今昼^ハ病氣不相勝趣断出候細工町番人付置薬用候様申付候右之趣夜中大目付中^江届手紙を

廿二日

廿六日

一 西新町山伏吉祥坊養子久世御代官所勝北郡豊久田村医師各務荒悻柳治当亥三十歳罷成私養子に仕度旨先村庄屋又三郎^ハ書付指越候旨申出寺社取次中申合承届ル本証文出ス

一 今朝右之女致病死之旨断出候付早速大目付渡部氏^江罷越昨夜より之様子御届申候見分可被仰付哉申談候処不及見分之旨勝手次第取置候様可申付之旨被申聞右之段細工町^江申渡ス非人取捨^ニハ難成

候間桶ニ入旦那寺江も一通り案内承合取捨候様申付ル

藏合孫左衛門

一 細工町大分之物入難儀ニ付取捨之入用三拾匁計町惣辻錢入用遣度

朔日

旨藏合孫左衛門罷出申聞候故左様取計候之様申付ル右一件大目付

一 三軒屋番人中村善兵衛罷出御城山下草苺申候相断ル何方江も御届

中指図付御用番江直御届者前後不申達候郡代中江地所罷在候故届

ハ不申

申遣ス

一 元魚町山根屋伝兵衛遠八引負金筋立申様町内年寄江申渡旨孫左衛

廿七日

門江申聞ル

廿八日 御用場出仕

二日

一 牢番杉山勇助実父瀧本村において致病死候付忌中引籠瀧本村江一

三日 御用場出仕

両日罷越度旨承届遣ス尤同役尾助万端入念候様申付候

一 繰綿他所江売候儀川下陸荷「」改を請指出可申処猥に相成ぬけ荷

一 下紺屋町原田屋利助願出候英田郡倉敷村丸屋清助借屋ニ居申候庄

等いたし候由不埒ニ付向後メリ触書惣町江出ス且又式步中買惣繰

兵衛と申者来二月迄召仕瀬戸物細工為仕私見習稽古仕度願書出ス

屋綿買宿右之者共大年寄宅江銘々呼出し別紙書付之通メリ申渡ス

寺手形請人取可指置旨申渡ス

委細申渡帳ニ留

一 宗門帳直シ出辻奥書致印形宗旨奉行江遣ス

一 玉置忠兵衛備中早嶋江往来十日罷越度旨御用所江及御沙汰承届ル

一 神田権兵衛舅八木紋右衛門後家役介仕度之旨小頭を以申聞承届ル

一 牢番杉山勇助忌中明日ニ而七日罷成出勤候様申渡ス

廿九日

一 御年貢外払御停止之御書付御用番御渡被成当年御藏正米町方江渡

晦日

不申此節古米大分町方江出申候付新米計御停止之儀古米ハ御構無

之取計可申旨申上候御勘定奉行中及対談後則三木甚左衛門岸権

六被指越及相談今日触書指出候

九月

四日

御用番 小須賀一学殿

五日

大目附月番

一 銀札場奉行手紙秤屋之儀手代庄八江申付候旨印形父庄八印其俣相

太田舍人

用候旨申来ル是者川口藤十郎秤屋相勤候故手代庄八致させ候ニ付

大年寄月番

銀札場為知申来候事

一 東新町米屋道休家屋敷表口拾貳間半裏行拾七間質物^ニ書入銀札壹貫貳百目借用來子八月限取次釵屋金右衛門承届ル

六日

一 安岡町若田屋源七持牛致病死候付取捨之儀斷書指出勝手次第申付何方^江も御届不申先格之通

七日

一 惣馬持共兩社祭礼之節願望御座候付餘り馬五七疋指出度旨願出御用番一学殿相同勝手次第被仰付候其段申渡ス

一 船頭町木屋理右衛門家屋敷壳願書差出入代壹貫五百匁買主組屋勘十郎

一 坪井町桔梗屋庄右衛門二丁目若本屋勘「院庄神戸宿米滞訴訟先役之砌郡代所^江相廻シ置候由拙者役付追願書指出郡代平井半平栗原新五兵衛^江書付相廻シ候処内々取扱煎庄屋取扱^ニ而事濟願下指出尤濟口証文写左之通郡代中^江見せ及挨拶置候

一米高三拾貳石六斗七舂壹合

内拾四石三十五舂貳合 難取立分捨り

残 拾八石三斗壹舂九合 桔梗屋分

右当亥^ハ丑暮迄年賦返濟之筈

一米高五石壹斗三舂

内壹石八斗四舂七合 難取立分捨り

残 三石貳斗八舂三合 若本屋分

右当亥^ハ丑暮迄年賦返濟之筈

八日

九日 如例御用場無之

一 内山下廻勤

一 大隅祭礼如先格組之者四人指出ス無滞相濟尤何方^江も御届不申

十日

一 西今町西田屋多助願出候林田村庄兵衛借屋^ニ罷在候清七夫婦式人私由緒之者^ニ御座候引請町人別人申度旨郡代所聞合双方承届ル

十一日

十二日

一 今朝大盤若御祈禱於御城執行有之候拙者儀不快^ニ付当病斷大目附中^江申達不罷出御札供物先例之通小勘者中^ハ宅^江相廻り致頂戴候

一 銀札場^ハ錢七拾五箇川下札元手形奉行中^ハ被指越致裏判遣ス

一 下紺屋町八百屋伊兵衛家屋敷元魚町山根屋伝兵衛引請先達^而申付置候処右家表口貳間小半裏行拾七間代百匁相極町内作人助七^江壳渡申度旨承届ル

十三日

十四日 御用場出仕

一 酒直段追々新酒出来^ニ付風味入念商壳仕候様可申付^并近来於酒屋

吞酒夜分壳候付大勢罷越候之由相聞惡事之基御座候付暮時過吞酒

壳不申様酒改之者共^江可申渡段御用所^江御伺申大目付中^江も申達

候

一 新職人町塗師屋八郎右衛門一件大目付中及内談置候処存寄も無之候得共遂吟味可然様挨拶相聞候

十五日

一京町西今町今徳守祭礼ニ家台有来り用イ子供三人計離踊致させ度之旨尤入用町内一統ニ懸ニ申候願主有之候神主ニも故障無之之旨申候付御用番一学殿江御伺申大目附内意申達置候

十六日

一酒直段風味吟味并夜中吞酒売申間敷旨書付を以大年寄江申渡又扣帳委細有之

十七日

十八日 御用場出仕

一徳守祭礼家台指出候儀御時節柄ニハ候得共花美ニ無之事ニ候ハ、可申付旨大目付太田舎人を以被仰渡寺社取次村井六之進申談町方江申渡ス

一銀之助様御見物被成候間内山下江入不申旨被仰付候明ヶ六ツ時宮川御門揃六ツ半時御供揃赤座屋敷江御入被遊候旨

一神事宮今直ニ御旅所江行幸内山下江入不申様被仰付候由村井六之進今為知被申候夜ニ入六之進ニ參神主共江申渡候処家台宮江引付神輿内山下江入申度旨申出候付御伺相濟候旨被為相知右之段小頭左五兵衛江申渡ス大年寄町江申渡候様申付ル

一警固不足付使組今取人老人大目附中江申達請取ル

一田町交御幕巻張拙者預手形相認御使番中宛請取来ル

一祭礼家台出候付前々之通惣町江触書指出ス文談別帳有之

十九日

一家台六ツ時宮川御門揃五ツ残町今宮川御櫓下ニ而西今町京町家台子供芸追々仕内山下屋台ノニ「」ツ、致シ二階町御門町分江出

候警固一ツニ式人宛四人神輿式人罷出ル

一家台芸巻ヶ所ニ而一ツ、致シ二度同様之儀為致間敷旨堅申渡候様被仰付是者西筋見物之者江行届不申候様ニ御聞被及候付右之通被仰出候事

一暮時迄ニ無滞相濟右之趣大目付御手紙届遣ス御用番江先格不相届候付不申遣候

一玉置忠兵衛備中早嶋江罷越夜前罷帰候旨届出ル

一林田上之町溝凌相濟候旨郡代中今為知手紙来ル

一非人加廻り可申付旨御伺申置候付今夕今三日程加廻り申付候様大年寄江申渡ス加廻り之者何方江も届候与申事も無之相聞候此度町々辻番人江何と申非人今夕加廻り致候旨相届申様可被申付候尤辻番人江も其段申聞指出候様町々年寄江為知可有之候

廿日

一昨日家台西今町者暮時迄ニ相濟候之由京町者内山下手間取り二階町ニ而所々芸致し夫今馬方町江出元魚町江通り二丁目江懸り可申順路之処八百屋町横丁今二丁目江懸り三丁目迄罷越芸致し候順路相違之儀相糺候処三丁目江我等「」見ニ參居申候事役者共承及ひ何とそ見せ申度旨ニ而直ニ引申候段警固申聞候不束之儀共絶言語候必竟我等罷出見物いたし申間敷処与風先年上之祭之節先役見物ニ出候儀触書帳ニ見当り苦間敷哉と存御時節を心得違右躰之儀出来順路之見物空數目近暮候義相考御役義ニ対し不相濟儀依之指扣之義平井半平相願大目附江申達候御用番江被相達晚刻渡部惣右衛門宅江罷出候様申来不及指扣旨被仰渡候旨而別段ニ諸事心を付相勤

候様被仰渡依之御礼為御請小須賀一学殿^江罷越口上申置罷帰ル

廿一日

廿九日
晦日

廿二日

廿三日 御用場出仕

廿四日

廿五日

一 細工町源三孫とみ当亥七歳罷成坪井下村六郎兵衛方^江養女^ニ遣度旨承届ル

一 二階町山手屋弥右衛門家守文太借屋太兵衛家内三人中川茂右衛門長家^江引越度之旨承届ル

一 万人講場親河原請取度旨講元申出候付大年寄申聞御郡代中^江手紙遣シ今日下代此方小頭立会請取相渡ス岸権六^江為知手紙遣ス

廿六日

壬九月

御用番

廿七日

小須賀一学殿

廿八日 御用場出仕

大目附

一 銀之助様泰源院様河部行念庵^江御出被遊御先弘兩人指出ス町方掃

村山平学

除申付ル暮時無御滞御帰

大年寄月番

一 下紺屋町原田屋利助家来庄兵衛瀬戸物焼調一宮村野部^ニ而心味申度願書郡代所^江指出候由^ニ而当役所^江も願出候此方存寄無之間郡代

朔日

玉置忠兵衛

所相濟候ハ、勝手次第申渡ス

二日

一 右利助焼物細工人下人^ニ召抱候段御用所申上置候事

一 西新町飯岡屋九八借屋^江林田村市兵衛家内三人引請差置度旨郡代

一米相場

御蔵米 六拾匁五分

所申合承届ル

町米 五拾五匁五分

三日 御用場出仕

一 鍛冶場土橋掛渡し案内御勘定奉行三木伊平太江申談向後者橋懸人
合町奉行所江案内申出候筈申合候

一 郡代栗原新五兵衛鍛冶場広瀬両所船橋往来之届鍛冶場者町奉行所
合広瀬者郡代所合御用番大目付江可相届旨申合候

一 万人講御着用綿服常之袴着罷出可申段弥三兵衛新五兵衛大目付所

一所ニ罷出及相談候只今迄者野袴小役人御徒目附踏込罷出候由候
得共今般合常之袴ニ而可罷出旨相極候此段石名平太兵衛江及噂置
候御徒目附席之節咄被申候様申候

四日

一 鍛冶場土橋懸渡出来小頭石名左五兵衛罷出遂見分今日合往来致候
尤舟渡相止候右御用番大目付江届手紙遣ス

一 御蔵元合御用筵包川下切手指出候木知ケ原御番所御用文談如何可
有之哉遂吟味候処去ル申年右之通ニ而相濟候扣古帳有之本覚表書
文談者役所江宛候文談ニ付御裡判も認有之ニ付先格旁表印遣ス

五日

一 暮過齋藤孫右衛門罷出申聞候古林田ニ而繰綿式本改請不申持出し
候処大津屋七郎左衛門銀札目付罷出候故繰綿ぬけ荷之吟味氣ヲ
付呉候様頼置候処昨日四日暮六ツ時ぬけ荷見懸候付改候処因州武
右衛門宿勝間田町山形屋喜兵衛中買西新町江見屋伝七取次ニ而武
右衛門買請因州質持之者相頼持出候由持人申候付不埒之儀則持人
宿林田村楮屋弥助方江預ケ置候由申聞候付宿山形屋罷出委細申聞
候申訳之筋も相聞候得共ぬけ荷之様ニ被存候銀札場ニ而も御聞お

よひ田口小助ヲ以如何取計候哉御尋尤御用所江御届被成候様ニ小
助申聞候間旁以御内意申上候旨申出候依之月番玉置忠兵衛右遂吟
味申聞候様ニ申渡ス

六日

七日

一 玉置広四郎他国請酒株去戌歳御願申上寅歳迄元魚町油屋文六江貸
置候処此度双方勝手付取戻し申度旨断書指出シ候

一 中之町紺屋平八莫瓶老本勝南郡木知ケ原清右衛門方江川筋積下申
度旨願出承届ル

一元魚町八百屋与茂治郎印形改度旨印鑑指出ス

八日

九日 御用場出仕

一 宮脇町柏屋猪右衛門一方村九兵衛姪当亥拾七歳私縁類之者ニ御座
候付役介ニ仕度町内人別御加奉願旨郡代中申合聞届ル

一 福渡村徳三郎合押入村儀兵衛野村源四郎江借物出入船頭町今津屋
平蔵取次先達而徳三郎合郡代所江訴訟申出返濟被申付候処相濟今
般濟口書付出候旨郡代栗原新五兵衛為知ら申聞候

一 御作事方役人池部八右衛門合町左官御用申付度名面書付被指越大
年寄又々申渡御作事江案内申様申付候

一 勝間田町山形屋喜兵衛繰綿ぬけ荷宿致候委細吟味口書指出候申訳
之筋も相聞候得共何分紛敷致方付今日相伺答申付ル追込山形屋喜
兵衛中買江見伝七追込申付ル大年寄宅ニ而小頭立会申渡ス書付扣
申渡帳委有之御用番大目付所江手紙御届申遣ス右繰綿林田村楮屋

弥助預有之町内年寄江申付買元江綿相戻し銀札各武右衛門江戻し候様買戻しニ申付ル

一武歩中買頭若本屋勘兵衛右江見屋伝七取計不埒ニ付頭之儀兼々申付不宜故ニ候間以後入念可申付之旨呵申渡ス

十日

一久世町代官竹垣庄藏殿明十一日当所通行之旨郡代中為知申来ル

町方掃除申付御先払兩人指出ス夜ニ入人馬先触到来之由大年寄申出候御用番大目付中江者郡代中今案内有之付不申遣候

十一日

一竹垣庄藏殿昼過御城下無滯通行先払之者罷帰御用番大目付手紙ニ而相届ル

十二日

十三日

一戸川町ニ而土佐屋十藏家守清右衛門願出候野条平藏組上村金治私借屋借り申度旨断書出ス

一西今町日向屋利兵衛親類池測如水方江引越申度旨願出町入別除尤如水借り請候借屋ニ其佩利兵衛罷在候由

一林田町浅屋与平治弟安之丞江戶江往來七十日罷越度旨承届ル十五日出立

一茅町作人勘治郎夫婦ニ宮村茂市郎借屋江引越申度旨郡代中申合承届ル

十四日 御用場出仕

一銀札場借物不納和泉屋清助福本屋清六取計之儀大目付渡部惣右衛

門被相尋委細申達ス

一於御用席一学殿被仰渡銀札場借物不埒之者又々日切申付其上不相濟候ハ、答可申付候不納之咎ニ而ハ無之役所申付不相用ニ付答候間不納銀札納申ニハおよび申間敷旨被仰聞存奇委細申上置候

一河内屋安兵衛曾又不納日切申付候様ニ被仰付候意味合有之延行

十五日

一大目付村山平学ハ罷出候様申来り林田宮川仮橋之所非人足痛行倒罷在候□□町出生之者之由相聞候付遂吟味候様被申聞候先達而脊負善兵衛娘病氣行倒之節廻国罷出候砌之居所細工町江引請候様ニ渡部惣右衛門殿被仰聞候之通取計出生之所江懸り無御座候夫共承合可申上旨罷帰□□町遂吟味候処町内出生之者ニ無之三十年以前西々条郡□□村ハ父伊兵衛家内三人町内江罷越□□村□□町ニ借宅悴駒之助親死後何方江罷越申候哉相知不申候書付指出ス右村山氏江罷越申達ス右行倒者□□村ニ居申候者之由□□村江先引取候様郡代中今被申付相濟候

十六日

一和泉屋清助福元屋清六当月中日切申付ル

一勝山三浦志摩守殿内筑摩源右衛門ハ十月中米相場之儀頼書状来ル及返書状留ニ記ス

十八日 御用場出仕

一繰綿ぬけ荷咎之者指免可申伺相濟後刻追込指免候旨大年寄宅ニ而申渡ス立合者不指出右御用番大目付所江相届ル

一河内屋安兵衛借物日切之儀先年御用ニ指上候米証文其外括り札有

之候由付存寄之趣於対談之間御用番一学殿^江御内意申上候渡部氏^江
も右存寄及対談委細^者難書取略之候

一 勾坂五右衛門養子九藏今日小従人組御擬作並之通被下候

十九日

廿日

一 久世御代官竹垣庄藏殿の旁御用人宛之書状町宿^江到来大年寄の御
用番^江御届申候処夜^ニ入御奏者番村上清太夫伊達隼人連名之返書
為持被指越大年寄方^江町宿飛脚^江相渡候様^ニ指遣ス

廿一日

一 牢舎人仕着せ五ツ代六拾式匁五分關所銀の牢番^江相渡遣ス尤右仕
着せ之義御用所^江及御沙汰大目付中^江申達

廿二日

一 三本伊平太就御用出坂

廿三日 御用場出仕

一 桶屋町土橋痛申候書付指出シ大目附中^江相達候

一 十一月万人講日限何書指出岸権六^江及相談御用所^江御伺申上廿一

日^ニ相究候右講元^江申渡

一 宮川行倒候非人駒之助郡代所人別之者歎吟味有之処在人別^ニ無之
然共先達^而□□村鹿追小屋^ニ居申候由^ニ付当分□□村^江引請致介抱
候得共弥在人別^ニ無之^ニ付□□□□非人小屋^江半扶持被下遣候様相
極り申候

廿四日

一 右非人□□村において致病死候依之取捨□□□□^江申付候様大目付

中の栗原新五兵衛を以被申越候間双方申合せ為檢使日下伝平川端
又六差出シ立会遂見分病死相違無之一札取罷帰ル□□□取捨申付
相濟御用番大目付^江手紙^ニ而御届申遣ス

一 京町加茂屋和六願出候播州大坂上福嶋鳴嶋町江川清治と申者知因
之者今般用事付罷越日数廿日逗留仕せ度旨承届ル

是^者神道講釈致候者和六方^江逗留毎歳致させ度由宿屋^ニ付願書
指出候得共講釈と申義表立候^而者人寄せ様^ニ罷成不宜難承届願
差戻候依之用事逗留願^ニ而承届表立講釈致候義^者不承届候事

一 上横野奥谷村伝助と申者薪売^ニ罷出於魚町馬物恐レ驚驅走り備中
倉敷仁助と申無宿者怪我致候^ニ付入江屋市右衛門方^江引入致養生
遣候廿六日晚方^ニ快氣罷帰候伝助義も逗留いたし及挨拶罷帰候由
大年寄申出候尤何方^江も御届^者不申候

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日 御用場出仕

一 東新町米屋道休娘久米北條郡宮尾村林藏^江養女^ニ遣度旨願出先
達^而中須賀^江猥^ニ罷越申問敷旨御触も有之候付御伺申上候処縁組
之儀^者不苦旨被仰渡承届候

一 戸川町悴伝治郎当拾八歳罷成候不行跡^ニ付義絶勘当願差出シ再応
遂吟味候得共無抛趣^ニ付御用席^江申上ル御聞届大目付所^江書付出
ス

一 市村但元養女勝山家中馬場権右衛門娘願之通御許容相濟候

廿九日

一 郡代中手紙久世御代官所竹垣庄藏殿御廻米朔日夕檜村川岸船積候旨如例年町人足出し候様申来大年寄^江申付ル

十月

御用番

小須賀一学殿

大目附

渡部惣右衛門

大年寄

斎藤孫右衛門

朔日

二日

一 船頭町和泉屋清助札座借物去月晦日切申付置候処不相濟^ニ付証文之通家屋敷加判人姫路屋伝藏^江相渡シ可申候伝藏^ハ壳払来ル十五日迄銀札札元^江相済可申候右大年寄於宅小頭石名左五兵衛立会申渡ス

三日 御用場出仕

一 伏見町帯屋弥七悴伝治八年以前御領分追払申付候御神忌之砌徘徊御免被仰付候此度御法^一付地藏院^ハ帰住之儀相願依之以御憐愍今般帰住御免被成候旨於対談間大目付立会御用番被仰渡候右大年寄^江申渡ス御所^江御届手紙遣ス

一 船頭町福元屋清六札座借物不埒付家屋敷も無之間咎之儀御伺申上

候来ル六日手鎖申付候伺相済^ム借物^者引捨奉行所申付不相用付咎申付候筋被仰渡候

一 二丁目河内屋安兵衛札座借物滞日限申付候様大目付渡部惣右衛門を以被仰渡候此儀拙者存寄^ニ不相叶得心不仕候付先日以来意味合存寄一学殿惣右衛門^江も申達候処右之通故又々存寄申立候一学殿御直^ニ被仰渡候様被成可被下旨申之御用席^ニおいて一学殿被仰渡候故上御難洪之節俵数御用立括り銀札等も御座候得^者咎等申付之儀道理^ニ相叶申間敷奉存候日限申付不相濟候得^者押^ニ家屋敷等取上候様^ニ仕候外無御座左様致候ハ、不本意^ニ被存候度々存寄申上候得共相改り被仰渡候達^而御断難申上御指図之通奉畏候旨申上候惣右衛門^江も其段申達候

一 三丁目浜野屋十郎兵衛妹田口丈助妻先年御領分追払被仰付当時小中原村辺^ニ罷在悴老人御座候当春病死仕以来病身^ニ罷成看病仕呉候者も無御座不便千万^ニ奉存実父笹屋九郎左衛門家も断絶仕外^ニ兄弟も無御座候付以御憐愍御赦免被成下候ハ、私方^江引取看病仕度願書出ス大目付所^江及御内談於対談間一学殿^ハ御内意申上候処御烈座^ニ可申上旨被仰聞御用席^ニ而願書を以説候之処願書御取置被成候重^而御指図可被成旨

一 久世御代官所書状到来今津屋伊右衛門御廻米御藏元相勤候郷藏火難等之節心を付候様頼来ル且又十月十五日夕晦日迄上中下米相場書頼来ル相応及返書

一 東新町市郎兵衛と申者三年前林田村勘七同様^ニ御領分追払申付候処此度就御法事本琳寺^ハ徘徊願出候御免之儀如何候哉と一学殿

御次^ニ而御尋被成候先年追弘科之趣委細申上余り年数も少ク御座候同ク^者六七年も過御免被成可然旨申上候

四日

一大目付所廻状来ル十五日来月廿一日於觀河原万人講有之候其節可為群集候間役介^并下々迄右之場所^江不参様相心得火元等入念可申付旨御用所御申付申達候右組中牢番三軒屋番相触ル
一來ル十三日戒善院様三十三廻御忌一夜別時被仰付候為御知廻状到來

一御初入被遊御慰御殺生可被成間以前之通御領分鉄炮弼綱はこ殺生御停止之時候間堅相慎可被申候万心得違之儀も有之候ハ、急度可被仰付候右廻状到來組中^江相触ル

一昨夜安岡町裏通り盗人這入候様申出候組伝内栄内磯八罷出下目付小頭罷出候御敷之内尋候得共相見不申今暁何も罷帰候右睦敷趣御用番大目付^江届手紙遣ス

一鍛冶場前橋掛料拾五俵請取証文今津屋平蔵姫路屋伝蔵^ハ指出シ致奥書遣ス

一境町^{マツ}三津屋平右衛門弟津五郎九年以前中須賀淀屋十兵衛方^江遣候処不縁^ニ付此度罷帰候町内人別人度旨^{マツ}改書出ス

一古道具屋平屋忠七印鑑指出シ帳面^ニ張置

一下紺屋町豆腐屋岸左衛門家鍛冶町南側東之横丁表四間裏行六間代三百匁鍛冶町伊賀屋伊助^江壳渡

一万人講木札大キ成計^マ之者難儀之旨講元願出物町^江触ル御郡代中^江申遣し林田玉琳川部山北村八子一宮一宮辺御触有之様頼遣ス

一万人講拜借道具書付講元指出シ小頭請取渡候様申付ル

六日

一船頭町福元屋清六去ル三日伺之通呼出し先達^而銀札場借物及遲滞追々日切申付候処奉行所申付を相背候付咎之手鎖申付候書付を以申渡ス立会面々例之通御届申遣ス

一二丁目河内屋安兵衛昨晚大年寄於宅三十一切銀札場借物相濟候様申渡ス立会小頭左五兵衛指出ス

一西川役所^ハ米相場書頼来ル

一万人講触書大年寄^江相渡ス

七日

一戸川町彦治郎持寺病死届申出取捨勝手次第申付ル

一銀札場奉行手紙到來福元屋清六分借物滞之内四百匁今津屋平蔵^ハ今日相納候旨申来ル

九日 御用場出仕

一三丁目浜野屋十郎兵衛妹田口丈助妻引取役介致度旨去ル四日御伺申上候処今日承届候様被仰渡候大目付所^江右願書指出ス大年寄^江右之段承届之旨申渡ス

一來ル十三日御法事大年寄三人拜礼之儀相伺先格之通被仰付候此段申渡ス

一座頭共御法事御布施頂戴仕度申出御用所^江申上可被下旨被仰御勘定奉行^江銀札場^ニ而取替之儀申談ル

一万人講之砌寄せ太鼓打申候事及御沙汰非人加廻り之儀同断

一講場出役御貸人馬并使組取人四人目付中江申達ス小勘者江申談ル

一來ル廿一日二日一宮於社地地取相撲有之由例之通組兩人見廻り罷

出候様可致旨大目付中江承合せ小頭江申付ル

一桑原村治右衛門と申者久世御代官所東北條郡川井村甚右衛門方江押入レ盜人這入候因州知頭伊右衛門懸り合付足留之儀久世郡代江

申來り依之不取逃ため入牢被仰付候御用番大目付立会被仰渡御郡

代栗原氏江申談右清右衛門入牢尤牢手形來ル組中山市左衛門出ス

右御用番大目付届手紙遣ス

一右入牢之儀ニ付大目付を以御内々御尋被成候郡代申合牢預ケ取計候之様難成哉との儀ニ付牢家之儀者出入共ニ手形を以仕候付内々預り候様ニ難成旨申達候仍而大目付立会被仰渡候

十日

一御用竹千四百本川下手形御作事役人々被指越裏書印形致し遣ス

一中之町藁屋忠四郎借屋治郎兵衛林田村上之町太助借屋江引越申度

願郡代中申合承届ル

一福渡町南側竹屋助右衛門家屋敷表口式間裏行拾七間代百六拾匁ニ

同町作人新助江壳渡申度旨承届本証文出ル

一諸吟味役戸田市郎左衛門役免願差出ス

十一日

一林田村平兵衛伝右衛門六月六日入牢之処今日出牢御郡代江渡候様

御用番手紙ニ申來ル御郡代々出牢手形被指越組神田権兵衛差遣

シ出牢郷会所江召連罷越ス尤向方足輕庄屋等出ル右御届御所江

手紙申遣ス

一御給米御役料明日相渡候廻状到來

十二日

一平井半平栗原新五兵衛林田村山論一件ニ付裁許伺之趣大目付中懸

合御用所御指図ニ而相濟不念之様ニ成行候付指扣相伺度旨之相願

大目附渡部惣右衛門宅江罷越申達候処御用番江可申旨後刻罷越候

処不及其儀旨被仰出候早刻御兩人江申通ス

一雲州大社多久十太夫宿切手塩屋太三郎指出ス

一就御法事今町橋詰江昼後權兵衛伝内指出ス先格之通

十三日

一下村友右衛門殿江戸へ御着

一戒善院様三十三廻御忌於泰安寺一夜別時無滞相濟候組權六政治今

町橋詰江指出ス昼時罷歸ル

一大年寄三人伺相濟今日参拜罷出ル

一座頭共御布施被下小頭左五兵衛部屋目付文六罷出於配当城正宅相

渡ス銀札七百四拾五匁七分五厘

十四日 御用場出仕

一座頭被下物書付を以御用所江申上大目付所江指出ス

十五日

一觀河原万人講興行五ツ過時出役町奉行我等郡代栗原新五兵衛御徒

目附井汲幸右衛門下目付出ル町奉行下役石名平太兵衛書役菅人郡

代下代老人同心組給人罷出ル内使組四人取人兩人ハ拙者供召連候

岸權六出役也寄札高卷万八千六百三拾式枚銀高九拾三貫百六拾匁

内式拾七貫九百四拾八匁^二引殘五拾番割ル暮前時無滞相濟ム
御用番^{江直}^二御届罷越大目附手紙^二而届申遣ス

十六日

一 船頭町和泉屋清助家屋敷表口六間式尺式寸裏行九間三尺代老貫五
百匁細工町灰屋喜平治^江売渡申候間承届本証文出ス

一 小頭左五兵衛郡代下代残り札渡帰候罷出ル

十七日

十八日

一 牢屋中門戸痛三ヶ所書付牢番の指出シ大目付所^江出ス
一 川筋船積川下木知ヶ原御番所改稠敷指支下方難儀之趣存寄之段書
付を以大目付中^江申達御用所^江申上ル又々及相談候

一 万人講寄り札高三歩銀員數御用所^江申上ル

十九日

一米相場指出ス
御藏米 六拾三匁
町米 五拾九匁

廿日

一大目付廻状到來於勢州清水谷中将殿御後宝様去月廿三日御死去被
成殿様御從弟之御統故六日一日御遠慮被成候御用番^江御届被成候
旨御知せ有之

一 境町^{マツ}三津屋平右衛門家屋敷表口拾間半裡行拾式間半空地東西七
間式尺南北七間半京町北山條斎質物^ニ書入候処此度請返候旨断書
指出ス

一 西今町年寄直屋孫兵衛惣十郎と改号

一 斎藤孫右衛門弟客乃井野屋鉄五郎罷越廿日計逗留断書出ル
一 吹屋町金屋治郎左衛門東北條郡西原村安沢寺鐘鑄仕候付十日計罷
越候断書出ス

廿一日

廿二日

廿三日 御用場出仕

一 御鷹鷹去ル十一日御拝領上使河部平吉殿御越右為御怡御帳付御用
場諸士出仕

一 諸月番居残り於溜間一学殿友右衛門殿御出被仰渡有之候

来月御初入被遊候御規定被遊候殿様来春御初入被成候様御儀定被
仰出勿論公辺御願者未担濟不申候得共御内々右之通御座候可相心
得候然処兼而御勝手向御不如意之上近年御物入等有之明年坏中々
御初入相成候儀^ニ而ハ無之候得共御順年之儀故御延引^茂難被成候
押^而右之通御格被成候上^者御前^ニ而も随分御不自由被遊如何様御難
被成候^而御初入被遊度旨被仰出候依之何^茂御役筋ハ勿論御家中一
統御為^与存候義不依何等無^与無遠慮随分相考申出候様可被相心得候
尤只今迄御儉約之筋^者役筋面々無油断被相勤候得共猶又御難決御
時節候間至^而少之事^ニ而も御為相成筋心付候事有之候ハ、諸事先
格を離上下無覆臟申合纒之事^ニ而も御物入減候様出精被致度事候
一 小頭石名左五兵衛娘相果候忌中引籠
一 暮六ツ半時□□非人小家出火家數四軒焼失失火元藤三郎家内四
人四ツ時火鎮り御用番御届申罷帰ル

一 玉置広四郎所持他国請酒株当九月の来子歳迄林田町油屋源六借請

申度旨願書指出ス承届ル

一 福渡町紺屋文助家屋敷表口式間裏行拾間代九拾匁作人六兵衛^江壳渡候承届ル本証文出ル

一 船頭町和泉屋清助銀札場借物返済相濟候趣御用所及御沙汰
一 福本屋清六手鎖日数廿日^二而指免可申旨御伺相濟

廿四日

一 上紺屋町定七引請泉香師金兵衛逗留日数相濟此度罷帰候旨大年寄口上^二而届出ル

一 非人小屋出火遂吟味候処家数四軒焼失火元藤三郎非人頭大年寄宅^江呼常々火元申付悪敷故右躰之儀出来以来入念候様頭呵可申旨

申付火元^者頭今追込候共法式^三申付候様為申渡候右之趣御席之節御用番^江御噂申候非人之儀急度改御座^者不申上候

一 銀札五匁ツ、焼失之者四人^江遣ス尤先年卯年手当遣候先格も相聞候間關所物之内^二而取計候大目付所^江御噂申候御用所^江不申上候

廿五日

一 佐藤織江水永之御暇被下御構御大法之通大目付於宅被仰渡候由忝男也永之御暇被下御構無之番頭宅^三而申渡清水多橋差扣伺之通被仰付候

廿六日

廿七日

廿八日 御用場出仕

一下村友右衛門殿江戸帰着後不懸御目付今朝罷越懸御目候

一來月万人講廿一日義定之所誓海院様七回御忌御取越御法事付廿二

日相延候様御伺申上此段講元^江申渡候岸権六^江も為相知候

一 久世勝山西川飛脚之儀大目付所^江申立小勘者^江申談ル

一 牢屋御修復先達而申立候分相濟候之旨牢番今届出ル

一 斎藤孫右衛門方客播州乃井野屋鉄五郎罷帰候由届事ル

廿九日

一 一宮社地取相撲有之大目付中承合同心組兩人昼時今指出ス

一 勝間田町吉田屋与三兵衛^江東新町正木屋伊右衛門所持仕居申候宿屋株当亥今来丑歳迄三ヶ年与三兵衛借請申度旨承届ル

一 境町西川屋重三郎客大坂谷町丸井大助来正月中逗留日延断出ル

一 東新町橋本屋茂治右衛門私姉みつ二宮村茂市妻^二遣度旨郡代中申合十一月三日承届ル

一 西新町富士屋新八林田上町佐治兵衛忝佐助引請申度旨郡代中申合十一月二日承届ル

一 当十月渡御給米請取証文渡守馬さし鉦打日雇頭右之分奥印いたし遣ス

一 材木町年寄車屋源兵衛相果候旨届出ル忝名代罷出候由追而役義可申付候事

晦日

十一月朔日 御用番

小須賀一学殿

大目附

太田舍人

大年寄

藏合孫左衛門

一御吉夏日御用場出仕裏付上下着用御祝儀御赤飯頂戴大目付所御礼
申上ル御列座^{江者}先格之通不罷出

二日

三日 御用場出仕

一 本日十五日より晦日迄上中下米相場書三通久世御代官竹垣庄藏殿
役所^江指遣ス

一 本日上中下米相場平均書付老通勝山筑摩源右衛門^江遣ス右所飛
脚使組飯田和吉罷越ス

一 西川大久保相模守殿役人中^江平均書付遣ス使組前原平兵衛罷越ス

一 乃井野六米相場書申来上中下三段書付三通認置候付則返書^ニ差遣

一 水谷信濃守殿内鈴木甚太夫^江平均書付老通書状相添江戸表^江遣ス

一 尤例年指越呉候様^ニ頼来り候之旨兼々御用所御指図付指越ス大目
付中^江右之段申達小勘者^ニ相渡ス御留守居^ハ相届候様^ニ申談ス尤
添状者不指遣候

添状者不指遣候

一 大年寄献上物代金去戌暮当亥正月同惣町献上代都合三步拾匁八分

一 江戸小勘者久保田彦五郎田村多右衛門^江添状^ニ而遣ス此書状小勘
者兩人^江直^ニ相渡ス

一 大目付所廻状

一 銀之助様御袖被為留御名修理様^与御改号被成候付為御知被成候右

御名^ニ指合候文字相改可申様廻文到来組中牢番三軒屋番相触候様

小頭^江申渡ス

一 惣町^江右御触之趣相触ル委細触書状^ニ有之

一 小性町米屋忠右衛門家屋敷表口三間裏行拾四間代六百弍拾匁買主

同町桶屋甚兵衛

一 東新町橋本屋茂治右衛門家屋敷表口拾三間半裏行拾七間土藏^ニケ
所共^ニ中之町甲屋和助取次質物^ニ書入候処此度請返し候旨断出ル

一 二階町さかい屋猪助雲州松江紙屋町松浦屋与右衛門悻和助当亥弍
拾三才私養子^ニ仕度旨承届ル

一 京町花屋忠七断出候魚住花人罷越候旨

四日

一 久世勝山西川遣候飛脚罷帰ル

一 橋野屋助右衛門飛脚宿^ニ付所々參候飛脚宿賄之儀承候処乃井野久

世勝山西川坪井等之飛脚^者着次第立会目付御届申書付取置追^而宿

賄料請取来候旨申上候先達^而先役大沢氏^ハ賄候様^ニ被申付候旨相

聞候追^而此方^ハ先方^江飛脚遣候節賄有之候哉承合考可申事勝山^ニ而^者
賄有之候段使組飯田和吉申聞候

五日

一 錢相場六拾四文通用立替候旨大年寄届手紙差越ス

一 諸吟味役戸田市郎左衛門病身罷成役義願指出シ候今般致保養相勤
候様大年寄於宅申渡ス立会無之

一 魚住花人着為案内玄関迄罷越候扇子持參翌日為挨拶丈遣ス

六日

一 福渡町大工吉左衛門家屋敷表口式間裏行拾七間町内笠屋十藏取次
質物書入銀札六拾匁来子十月切借用仕候旨

一 境町三津屋平右衛門家屋敷横町東側表口拾間半裏行拾貳間半代
八百目京町北山修斎^江壳渡度旨承届ル

一 二丁目河内屋安兵衛銀札場借物返済日切延候付当月中日延断書出
ス

七日

八日

九日 御用場出仕

一 東新町年寄肥後屋清右衛門近年病身付悴兵吉折々名代指出度旨承
届ル

一 上紺屋町浜碇淀五郎相撲為稽古小相撲取申合候処私宅狹ク御座候

付徳守宮社地借り地取仕度旨断書指出シ候寺社取次中^江申談神主

願書出シ御用所^江申達候旨付右書付之趣御用所申上候処御評議之

上承届可申旨尤凶事出来不申様ニ可申渡旨被仰渡候大目付所^江申

達ス日和三日致候段申出候右大年寄^江申渡ス諸事相慎凶事無之様

可致旨一札^一取置候様ニ申渡ス

一 梅香院様来正月十三回御忌被為当御取越来ル十四日於泰安寺御法

事被仰付旨為御知廻状到来右小頭^江触書相渡ス惣町自身番火元入

念候様触書出ス

一 自身番之儀御用所^江及御沙汰組兩人今町当日計罷出候様申渡ス

一 誓海院様来正月七回御忌御取越廿一日御法事有之為御知廻状到来

右組中相触ル町中自身番^者不申付尤橋詰組之者不指出候先格相調

伺之上取計候事

一 安岡町豆腐屋三右衛門後家家屋敷表口式間半裏行拾貳間三右衛門
後家年寄寄渡世難仕依之京町塗師屋甚六^与申者^二而御座候付此
度引請役介仕呉候付右之家屋敷甚六^江相譲り申度願書先格も有之
付譲り承届ル町内年寄以後違乱無之様^二入念可申聞旨申渡ス

一 福渡町小嶋屋治助南側東横町家屋敷表口三間裏行三間代百六拾匁
西今町沢田屋伊助^江壳渡申度願承届ル本証文出ル

十日

十一日

一 明十二日徳守宮社地相撲地取仕候旨浜碇^江申出候御用番大目付
所^江届手紙遣ス

十二日

一 相撲地取有之付同心組吉井柴内中山伝内指出ス

十三日

一 新職人町塗師八郎右衛門町内出入委細御用番一学殿^江申上置候

一 梅香院様御法事御布施座頭^江被下候儀伺相濟候

一 久世御廻米追廻郷藏^江今日^江相納り候今津屋平藏届出ル

一 新魚町姫路屋伝藏甚右衛門^与改号願出候御藏元故及御沙汰候処甚

右衛門ハ致遠慮候様被仰聞候其段申聞候

十四日 御用場出仕

十五日

十六日

一 梅香院様御法事御布施今日可相渡他国他領座頭共罷出候処誓海院

様御布施も頂戴仕度申出候去ル申正月先役日記之趣申聞前々御役

介様方御年忌御布施被下候先例無之付遣かたき趣殊^ニ去ル申年御

三回忌^ニも頂戴無之付大年寄孫左衛門^ハ配當場^江申聞候処他国座

頭共追々孫左衛門宅^江罷越申正月罷出候御^者未之歳迄御仕切之

内^ニ而御取越御法事^ハ「^江年相濟候付被下候何事^ニ相心得殊年始

故御布施^者難被遣候猶姫様御祝儀頂戴罷帰候様被仰渡候了簡仕

候而罷帰候^処此度例^ニ被成候^而者迷惑之由申付御用番一学殿^江参右

之段被申伺候^処此度^者可被下候此類之御法事被下候例無之旨被

申聞御遠忌^ニ者被下間敷申渡^者遣し候様^ニ被仰聞此段大年寄^江

申渡ス

一德守宮相撲加日二日願出候社用承届無之由付此方願書も指戻し候

十七日

一梅香院様誓海院様御法事御布施座頭^江被下今日相渡ス小頭部屋目

付罷出ル銀高八百五拾三匁五分

一林田町舛屋新助家屋敷去ル戌年同町作人甚之丞^江質入^ニ而銀札百

五拾匁借用此度元利相渡シ家請戻し候旨断書出ス

十八日 御用場出仕

一北山修斎周斎^与文字改度断書指出ス今日勝手次第承届候様^ニ被仰

渡候大目付御奏者所^江相届ル^是者御目見仕候故如右

一万人講出役人馬之儀大目付中^江申達ス取人五人但組病人^者人有之

付例^ハ忝人相増ス之儀先日之通

一愛染寺来春千部入仏建札致度旨寺社取次中被申聞御用所^江御伺申

上大年寄^江申渡ス

十九日

一新職人町塗師八郎右衛門町内不残呼出シ遂詮議候委細別帳^ニ具^ニ

記ス

廿日

廿一日

廿二日

一似せ札師清内^江本郷甚五兵衛預ケ置候道具之儀承合半屋^江遣ス中

山市左衛門金嶋喜代治罷出書付有之

一万人講出役御郡代栗原新五兵衛町奉行拙者罷出ル下役石名平太兵

衛御徒目付藤田弥八郎下目付忝人同心組拾人内三人取人大年寄大

庄屋忝人ツ、罷出ル書役川端田六罷出候勝手詰松岡八十治出役寄

札高老万四千九拾九枚三步銀式拾老貫四拾八匁五分但六拾番

御用番^江御届罷越大目付届手紙遣ス

廿三日 御用場出仕

一町分門松渡り候名面書付郡代所望付認遣ス

一御年貢相濟端米町方^江調候事勝手次第御用番被仰聞大年寄へ申渡ス

一馬持拝借大豆願書御用所及御沙汰御聞届濟御勘定奉行及挨拶大目

付中申達候^処御日記^ニ者不^レ留^由

廿四日

一講残り札渡し小頭罷帰ル銀札渡場^江組兩人罷出ル

一桑原村清右衛門明後廿六日久世役所^江遣候付今日内吟味して当分

出牢手形郡代所^ハ被指越候出牢人^ハ「^江所意遣ス後刻入牢組中山市

左衛門罷出ル牢手形戻ス

廿五日

一 右清右衛門今日久世役所江遣候由早朝出牟会所江相渡又組中山伝内出ル郡代所出牢手形来ル右御用番大目付御届手紙遣ス

一 新職人町出入一件今日呼出シ再吟味左之者共吟味中手続申付候尤先達而御伺申置今日御届御所江手紙遣ス

塗師屋

手鎖 八郎右衛門 手鎖 喜平治

豆腐屋 坂本屋

同 忠右衛門 同 源兵衛

大工 木挽

同 伊兵衛 同 宇兵衛

年寄

禁足申付ル 長右衛門

一 桶屋町年寄大坂屋治郎右衛門新職人町年寄当分兼役申付ル

廿六日

一 西今町安田屋清助後家持来リ旅人旅籠屋株伏見町吉田屋半三郎へ譲リ申度旨願書出承届ル

一 林田町舛屋新助家屋敷表口三間裏行六間五寸中之町作人丈兵衛取次ニ而質物ニ書入銀札百六拾匁来子十月切借リ請申度願承届ル

廿七日

一 林田町門屋又七持来リ油屋道具備前豆田村孫六与申者江壳渡申候付川筋通切手願出先格も有之ニ付承届則川切手印形遣ス

一 桶屋町南側作人伊兵衛表口式間裏行七間小半代百匁相極境町小

「一」へ壳渡申度承届ル本証文出ル

一 錢相場老匁ニ六拾三文通用

廿八日 御用場出仕

一 新職人町ぬし八郎右衛門町内一統之出入再三吟味之趣口書を以御用所江申上御仕置之趣奉伺明廿九日取計候之段大目付所江申達戸ノ貫釘御作事江被仰付被下候様申談

一 河原町年寄藤田屋惣右衛門善三郎と改号願承届ル

一 船頭町船本屋左助醬油古道具坪井町桔梗屋庄右衛門ノ買請木知ケ原村福岡屋又三郎江差下申度願承届ル

一 昨夜教王方之者町内火繩ニ火を付ケ夜中通リ申候付川端又六見答尋申候処妹尾文藏ノ不苦之旨申付右之通之由申候此段大目付渡部氏江及噂夜分之儀者左様無之様ニ致度旨及噂候

一 三木伊平太太坂ノ帰着之由

廿九日

一 塚田新十郎昨夕大坂ノ罷帰案内罷出ル
一 新職人町出入一件及裁許候申渡書付別帳ニ留置候

塗師屋 白銀屋

戸ノ 八郎右衛門 追込 宇兵衛

豆腐屋 大工

戸ノ 忠右衛門 追込 伊兵衛

年寄 瀧本屋

役義取上

追込 長右衛門 追込 組頭 五郎右衛門

豊屋

白銀屋

追込

組頭 儀助

追込

組頭 平助

ぬし屋

追込 組頭 喜平治

右御用番大目付中御届手紙遣ス

晦日

一御用番小須賀一学殿ハ罷出候様申来即刻罷出ル大目付立会被仰渡
塚田新十郎儀就御用勘定所詰被仰付候尤町人別可相放旨右我等於
宅大年寄新十郎同道罷出申渡候御届手紙遣ス

一西川小形伴左衛門同進吾ハ空部為見廻書状通谷紙千枚到来相応及
返書使之者定宿吉田屋喜八ニ而致賄可申旨付ル

一京町類族無事罷在候旨届書

一福渡町北側三丁目草津屋茂一郎家屋敷表口四間裏行拾七間代三百
目作人文治江壳渡申度旨承届ル本証文出ル

十二月

御用番

下村友右衛門殿

大目附

村山平学

大年寄

玉置忠兵衛

朔日

一友右衛門殿ハ罷出候様申来大目付立会被仰渡今津屋平藏御勝手向
出精ニ付三人扶持被下候猶又出精可致旨被仰渡候大年寄以奉書同
道罷出候様申遣ス石名平太兵衛 并 小頭立会申渡ス御用番 江 御届手
紙遣ス

一大年寄歳暮年頭献上物伺申出ル

二日

一橋本町檢物屋源四郎家屋敷表口式間裏行拾貳間代式百匁同町淺本
屋源藏借屋作人十兵衛へ壳渡申度願承届ル本証文出ル

一田原屋六兵衛願書之内意承候

一米相場 御藏米 六拾貳匁
町米 五拾七匁

三日 御用場出仕

一佐々木東馬今朝被参仕立屋清八疊屋源治内用付遂吟味度義御座候
町内 江 御預ケ置被下候様被申御用所 江 伺之上可申付旨及挨拶右之
趣御用所御内意申上候処大目付中 江 及内談候様被仰聞致対談候処
存寄も無之候付後刻於御列座申上町内預ケ候様可取計旨被仰渡候
右大年寄 江 申渡ス尤番人ヲ付家職之儀 者 致させ候様 ニ 申渡ス

一大年寄歳暮御祝儀来年頭大年寄惣町献上物御用所 江 御伺申上書状
認出江戸御奏者村山左仲三原金大夫書状遣ス江戸小勘者献上物之
義頼遣ス右書状遣候儀爰元御奏者所 江 申談書状 者 小勘者 江 相渡ス

四日

一小性町為屋長助後家家屋敷東側表口三間裏行拾五間老尺代三百五
拾匁同所小菊屋藤藏 江 壳渡度旨承届ル本証文出ル

一中之町葦屋忠四郎家屋敷南側表口四間裏行拾七間同町灰屋喜七口入苗木屋兵藏^江質物^ニ書入銀札五百匁借用致度旨承届ル本証文出ル

一河内屋安兵衛儀借物日延断書来ル八日迄申出ル

一坪井町年寄塩屋八郎右衛門病氣付役免願出ス

五日

一佐々木弥太夫社參仕立屋清八町内預ケ指免呉候様^ニ被申聞則大年寄^江申遣し指免ス

一三軒番人罷出御城山之枯木御作事^ハ伐申候届申出ル

一御藏元今津屋平藏弟相果忌中引込届申出ル

六日

一平井半平大坂出立

一他国請酒株譲り預ケ類願書近年酒改之者共年寄之奥^ニ印形いたし指出候尤先年印形^者加候様申付候事之由候得共場所尤ならず存候付前々酒改印形無之相濟候故今般酒改加印相止願主^ハ文談之内^ニ酒改何之誰^江届申候旨書込相願可申候尤願之通承届候^ハ、大年寄^ハ酒改之者^江為相知可申之旨申渡候忠兵衛年^{マデ}

七日

一米相場 御藏米 六拾三匁

書付出ス

町米 五拾八匁

八日

一坪井町年寄塩屋八郎右衛門願之通役儀指免跡役悴文藏^江申付ル

一牢舍人藤左衛門丈助佐内同妻仕着せ願出伺之上關所銀之内を以調

遣ス代五拾三匁但四ツ分

九日 御用場出仕

一新職人町追込之者六人今日大年寄宅において川端又六立会指免ス以来町内致和順候様申渡ス委細申渡帳^ニ留ル

一安岡町村永屋甚右衛門借屋弓削屋小太郎家内式人新田村引越度旨郡代中申合承届ル

一鍛冶町鍛冶六右衛門久米南條郡弓削村長兵衛引請^ニ而出職当亥^ハ勿迄家内五人罷越度旨家屋敷^者町内嘉右衛門相勤させ可申付承届ル

一修理様御袖留御祝儀座頭共へ今日相渡ス七百弍拾三匁小頭部屋目付配当場^江出ル

十日

一竹垣庄藏殿久世御代官所支配東北条郡河井村^江押入盗人先達^而這入右吟味江戸表^江被相伺被仰付候由之処^ハ□□村村番人文六^与申者右懸り合付牢舍被申付候元□□□□罷越候當時人別除有之由申候得共為念聞合候旨書状到来依之□□□□非人共大年寄宅^ニ而遂吟味候処四年以前人別離シ□□村^江罷越候之旨申候依之大年寄月番玉置忠兵衛印形之吟味書久世御代官所^江返事相添遣ス尤御用番御伺申上候

十一日

一大目付所廻状從公儀御触書相廻ル百性共大勢子^{マデ}供有之候得^者出生之子^ハを産所^ニ而直^ニ殺し候旨不仁之儀候以来右躰之儀致問敷旨委細^者触書帳^ニ留ル

一境町^(マ)ひわた屋助左衛門兄忠治義先月中旬^与風罷出行衛相知不申候
付斷書指出ス先格之通百日尋申付ル

一銀札場錢八拾箇川下札元川切手被指越致裏印戻ス

一江戸小勘者久保田彦五郎田村多右衛門杉浦平助江大年寄献上物当
春之分金三步拾匁八分江戸表^江指遣候請取返書来ル右返書大年寄^江
相渡ス請取書^者不来

十二日

一中之町疊屋源治町内預ケ指免度旨佐々木東馬申聞候之間預指免遠
方^江罷越様可申付旨大年寄^江申遣ス

一米相場 御藏米 六拾四匁
町 米 五拾九匁

一祇園三位扇子札持参

一藏合孫左衛門罷出去歳之通御札写り指上申度旨申聞ル

十三日

一新職人町塗師長右衛門追込指免ス豆腐屋忠右衛門戸^メ指免ス大年
寄宅^ニ而小頭立会申渡ス戸^メ開見届中山伝内指出ス

一大工老人人足老人大年寄申付指出ス

一戸河町^(マ)沢屋虎吉願出候平田屋平八元家屋敷表口三間裏行拾七間
去ル西十月作屋庄吉名代として私買請売券状所持仕候今般私名面
付替申度旨先格も有之間承届ル

一戸河町^(マ)玉津屋勘左衛門甥新兵衛久世御代官所大庭郡大庭中村紺
屋治郎兵衛引請^ニ而当亥今来ル寅迄四ヶ年之間遣置申度旨承届ル

一御用竹式艘川下御作事役人今切手相廻裏書印形致遣ス
一今般従公儀被仰出候御触書今日惣町相触候様大年寄^江相渡ス町々
年寄呼出シ申渡候様先格之通申付ル

十四日 御用場出仕

一座頭共相渡候御祝儀書付及御沙汰大目付所^江指出ス
一祇園坊御札指上候儀大目付中を以申上候処一ヶ年之切之様被仰先
役承合日記調候処未年今以来相納候付其段申上候処十八日御用日
御札相納候様被仰付藏合孫左衛門請込付御用場^江持参小勘者^江相
渡ス以来御初穂百疋ツ、被下置候旨被仰渡是又孫左衛門請取相渡
候様申談尤小勘者高橋小右衛門^江申談ル

十五日

一元魚町河内屋安兵衛二丁目^江通筋家屋敷表口六間半裏行六間土藏
式ヶ所質物^ニ書入二丁目小倉屋茂兵衛取次銀札老貫五百目来子十
月切借用仕度旨願書指出シ承届ル

一京町紙屋善兵衛家屋敷表口四間裏行拾七間代六百五拾匁町内桶屋
四郎兵衛売渡申度旨承届ル

十六日

一上紺屋町灰屋善右衛門借屋伊助家内四人栗田唯治長屋^江引越申度
旨承届ル
一二階町山手屋弥右衛門借屋^江大熊兵庫殿長屋罷在候權助家内式人
指置度旨家守忠助今願出承届ル

一米相場 御藏米 六拾五匁五分
町 米 六拾匁五分

十七日

一魚住藏人明日罷歸候旨為暇走入來申置

十八日 御用場出仕

一新職人町塗師屋八郎右衛門戸メ指免ス石名左五兵衛立会申渡ス取計前ニ同シ略之右御届於御用場申上ル大目付中江も達ス

一藏合孫左衛門伯母下方村妙隨儀病氣保養逗留当年中願置候処來七月迄日延願出承置候

一坪井町年寄塩屋文藏八郎右衛門と改号願出承届ル印鑑指出ス

一林田町茅屋八十治借家茂助家内四人栗原新五兵衛長家江引越申度旨承届ル

一吹屋町北村屋孫七忰兵助久世御代官所宮尾村藤田屋權兵衛方江養子ニ指遣度旨人別除

十九日

廿日

廿一日

一材木町年寄車屋源兵衛跡役忰和助申付候以後源兵衛与改号

一元魚町美濃屋彦兵衛乃井野預り所久米南条郡塚角村幸助与申者私内縁御座候引請御当地住宅為仕度旨願出承届ル

一下村友右衛門殿合手紙到來罷越候処大目付立会郡代栗原新五兵衛拙者兩人江被仰渡似せ札有之由申出候別紙名面召補候様被仰付候

廿二日

一□□□村穢多与平治茂治郎召捕郡代所申合組之者指越候委細末ニ記ス

廿三日

一右吟味ニ付御用場出仕及御断候

一牢舍藤左衛門清内為吟味石名平太兵衛小頭石名左五兵衛平組中山市左衛門室井政治下目付申立テ長谷川新藏罷出候

一昼時与平治茂治郎召捕罷帰ル新五兵衛立会於拙宅遂吟味候暮時友右衛門殿平学江罷越口書を以委細申達候藤左衛門清内白状判行土中ニ有之出ル

一院庄村城浪町分江引越願書郡代所江指出シ候承届候旨為知有之

廿四日

一河内屋安兵衛銀札場借物返納相濟候之趣御用番大目付江申達候

一城浪義配當場役申付候大年寄於宅為申渡候

一境屋伊助内縁之者大坂田部屋善四郎用事ニ付罷越來正月十五日迄逗留為仕度旨願出承届ル乍去博奕等堅為致不申様申渡ス

一鍛冶町鍛冶屋藤四郎忰清助播州赤穂新田村茂平治方江五年切奉公罷越度旨

一同町鍛冶屋勘七忰勘治郎播州佐用郡古殿町藤助江五年切奉公罷越度旨

一同町鍛冶屋吉左衛門忰七三郎去ル九日風与罷出以今罷帰不申断出ル百日之尋申付候

一村山平学合手紙罷越候処穢多共懸り合手鎖申付候様被申聞候

廿五日

一 於牢屋穢多□村太郎兵衛□村久兵衛家来三手鎖申付尤郡代下
代立会取計申渡候小頭罷出申渡ス手鎖郡代所足輕取計

廿六日

一 佐久間主計殿大坂へ帰着

一 牢番足輕中間追込申付候様御用番御申聞之由村山平字被申渡早速
足輕兩人呼出シ追込申渡ス立会小頭外御用ニ付部屋目付藤兵衛權
六立合中間者頭支配ニ付石垣伝太夫江大目付中指図之趣申遣追込
被申渡候右代り牢番当分使組塩谷曾内渡部忠助中間代り又六文七
拙宅江罷越勤方申渡シ候右御届御用番大目付江申達ス

廿七日

一 □□村太郎吉俸八藏今日呼出於牢屋手鎖申付村預ケ郡代下代此
方小頭立合取計如前

一 牢内諸メリ之儀牢番足輕中間江申渡候様ニ左五兵衛遣ス牢舎扶持
米尾助勇助へ請取使組相渡候様申遣ス帳面付候様ニ申付ル

一 三軒屋中村善兵衛罷出御城山雪折レ木式本有之段申出大目付申達
ス

廿八日 御用場出仕

一 牢屋定法帳相認牢番江相渡ス

一 河内屋安兵衛辻屋六郎右衛門本屋七郎兵衛括り札之事於御次一学
殿御尋被成書付懸御目

宝曆四戌年五月百貫目括り札町奉行所へ申付ル

同八寅年二月六拾八貫目町奉行所へ申付ル

同十一巳年百貫目町奉行所へ申付ル

宝曆十四申年正月廿三日括り札御免之者左之通

林田中之町藁屋林田町豊国屋十右衛門右頭ニ付御免町奉行所へ
申渡ス

一 牢番使組兩人ニ而難儀之趣惣而告人番者三人宛ニ而勤候由御勘定奉
行三木伊平太江申遣シ老人増加藤登八罷出ル

一 昨廿七日夜宵六ツ半時東新町譲り屋勘四郎後家裏借屋太郎吉母火
元出火早速出役御用番御届罷帰ル

廿八日

一 右吟味書御用所江申上大目付所江申達ス火元并家主追込申付ル正
月六日指免ス尤伺候事

廿九日

似せ札取計

一 十二月廿一日御用番下村友右衛門殿罷出候様申来り大目付村山平
学立会郡代栗原新五兵衛一所ニ被仰渡候銀札三分札似せ有之勘定
奉行へ申出候内吟味候処牢内勝部藤左衛門清内心懸り穢多清兵衛
藤左衛門へ三分札を以調物頼申候付えびの魚調可申候処売子請取
不申付戻し申候又々八兵衛申者相頼申候故買子請取不申由藤左
衛門江申聞候得者沙なしと申候穢多与吉承之天目屋庄兵衛江申
出候ニ付牢内可致詮議候且又□□村穢多与平治へ三分札二枚雲
州之弥五郎申者ニ遣候由弥五郎へ穢多喜藏江見せ申候不審之旨
喜藏へ申出候付目明シ十右衛門銀札場依指図備中辺迄弥五郎尋遣
シ連帰り承候処与平治右之札式枚貫候相違無之旨申付小玉銀四匁
弥五郎為持与平治宅へ遣し引替頼申候得者内老奴三分一宮初穂ニ

包呉候様ニ申包貫候開キ見申候得者則不審三分札有之候右之通付
穢多与平治茂治郎召捕遂吟味可申旨及右衛門殿新五兵衛弥三兵衛江
被仰渡勘定奉行三木伊平太江及相談銀札場奉行村瀬八兵衛猶又相
尋候処右之通候

一廿一日天目屋庄兵衛江申付与平治在宿為見届桶屋町新助与申者
□村江遣シ廿二日早朝罷歸ル

一廿二日暮六ツ時□□村穢多与平治茂治郎為召捕□□村江人数新
五兵衛申合指遣ス郡代下代日下伝平同心組中山伝内金嶋喜代治吉
井栄内神田権兵衛目明シ十右衛門□□非人六人為道引右新助人
足ニ連ル札座手代忝人右指越シ兩人無滞召捕兩家内諸道具三分札
其外板行類有之哉与家さがし致候処何之心懸り之品無之候右召捕
之一左右承之牢屋江小頭石名左五兵衛平組中山市左衛門指越シ牢
内遂詮議一々相断させ申候右諸道具之類無之石名平太兵衛下目付
申立長谷川新藏詮議場江遣し藤左衛門清内遂詮議別紙口書有之及
白状板行土中ニ埋有之堀り出シ藤左衛門発氣清内頼三分似せ札致
再起候趣及白状候

一与平治茂治郎弥三兵衛於宅新五兵衛立会遂吟味同類ニも不相聞ニ
付御用番友右衛門殿兩人罷越申達口書懸御目与平治茂治郎□□村
穢多頭預ケ廿四日村方江指戻ス於会所新五兵衛申渡ス

一廿四日御用番御指図ニ付調物等致遣候穢多手鎖村預ケ申付ル□□
村太郎兵衛□□村三下□□村太郎吉悱八藏

一廿六日廿七日取計前ニ有之

一子正月二日半番中間式人ニ而者寝道具持相兼候故難勤旨申出小頭

割場小頭江申遣シ忝人増三人ニ而相勤

一銀札拾七匁銀札場奉行今被相廻此間骨折候者其為御酒代遣ス

銀札五匁 桶屋町新助遣ス

小頭今申渡ス

銀札式匁ツ、□□非人六人江遣ス大年寄ニ而申渡ス

明和五^戊子年正月ヨリ十二月至

御用日記

廿一 井上弥兵衛

十一月廿七日

永井甚太夫

(表紙)

出仕之刻御逢候事之由今日不及面謁之旨御逢無之

二日 御用初

一主計殿主水殿一学殿年頭罷越懸御目候

一西川^江飛脚遣候人之儀大目付^江申達ス

一御用初四ツ前時出仕御用席^江町奉行御勘定奉行御郡代御藏奉行御

金奉行一列罷出御祝儀申上ル右^早而於溜間町奉行初日參御役人銀

札場奉行御代官在目付御料理人並居御吸物御酒頂戴大目付所^江罷

出御礼申上ル

一大目付村山平学被申聞候御用所申渡候様^ニと御座候只今迄町奉行

町方^江年礼相廻り候様粗相聞候御役柄之義町礼^者被致無用然共大

年寄^者格別候間表迄申込候様勝手次第^ニ候之旨被仰渡候右小頭を

以大年寄へ申聞ル

一退出後大年寄三人札元四人年始面謁致盃事候

一米相場 御藏米 七拾匁

町米 六拾六匁

三日

一友右衛門殿兵庫殿^江罷越年始懸御目候

一大年寄三人^江為年礼罷越表迄迎罷出候間及挨拶直^ニ罷帰ル

四日

五日

六日

一東新町出火火元^并家主慎今日指免候右御届手紙遣ス

正月 小須賀一学殿

大目附

渡部惣右衛門

大年寄月番

斎藤孫右衛門

元日

一諸士登城御帳付^早而御家老作久間主計殿御受礼御年寄御奏者大御

目附御列座頭分一統罷出ル

一表御礼前御用席^江町奉行御勘定奉行御郡代罷出御祝義申上候

一今日主計殿友右衛門殿^江面謁等仕者面謁可有之旨^ニ而書付出候様

大目付被申中奥目付^ハ被申聞候栗原新五兵衛拙者友右衛門殿^江面

謁不致旨書付出候処日參之面々御役当日御逢御他行之方者追^而御

譲り屋

右借屋

家主 勘四郎後家

火元

太吉母

不申遣

候間入念可相勤旨申聞候御用番御届申上ル大目付中立会故御届者

一 斎藤巳之八玉置広四郎初^二面謁^一益事致候

一 御用達諸吟味御藏元逢益事

当病

寺田治助

当病

戸田市郎左衛門

伊勢屋長右衛門

姫路屋

今津屋

伝藏

平藏

一 三倉屋善四郎逢候益事無之

一 町々年寄罷出逢候尤大年寄兩人罷出名被露小頭部屋目付立会

一 乃井野森对馬守殿内岡与兵衛源沢東右衛門の年始書状^并銭相場之儀申来返書認遣ス

七日

一 西川小形伴左衛門小形進吾の年始之書状来返書遣ス

八日

九日 御用場出仕

一 西川小形伴左衛門小形進吾^江例年之通年始書状塩鱈^二二本簀卷^ニ遣ス使中間

遣ス使中間

一 元魚町伊丹屋七郎兵衛銀札場札元役申付五人扶持被下候旨於御用

席大目付渡部惣右衛門立会御用番一学殿被仰渡候罷奉書を以大

年寄同道罷出候様申遣シ麻上下^二而罷出右之段申渡ス大切之場所^ニ

不申遣

一 右ニ付一学殿^江御伺申上候処外札元並之通被仰付候旨書付相認相渡ス

渡ス

一 屋号相止名字可相用年始登城被仰付大文字合印門松御免一宮市町

就御用往来帯刀御免町内居宅間役指免供人脇指為指候事指免候

一 因州鳥取城下之者足痛^ニ而步行難叶備中国の送り出シ村順^ニ送來

り候旨伺出候間町内送り候様申付御用番大目付御届申遣ス

一 御郡代中の左之通為知

御預分人別改只今迄正月改候処向後^者四月改六月中右帳面江戸

表^江相廻候様御留守居相談之上相定り候段江戸大目付の此方大

目付^江申越シ御用所^江申達郡代大沢三平^江申渡ス大目付平野丹

下申達之由宝曆十二年九月廿四日書付之由

一 今日御役替大勢有之栗田唯治御勘定奉行被仰付其外略之

正月十日

一 左義長触書相認例年之通大年寄^江相渡ス

正月十一日

一 久世の書状到来銭相場書申来り認遣ス

正月十二日

一 大盤若^ニ付六ツ過時登城四ツ時分相済ム

御藏米 七拾匁五分

一米相場

町米 六拾六匁五分

二三津屋平右衛門所持他國請酒株小性町米屋伝兵衛_江貸置候処此度
差戻シ私方_ニ而商売仕候願書指出承届ル

一備中国分送り出候者新野久本村分送り戻し候付又々町分送り帰シ
候

正月十四日 御用場出仕

一不宜手遊致間敷旨廻状到来組中三軒屋_江申渡ス

一寺田治助年始登城伺候処被仰付候此段大年寄_江申渡ス

一來ル十六日町人共御門出入之儀大目付所_江申達名面書付中奥目付_江
相渡ス

一状箱五ツ指札五枚請取ル

正月十五日

正月十六日

一諸士登城御具足御祝義頂戴拙者儀於宇治橋間頂戴先格_ニ付大目付

渡部惣右衛門_江一昨十四日相尋候処先格之通可罷出旨被申聞然処

今日指懸り表_ニ而順席_ニ罷出致頂戴候様_ニ御用所御申之旨追_而御評
議之上前之通可被仰付由

一伊丹屋七郎兵衛名字武田_与改候願書出シ及御沙汰大目付所_江申達

一御奏者所武田七郎兵衛寺田治助始_而登城被仰付御聞置候様申達ス

一表御祝儀相濟例之通御用席_江罷出ル

一松之間於椽側町医者岩佐孝硯渡部甫庵川嶋桃庵箕作丈庵北山周齋

北_ニ向イ並居御用所不殘松之間御出大目付渡部惣右衛門東之方敷
居下_ニ着座町奉行西之方敷居下_ニ座ス何レも年頭之御祝儀申上候

旨及挨拶当病河合友台右_早而於中口大年寄三人札元茂渡市右衛門

川口藤十郎茂渡藤右衛門武田七郎兵衛右北之方東ヲ上座メ並居南
之方地方目付並居御用所主計殿主水殿兵庫殿友右衛門殿一学殿十

大夫殿北ヲ上_ニメ御着座大目付渡部惣右衛門北之方敷居之上_ニ着
座町奉行北之方敷居下着座右名披露南之方_ニ郡代地方目付名披露

早_而屏風之内_江御入座此間_ニ御用達諸吟味伊勢屋長右衛門御藏元
姫路屋伝藏今津屋平藏北ヲ上座_ニメ並居御用所一同_ニ御出大目付
如前立会町奉行如前着座名披露右相濟直_ニ御退出当病山本三右衛

門寺田治助戸田市郎左衛門福永屋藤左衛門

一今日御役替大勢有之略之

一安藤造酒之助殿御入府御礼使者被仰付

一新職人町豆腐屋忠右衛門次男先達_而無断久世村_江遣シ置候処引戻
し候様申付罷帰候段届出ル

正月十七日

正月十八日 御用場出仕

一鍛冶場土橋昨夜雪水_ニ而式拾間計落候旨申出御用所大目付所_江申

達三月上旬ニハ土用_ニ入候_ニ付舟渡し相成候今四十日計之義故橋

懸直し候義無益付舟渡しいたし外_ニこやし船指出シ往来無滯様致
度旨橋懸人分願候付及御汰沙承届為念書付取置候

一似せ札再吟味郡代立会候様仕度旨申上候処申合可取計旨被仰渡候

正月十九日

一鍛冶場川水減シ舟渡し仕候旨大年寄申出御用番大目付_江届手紙遣
ス

一博奕停止之触書指出候町々年寄大年寄宅_江呼集メ申渡候旨文言触

書狀^ニ留ル

一魚住藏人年始書狀到来先格之通返書遣ス

廿日

一玉置忠兵衛備中早嶋^江罷越度願承届及御沙汰

一新職人町坂本屋源兵衛願大庭郡久世原方村山口屋市右衛門倅虎藏

養子^ニ仕度旨承届ル

一坪井町辰屋左七北側家屋敷表口六間裏行拾七間質物^ニ書入来十月

迄銀札式貫百目同町鍵屋吉兵衛^ハ借用仕度旨

一林田町寺田治助南側家屋敷表口六間裏行拾七間質物^ニ書入銀札老

貫目中之町甲屋和助取次^ニ而借用仕度旨

一二階町境屋猪介方大坂若田部屋善四郎今十四五日逗留日延願承届
ル

一吹屋町北村屋伝七願久米南条郡大谷村助右衛門家内五人私引請借

屋貸申度郡代中申合廿三日承届ル

正月廿一日

一三分似せ札銀札場において引替可遣間持合候者ハ札座^江指出可申

旨惣町触有之様大年寄^江札座奉行田中治左衛門^ハ被申聞候付相触

可申哉伺出候先格も有之候ハ、相触可申旨申聞ル

一札座^江集り候似せ三分札員数承合候処六拾枚相廻候由返書来ル

一牢屋詮議場畳破着座難成^ニ付縁取三枚御作事^ハ相廻り候様被仰付

度旨大目付^江申遣相廻ル

一橋元町綿屋善兵衛勝北郡田熊村へ出職願来ル辰歳迄五年之間承届

ル

正月廿二日

一牢屋於詮議場似せ札一件遂吟味候五ツ時^ハ罷出暮時罷帰ル栗原新

五兵衛石名平太兵衛拙者罷出ル小頭石名左五兵衛部屋目付藤森權

六中山伝内室井政治郡代下代日下伝平藤左衛門清内穢多与平治其

外^ハ村三治郎^ハ村八藏^ハ村太郎兵衛十一月八日^ハ廿三日

迄穢多共不殘遂吟味候与平治手鎖申付候

正月廿三日 御用場出仕

一役所預り高挑燈御紋付式^ハ大文字付式^ハ張替大目付所書付出ス

一牢屋塀覆西之方三間計破落申候御修復書付出ス大目付所へ達早速

相済

一佐久間主計殿上総^与改号大目付^ハ「」^ハ為知有之大年寄^江町々年寄

為知候様申達ス

一東西橋御制札認直之義被申聞候是^者町分取計^ニ無之旨申御作事^ハ

懸はつし候由

一大年寄三人歳暮之御祝義江戸表^江指上候返書御奏者中^ハ到来大年

寄^江相渡先格之通御礼可相勤旨申渡ス

一御初入前町並家破損之所直し候様可申付旨申上ル博奕之触及御沙

汰

一西今町下之横丁崩^レ家相見へ可致修復旨大年寄^江申渡ス

御蔵米 七拾貳匁

一米相場

町米 六拾八匁

正月廿四日

一 林田町松本屋源兵衛悻源助義森口大助養子ニ遣度旨承届人別除
一 中之町藁屋文右衛門娘下横野村彦六方江養女ニ遣度旨郡代中申合
一 備前岡山渡部源治与申浪人安藤造酒助殿江用事付罷越京町花屋忠
八方宿ニ頼指置候旨断出大目付中江御届申置候

正月廿五日

正月廿六日

一 於牢屋藤左衛門清内遂詮議似せ札委細及白状栗原新五兵衛石名平
太兵衛立会其外例之通

一 □□村穢多与吉召捕今日遂吟味鋸小刀類道具牢内江入「」し候
旨申ニ付牢舎申付候□□村穢多六左衛門銀札式拾「」藤左衛
門合借請候吟味ニ付入牢

一 俄御用場有之大目付為知来り早速出仕夜ニ入退出本多長門殿帰府
申来ル

大目付

中奥

同

渡部惣右衛門

宮原喜五郎

桑山十治

本道

針

大役人

久原三益

松山寿軒

池部孫太夫

従目付代り

勘者

坊主

遠藤十助

三浦十郎左衛門

高田嘉三

料理人

蕃和助 右之面々江戸付添被仰付

正月廿七日 御用場有之

一 長門殿御出立御先払掃除立砂奉行罷出候様被仰付

一 御召船川部江相廻候付船年寄出候様大目付申来御船奉行も申来
以後者御船奉行今計申来様申合候

一 鍛冶場渡船御繕願書指出候御用所江指出候

一 広瀬渡船当分借用之儀申出郡代中江申談

正月廿八日 御用場無之

一 境町西川屋重三郎願備前岡山橋本町塩屋伝六与申者酒壳掛取罷越
候付此以後宿仕度旨故障無之ニ付承届ル

一 二階町阿波屋佐助他国請酒株久米屋勘七江貸置候処此度戻し候付
手前商売仕候断

一 西新町作人平四郎柰屋茂兵衛借屋者林田上之町伊助借屋江引越願
郡代所申談

一米相場 御蔵米 七拾匁五分
町米 六拾六匁五分

一 長門殿御出立付町方江触書出ス

一 玉置忠兵衛備中合罷帰ル案内ニ出ル

一 御奏者番中廻状諸士被召出家督成役替被仰付候御礼是迄以書状申
上候処以来右躰之御礼江戸表同役又同席之内以名代御礼申上候様
被仰付候間其節当人合江戸表同役同格之内江被相頼候尤名代江相
頼遣候旨役所江可被申出候

月日

一 宮脇町土佐屋藤右衛門境町三津屋平右衛門所持他国請酒株当子

己正月迄借り請商売仕度旨

二月三日 御用場無之

一新職人町豆腐屋忠右衛門悴忠吉久世千渡世屋勘助方五年切奉公遣度旨願出ル先達而無願他領江遣し候ニ付不届呵取戻し候様申付其後取戻し候段断出此度願出候付承届ル

正月廿九日

一新魚町釜屋太郎右衛門渡部惣右衛門供^ニ而江戸表江罷越度旨

正月晦日

一佐久間上総殿大坂江出立

一江戸表從殿様長門殿江御帰府御免之趣御書来ル之由

二月朔日

御用番

下村友右衛門殿

大目付

太田舍人

大年寄月番

藏合孫左衛門

二月二日 御用場有之

一似せ札一件吟味白状之趣申上候

一米相場 御藏米 六拾七匁五分

町米

一御預ケ本多長門殿去月十九日御赦免今日御發駕町筋掃除盛砂御先

私小頭平組兩人横丁人留拜見罷出候義堅不相成趣相触ル六ツ時御

出立御先乘御小休迄江口庄左衛門御供徒兩人駕籠脇四人跡押渡部

惣右衛門御見送り山岡与左衛門町奉行東新町肥後屋横丁罷出名披

露有之町分無滞通行御用番御届申罷歸ル大目付届手紙遣ス町中二

日昼迄三日昼迄自身番火元申付ル

一安岡町坪屋太吉所持自国請酒株来ル子亥西今町久米屋勘七借り

請商売仕度旨

一西今町金川屋茂兵衛江戸表江罷越度旨

一二階町山手屋弥右衛門所持他国請酒株去ル申年三丁目二葉屋猪助

方江貸置此度戻し候旨断出

二月四日

一大年寄并惣町年頭指上物相濟江戸御奏者村山左仲三原金太夫公披

露相濟候旨返書来り大年寄江相渡ス前格之通相勤候様申付ル

一元魚町年寄油屋与一郎江申付ル

一新職人町年寄塗師屋孫三郎桶屋茂兵衛江申付ル

一町中御初入前ニ付家々表向并御堀裏通抱之分修復可致并指庇崩し

取可申無拋場所家主并間数書付付シ樋を掛往還江水落痛不申様触

書指出ス

一町用銀過分ニ取立不申不益無之様取計可申自家売買之義右同様相

触ル

一衣服之義御法度之物着用致間敷辻番所番人之儀是又相触候

一 鍛冶場土橋先達^一而流候付舟渡不降船式艘^二而往来無滯様申付置候
此此間老艘^三而渡候由粗相聞見届のため組之者指出候処弥老艘^二而
往来人こやし共^二一所^二渡し候旨申^二付遂吟味候処不埒之申訳申
出候故橋掛人蔵元兩人咎之義可相回事

二月五日

一 清内闕所道具委細改無之物今日下目付老人申立小頭書役指越一々
相改帳面認罷帰ル下目付内田五郎治罷出候由本郷甚五兵衛令申来
候箱入三味線ハ無之候

二月六日

二月七日

一 三丁目二葉屋猪助二階町栗屋佐助所持自国請酒株当子夕卯二月迄
借り請商壳致度旨

一 東新町三輪屋文助所持自国請酒株去ル亥二月三丁目大坂屋庄七^江
貸置候処此度戻し候旨断出

一 酒改是迄四人之処竹田七郎兵衛札元^二申付酒改指免候

一 伏見町蔵敷屋太兵衛悱和助京都近江屋市右衛門頼付呉服商因伯^江
罷越十二月迄逗留断出

一 下紺屋町万正院家守長吉借屋源兵衛林田上之町作人弥吉悱權治郎
内縁^二付引請申度旨御郡代申合

一 二階町境屋伊助養子雲州松江松浦屋与三右衛門悱和助不縁差戻
度旨吟味之上承届ル人別除

二月八日

二月九日 御用場出仕

一 鍛冶場舟渡し不埒之儀^二付橋掛姫路屋伝蔵今津屋平蔵伺之上追込
申付ル勘定奉行為知遣入運上奉行^江も申遣候

一 御蔵元相勤候故川下印形等指支候付仮役熊野屋伝兵衛申付候

一 井口村長法寺説法建礼寺社取次申聞付大年寄^江申渡又

一 似せ札一件書付江戸表^江被遣候認御用所^江指上候

一 安岡町綿屋吉左衛門西々条郡市場村庄屋武七娘貫悱喜吉妻^二呼越
申度旨御郡代申合十四日承届ル

一 安岡町洪屋嘉兵衛悱八十八西今町大円寺^江被貫指遣度旨寺社取次
噂有之承届ル御用所御尋被成候老人切之儀^者不及御沙汰私聞置候
旨申上候

一 戸川町組頭連判火事之節用候鉦痛申候旨断出ル

二月十日

一 下村友右衛門殿罷越昨日被仰渡候齋藤孫右衛門繰座相止候義存
寄及御内聞候処先申渡延引候様被仰渡候三木甚左衛門^江參及相談
候

一 大年寄三人呼承候

一 齋藤孫右衛門綿座座老枚付七分ツ、判賃取之一ヶ年三千本平均に
して銀貳貫百目成内老貫八百目札座年賦相納殘^而三百目程徳用宝
曆八年相濟未七年相殘候由

一 蔵合孫左衛門^江綿綿俵判賃船積八分内六分上納式分徳用陸四分内
三分上納老分徳用

一 玉置忠兵衛綿実式拾貫目入老俵運上式匁式千八百本^二定被下候此

運上五貫六百目上納員數増減^二付損徳有之外^二直段相場売合^三貫
目計徳用有之由

二月十一日

二月十二日

一 福渡町^二而土佐屋孫三郎家守十右衛門借屋吉兵衛西尾多内長屋^江
引越度願人別除

一 上紺屋町平左衛門家質請返^シ断書出^ス

一 右同人家屋敷表口三間半裏行拾貳間代貳百目坪井町鍵屋吉兵衛^江
売渡度旨

一 西新町谷屋喜八願太田官平長屋七兵衛倅友八私若年^二付引請後見^二
仕度旨

一 西新町大黒屋九兵衛佐々木東馬へ出入奉公林九助^与改号家役之義^者
倅友藏相勤候私忝人人別御指除可被下旨

一 西新町山伏吉正坊私養子柳治勝北郡豊久田村香々美薰倅此度縁^二
付差戻度旨寺社取次中挨拶有之承届人別除

一 小性町為屋長助後家家屋敷下横丁西側表口貳間裏行拾間半代百七
拾匁町内作人茂兵衛^江売渡

二月十三日

一 米相場
御藏米 七拾匁
町 米 六拾六匁

二月十四日 御用出仕

一 於御用席友右衛門殿被仰渡候齋藤孫右衛門練綿庭座今般相止候様

可申付候右^二付銀札場年賦銀壹貫八百目御免被成候

一 藏合孫左衛門練綿川陸運上御免被成候只今迄孫左衛門^江被下来之
判賃其俣被下候旨被仰渡候

舟運上八分内六分上納御免貳分被下候

陸運上四分内三分上納御免壹分被下候

一 右之段被仰渡候付友右衛門殿^江御内意申上^二壹貫八百目御免と無之
被下候様^二仕度旨申候^三御勝手方内談仕候様被仰聞^三三木甚左衛門
札座之義^二天送先達^三而内談も致候故甚左衛門^江及対談候処尤之義候
間左候ハ、壹貫八百目ツ、五ヶ年切^二遣候旨申渡可然旨此段齋藤
孫右衛門^江申渡候尤右年賦未七年有之由^二候得ハ五年相過候ハ
ハ、式年之義遣し候様三木氏^并御勘定奉行申談可遣事

一 藏合孫左衛門齋藤孫右衛門呼出右之通申渡^ス
一 惣町^江触書出^ス

練綿他領^江出候砌運上指出來候得共諸人難義之筋粗相聞候付為
御救運上令減少船積改判賃貳分陸荷改判賃壹分向後右之通申付
候只今迄之通藏合孫左衛門改印を請川陸共^二他^江指出可申候且
又練綿儀庭座今般相止候様申付候尤実綿他領^江指出候義^者停止
候間相背申問敷候以上

一 右御運上奉行^江為知遣^ス小桁御番所申越候御郡代所相触被申候様
申談

一 御藏元兩人追込申付置候今日伺之上指免候右御所^江御届申遣^ス
一 草苅清内關所道具売払可申旨御用席^江御伺相濟

一 京町石井屋喜四郎借屋御使組高橋庄左衛門^江貸申度旨願書出候処

町内分町江^江借り越候者^者右町年寄間届^届而^而济来候旨孫左衛門申^申二付
前格之通致候様申聞願書戻又

一中之町海田屋五兵衛姪きく林田上町仁右衛門方^江差遣度旨御郡代
申合

一御藏元御船御用^二付出役いたし候^候御町奉行所^所の度々^々申付候哉御
船奉行^行の申付罷出候先格候哉清水多橋尋付町奉行所^所の申付罷出
候先格之旨及挨拶候

一大目付廻状実名相改候ハ、御使番^江実名書付可指出旨御触書相廻
ル

二月十六日

一今日牢屋於詮議場郡代下代神西作兵衛足輕人罷出此方小頭書役
指出申渡又尤機多呼出^者郡代所^所の申遣候申渡^者牢内之義此方^方の申
渡候

□□村機多

出牢之上阿 六左衛門

手錠免呵 与平治

□□村同

□□村同

手錠免呵 太郎兵衛

機多頭

右同断 八藏

□□村同

右同断 三治郎

呵^り申渡 九郎右衛門

太兵衛

機多番庄屋同長名左之通呵追込

□□村番庄屋

同村長名

利右衛門

甚助

□□村同

同村長名

治郎兵衛

与作

□□村同

同村長名

甚右衛門

五郎兵衛

□□村同

同村長名

猪兵衛

伝七

□□村同

同村長名

善兵衛

同村長名

□□村同

同村長名

伝兵衛

太郎兵衛

□□村同

同村長名

九郎兵衛

甚助

□□村同

同村長名

弥兵衛

市兵衛
久兵衛

□□村

□□村

孫八

清兵衛

右之者共申渡させ候御用番大目付^江新五兵衛拙者連名^二而^而諸名字

届手紙遣又申渡書付^者帳面^二有^之之行此所略

一元魚町年寄油屋与一^郎新職人町日桶屋茂兵衛ぬし屋孫三郎右三人

印鑑指出入帳面ニ張置ク

一 船頭町高瀬屋仁三郎醬油古道具備前西大寺川下願出承届

一 安岡町橋留屋四平西川領久米北条郡神代村新平娘妻呼越度旨承届
ル

一 橋本町年寄喜八ハ今朝徳嶋屋長一郎もがり之辺ニ蒲團式ツ捨有之
断書出ス

一 右心懸り之者之申出候様惣町ヘ可相触旨大年寄江申遣ス

二月十七日

一 栗原新五兵衛廻村今朝出郷

二月十八日 御用場出仕

一 林田上之町宗兵衛後家去ル十五日夕盗人這り夜着巻ツふとん式ツ
被盜候断書指出今日及御沙汰蒲團者橋本町捨候色目相違無之夜着

質屋ニ取置候哉惣町江相触候文言留帳ニ有之

一 小性町ニ而味噌屋利左衛門借屋八助家内三人山北村十太郎方江引
越申度旨御郡代申合

一 桶屋町大坂屋治郎右衛門元魚町藤野屋十吉江借物出入先達而返濟
方申付置候処内濟相成以後申分無之書付指出ス

一 新職人町村本屋太四郎土井大炊守殿領分久米南条郡荒神山村伝兵
衛弟伊右衛門内縁ニ付引請住宅為仕度旨承届ル先村庄屋書付出ス

二月十九日

一 御用番下村友右衛門殿於御宅大目付立会被仰渡候札座奉行足輕田
口小助同所手代中野屋六郎右衛門鍋屋義右衛門塩屋新兵衛右四人
牢舎詮議之内可申付旨被仰渡候依之太田友平被參申談官平宅江兩

人指尙申渡相濟手錠揚り屋江召連入牢大小紙入提物洪ニ包藤森権
六室井政治封印牢番ニ預置

一 手代三人呼出詮議中入牢申付候旨申渡ス組三人指添入牢

一 右賄宿元ハ賄可申妻子八町内預家財封印申付ル見届同心組指越候

一 小助ニ而拜屋和助町内預家財封印右御届御所江申遣ス御勘定
奉行江も申達ス札座奉行通達給り候様申遣ス

一 札元五人指扣何出候御用番申達未吟味不相濟ニ付何延行可申旨此
段大年寄江申渡ス

廿日

廿一日

廿二日

一 西今町紺屋長右衛門東横町家屋敷表口四間裏行五間此度鳥羽屋和
助ヘ代百五拾匁相極売渡申度旨本証文出

一 船頭町惣右衛門家屋敷表口三間巻尺三寸裏行四間巻尺右家先達而
町内御預ケ被仰付候此度九拾匁相極河原町作人長助江売渡申度代
札之儀御裁許次第仕度旨申出候出入口之砌四歩六歩ニ取計候様

大年寄江申渡置候ニ付右之通可致旨申渡ス本証文出

一 坪井町辰屋左七母願久世御代官所大庭郡大庭村伝右衛門伴伝兵衛
孫辰之助後見ニ引越申度旨願出候以後出入ケ度事無之様町内申合
可申聞旨申渡承届ル

可申聞旨申渡承届ル

一 坪井町高砂屋兵助所持之他国請酒株去戌歳宮脇町土佐屋藤左衛門江
貸置候此度取戻候私手前商売仕度旨

一 細工町治左衛門神戸村善七弟長七此度私引請住宅為仕旨

二月廿三日 御用場出仕

一似せ札御仕置之筋友右衛門^江於対談間御内意申上候

一桶屋町桶屋佐平治日上村助兵衛忞勤左衛門養子^ニ貫引越申度旨郡

代所申合承届ル

二月廿四日

一戸川町^ニ而土佐屋借屋家守清右衛門借屋弥七義太田舍人若党奉公

罷出度旨田村弥源次^与改号人別除

二月廿五日

二月廿六日

一大目付廻状到来今年御初入被成度之段御先手松前主馬殿を以去月

廿一日御老中松平右近将監殿御伺書被指出候処首尾好御請取被成

候旨申来候右之趣可及演達之旨御用所被申^ニ付申達候尤右之趣組

中三軒^江為知候大年寄^江も為知惣町^江者不相触候

二月廿七日

一坪井町浜野屋安治郎福渡町北側^ニ而表口六間裏行拾七間九年以前

辰年岡本屋勘右衛門^ノ代八百目相極京屋六兵衛名代^ニ而買請則壳

券状私所持仕候此度五人組相談之上私名面書替申度旨前格も有之

付承届ル

一茅町吹屋治兵衛屋敷地表口式間式尺裏行拾七間銀札五拾匁相極吹

屋甚兵衛^江壳渡申度旨

一牢舍九人扶持米六俵請取手形奥印遣ス

一栗原新五兵衛郷中廻村今日罷帰候旨為知手紙来ル

一泰源院様御病氣御大切^ニ付俄御用場有之大目付為知来ル七ツ時罷

出四ツ半時帰宅

二月廿八日 御用場無之

一牢舍人十兵衛不快之旨申出町医遣シ服薬候様大年寄^江申付ル中嶋

仙庵罷越三月六日快薬相止

二月廿九日

一俄御用場有之候拙者義不快断達不罷出

一泰源院様御養生無御叶今已不刻御死去被成候依之来月四日迄鳴物

高声御停止候普請^者不苦大目付廻状相廻ル町分御触書相廻ス

一久原三益母致病死候拙者娘^ニ付定規之通日数十日忌中引籠候旨栗

原新五兵衛を以大目付中^江御届申達候

三月朔日

御用番

小須賀一学殿

大目付

村山平学

大年寄

玉置忠兵衛

一泰源院様御葬送来ル三日取計被仰渡町分申渡ス

三月二日

三月三日

一鳴物御停止^ニ付節日廻勤無之御城当番御門番等平服^ニ而罷出候由

一泰源院様御葬送八ツ半時揃^ニ而七ツ時妙法寺^江御入棺御道筋作事

御門の太田舎前通り竹之馬場人番所西今町妙法寺表門の御先弘藤森権六神田権兵衛麻上下半服立無杖町分御先弘指出又西今町掃除申付ル自身番当日夜中迄西今町茅町福渡町上紺屋町細工町坪井町申付ル町年寄組頭罷出人留不敬之事無之様火元入念可申旨申渡又暮過無滞相濟大目附口上^ニ而届申遣又

三月四日

三月五日

一勝間田町寺田治助先月三日罷出所々相尋候得共相知不申注進書指出栗原氏を以御用番大目付^江御届申達候猶又相尋相知次第可申出尤家内相慎罷出候様申渡又

三月六日

一戸川町沢屋弥四郎借屋五助姉婦り四国辺路罷出候願申出ル
一京町塩屋新兵衛倅大三郎所持宿屋株新兵衛不調法之義付入牢申付候付右之株小性町肥地屋兵藏相勤させ度之旨宿屋頭境屋猪右衛門桔梗屋庄右衛門の願出ル承届ル

三月七日

一穢多番庄屋先達^而追込申付置候処伺之上今日郡代所の地方目付方^ニ而指免候様被申渡候
一鍛冶場舟渡先月十八日橋落候付舟渡しこやし船式艘^ニ而為致置候処最早土用過候付定之通今日の舟渡壹艘^ニ而取計候様申渡又先達^而御届申置候故今般不相届候

一牢舎十兵衛快薬相止候旨届申出ル

一穢多牢番庄吉先達^而追込申付置候指免可申旨栗原新五兵衛の被相

伺候様申談昨六日地方目付宅^ニ而指免候旨申渡候

三月八日

一東新町靴屋甚右衛門借屋平六同妻同倅平吉同娘同倅庄吉以上五人林田村定治借屋^江引越度旨郡代申合三月十四日承届ル

一右同人借屋文六同妻同倅文吉七太郎以上四人林田村定治借屋^江引越度旨申合同日承届ル

一東新町鍛冶屋権八借屋又左衛門同妻倅以上三人右同人借屋^江引越度旨申合同日承届ル

一東新町鍛冶屋勘右衛門家屋敷戌十一月同町種屋伊助^江質物^ニ書入銀札式百目借り請此度元利返済家請返シ候旨断書指出又

一新魚町魚屋源右衛門伯父善助四国辺路^ニ罷出ル往来百八十日逗留願出承届ル

一元魚町大工十藏土岐美濃守殿御領分英田郡川北村徳兵衛^与申者私内縁之者^ニ御座候付引請住宅為仕度願出承届ル

三月九日 御用場有之

一拙者忌中御用場闕座

一明十日より忌明出勤仕候旨大目付手紙届遣又

三月十日

一今日出勤御用番為御座罷越又

一東新町鍛冶屋勘右衛門家屋敷表口巷間半裏行拾七間弟佐右衛門^江相讓度旨願之通承届ル

三月十一日

三月十二日

一 寺田治助母今朝病死ニ付吊之儀伺出候間慎之由之儀物静ニ取置可
致旨申渡ス右御用番大目付江届手紙遣ス

一 京町味噌屋清八郎小性町家屋敷表口式間裏行拾間家来茂兵衛江讓
り申度旨承届ル

一 魚町いせ屋半四郎久世御代官所勝南郡阿曾村勘四郎悴源助与申者
内縁ニ付養子ニ貫引越申度旨承届ル

三月十三日

一 鍛冶場舟渡清水ニ而相止り候旨申出御用番大目付江届手紙遣ス

一 土屋能登守殿領分吉野郡下町分囚人板乗物細懸堺町大宝屋藤兵衛
方ニ一宿致旨申出候付前後町内夜廻可申付人足等差支無之様取計

町年寄右宿江御用事も候ハ、被仰聞候様ニ申罷越足輕江可及挨拶
旨右之趣御届手紙遣ス

三月十四日 御用場出仕

一 鍛冶場舟渡水干落今朝より通船之旨申出御届申遣ス

一 座頭共泰源院様御吊御布施頂戴仕度旨配頭場申出御用所江申上ル
先年瑞華院様御死去之砌御吊御布施并百ヶ日半減被下以後御年忌ニ

ハ不被下様相見候間右之通取計可申旨申上候弥可被下旨被仰渡候
御勘定奉行申談

一 於対談間似せ札御仕置之儀御用番友右衛門殿江御尋之御答申上ル
一 橋本町捨有之候蒲團ニツ林田村宗兵衛後家被盜物故御郡代へ申出

候付及御沙汰明日橋本町年寄方江庄屋罷越請取申様栗原氏江申談
大年寄江申渡候

一 錢九拾箇銀札場備前川下札元手形両通致印形遣ス

一 茅町治郎兵衛与申者昨朝川水ニ流相果候旨申出及御沙汰

一 公儀御尋もの之儀人相書廻状到来武州児玉郡新量村源四郎次男半
治郎式拾七歳養父江手疵為負逃去候付御尋委細留帳ニ有之惣町組
中江も相触ル十七日迄ニ書付出候様申談

三月十五日

一 元魚町紙屋平兵衛悴宗兵衛十一年以前欠落いたし帰住之願申出候
付昨日御伺申上相済ム大目付所江も申達ス今日大年寄江帰往申付
候罷帰次第案内可申旨申渡候追而而禁足申付六七日ニ而指免ス

一 中之町平野屋猪八親太兵衛同町天川屋伝七兩人西国順礼百日計逗
留願承届ル

一 中之町わら屋忠治郎借屋さん同娘林田上之町太助借屋江引越度願
一 桶屋町外石垣抛之上ニ葬芥捨置候内米老儀昨十四日之朝同町八助与
申者見出し註進申出ル

一 西今町三倉屋善四郎舟積米之内老儀夜前被盜候旨断申出ル右場所
大目付構所故大目付中江一通り届申遣ス追々吟味可申達事

三月十六日

一 小性町ニ而味噌屋清八郎家表口式間裏行拾間召仕作人茂兵衛江相
譲り度旨先日相願文談吟味今日承届ル

一 坪井町高砂屋兵助所持他国請酒株当子辰迄茅町玉津屋茂七借り
請商売仕度旨

一 下紺町古屋長助家敷表口三間裏行拾間代式百式拾匁「」町作人平
七江壳渡申度旨

三月十七日

一昨夜宮川水門之内操綿老本有之材木町々註進大目付中江通用忍ひ番人付置候別条無之ニ付今日御徒目付下目付同心組老人指出立合相改材木町年寄江預ケ置候

一川水相増鍛冶場舟渡留り御所江御届申上ル

一泰源院様御布施座頭共江今日相渡ス小頭部屋目付罷出ル銀高老貫四匁弐分五厘但御百日之分半減ニして相渡ス以後御年廻不被下旨申渡候

一佐久間兵右衛門殿道具本郷甚五兵衛取次ニ而草苧清内江預ケ有之由申聞ニ付事旧候得共右道具之内書付之品々相改候処申一候品無之候左之通色目有之甚五兵衛江相渡候

三味線 一挺 小脇指 一腰
雛 一對 錨 一枚

三月十八日 御用場出仕

一於対談間大目付月番立合御用番一学殿被仰渡候

御用向細工割渡役米五俵ツ、被下候
木屋^与申名字可相用候
研屋太兵衛

御用細工被仰付候三人扶持被下
塗師屋勘兵衛

右指紙を以大年寄同道罷出候様申遣尤町内年寄罷出候様申遣又麻上下着用罷出於玄関申渡立合小頭大年寄町内年寄罷出承之石名平太兵衛不快闕座右御用番計江御届申上ル

一銀札場手代入牢者詮議仕候様被仰渡

一去ル十三日米老儀捨り有之候儀宮川水門之内綿有之候義委細御用所江申上ル町在江本主有之候ハ、申出候様触書出ス郡代中申合ス
一御尋者書付三通大目附所江指出ス

三月十九日

一川水減鍛冶場舟渡致し候旨申出御所江御届手紙遣ス
一銀札場引負田口小助中野屋六郎右衛門鍋屋儀右衛門塩屋新兵衛右呼出遂詮議口書誤り之趣取之立合小頭部屋目書役同心組兩人罷出ル石名氏不快闕座

一元魚町紙屋宗兵衛罷帰候旨申出候付大年寄宅ニ而先達^而立退不届之旨急度呵禁足申付候様申渡ス

一京町味噌屋清八桶屋町善六清兵衛市右衛門義助新職人町茂兵衛木代滞銀四百四拾老匁七分相滞候旨再訴申出大年寄於宅三十日切ニ申渡候

一元魚町檢物屋清八悴平吉病氣為養生大坂江罷越百日計逗留願出候
一戸川町播磨屋七左衛門借屋神戸村座頭城並指置申度旨先達^而郡代申合候間承届ル

三月廿日

三月廿一日

三月廿二日

一京町加茂屋和六悴十兵衛大坂江商売為見習当子辰歳迄逗留仕度旨

三月廿三日 御用場出仕

三月廿四日

一 牢番足輕兩人并中間先達而於牢内似せ札有之不屈^ニ付永之暇指出奉公一切相構候旨可申渡段御用番小須賀一学殿於宅大目付立合被仰渡候

一 京町塩屋新兵衛東新町鍋屋儀右衛門二丁目中野屋六郎右衛門右三人之者引負有之不屈至極候仍而家内不殘御領内追払申付候右家財取上ケ札元^江指遣候様可申渡候

一 坪井町田口小助^ニ而拜屋和助小助義引負有之入牢申付置候仍而其方家内不殘御領分追払申付候右明五日可申渡之旨被仰渡候

一 札元五人今般銀札場足輕^并手代共引負有之段相顯不屈之義候今日手代三人追払申付候必竟其方共役義乍相勤心付薄不^メり出来不屈候急度可申付候得共今般^者令用捨候以後万端心を付入念可相勤候右明日可申渡之旨被仰渡候

三月廿五日

一 牢番毛受尾助杉山勇助呼出シ石名平太兵衛小頭部屋目立^合昨日被仰渡之通申渡ス

一 手代鍋屋儀右衛門塩屋新兵衛中野屋六郎右衛門出牢我等於宅御領分追払書付を以申渡立会右同断但シ大年寄ハ不能出院庄御境目^江送ル見届菜内伝内権兵衛

一 右妻子六人

一 青羽屋和助母妻妹当人以上四人

右御領分追払書付を以申渡ス立合石名平太兵衛小頭部屋目付大年寄式人四町之年寄五人組右古城御境目^江送ル見届市左衛門喜代治政治右取計御用番^江罷越御届申上大目付手代^ニ而届ル

一手代三人諸道具先達而封印致置候付組卷人宛指越相改札元相渡一青羽屋和助家財闕所追^而売払闕所銀^江可入

一 塩屋新兵衛家売払代銀札元^江相渡候様年寄^江申渡ス

一 鍋屋儀右衛門家屋敷先年寺田伝助取次質物書入^者貫五百匁借用候^ニ付質座^江可渡之処伝助相果悴治助欠落跡断絶仍^而遂吟味候処因州智頭村勘治郎^与申者銀主之由相聞候得共義右衛門方^合勘治郎へ^者貫八百匁取替銀請取手形四通有之札元^江請取置候付殊^ニ勘治郎義先年相果跡切手^ニ而居申候由相聞旁以此度筋立候様取計難致右手形年寄方^ニ預り置右之処売払代銀札元^江相渡可申候自然於後々年何角^与申来候ハ、右手形を以差引相濟シ可申候然者難相濟筋^ニも相成候ハ、札元^合此銀指出シ相濟シ可申旨一札取置右之代銀可相渡旨及指図候

一 中野屋六郎右衛門家屋敷無之

一 青羽屋和助家屋敷質入故質座^江可相渡旨申付ル

一 元魚町紙屋宗兵衛禁足申付置候今日指免ス尤御用番前後伺^一

三月廿六日

一 三丁目二葉屋伊助願久米北条郡下打穴小平治娘私妻^ニ貫申度旨承届ル

三月廿七日

三月廿八日 御用場出仕

一 勝間田町寺田治助二月三日致遂電尋申付候得共行衛相知不申旨断書指出シ家内妻娘妹兩人一家^者方^江引越度旨断書指出御用所及御沙汰治助人別相除家内引払可申候但他領在方^江參候ハ、相届可

申候家屋敷卷軒有之御勘定所上納物有之候由御勘定奉行被申上候
付申談兼取計可申旨被仰渡候仍而右之家売払代札役所江指出可申
候御勘定所江相渡可申事右之段申渡ス

一三軒屋番所中村善兵衛屋根大洩り断出候付先達而御断書指上見分
相濟居候処故御作事役人へ申談候

一大目付廻状来月四日隆照院様七回御忌於泰安寺一夜別時被仰付候
御知せ有之三軒屋組中江相触ル惣町江触書出シ三日の四日へ自身
番申付今町固メ同心兩人例之通罷出候様小頭江申渡ス

三月廿九日

一鍋屋義右衛門持畑有之書付差出ス内質入之分町作庄屋江年寄申談
質座江可相渡殘而畑志畝六歩売払代銀可指出若代無之候ハ、上り
畑ニ庄屋江可申談事右者三木甚左衛門岸権六江及相談申付ル
一東の送り者有之新田村江相送候勝山領分真嶋郡月田村弥右衛門女
房病氣之由飭西之駅の送り添状有之右御用番大目付中江届ル

四月朔日

御用番

(欠)

大目附

渡部惣右衛門

大年寄

斎藤孫右衛門

一牢番足輕大谷栄藏松岡左助召抱今日初而目見いたし候

一中間理八伊助遂吟味御中間頭江相廻ス向方ニ而召抱指越候先格也
一山田主水殿本多左門殿栄藏左助出入奉公致候付罷越家臣江相届置
候右為挨拶此方江も又来ル

四月二日 御用場有之

一牢番召抱候段大目付勘定奉行江申達ス中間之儀頭江申談

一御法事ニ付大年寄共参拜之儀相伺先格之通被仰付申渡ス

一座頭共御法事御布施被下候事伺相濟勘定場江申談

一牢番足輕当月御扶持方勘定所江申談相渡ル

一宮市町御触書相廻ル組中三軒屋牢屋番相触候様申付ル

一万人講講元油屋与一郎松門屋五郎左衛門内々断申由指免味噌屋利

左衛門三津屋平右衛門江申付可然段三木甚左衛門被申聞於会所岸

権六石名平太兵衛立会兩人呼出申渡

一鍛冶場船頭小屋御修復願書藏元の指出シ御用席江指上ル

一東新町土手市郎右衛門戸川町伊之助事被成御尋於対談之間委細申

上ル市郎右衛門義四年己前御領分追払未年数も少シ御座候七八年

過御免被仰付度存候段申上ル

四月三日 御用場無之

一西新町住田屋喜兵衛家屋敷表口六間裏行拾七間代三百五拾匁余野

屋伝七江売渡申度旨

一堺町松皮屋助左衛門借屋兄忠治義去ル亥十一月廿七日与風罷出行

衛相知不申百日ニ罷成候人別御指除可被下旨願書九日及御沙汰承

届ル

四月四日

一 隆照院様七回御忌法事於泰安寺一夜別時有之昨晚今朝今町同心組
如例指出ス

一 大年寄参拜先達^而伺之通被仰付今日罷出候

一 座頭共御布施被下候人数貳百三拾人銀八百五拾三匁貳分五厘

四月五日

一 下村友右衛門殿江戸御出立大坂^江御立寄之由

四月六日

一 三丁目草津屋茂一郎借屋美濃職人町丸山屋九兵衛小須賀一学殿^江
出入奉公罷出中山金助^与改号町内人別除

一 船頭町片田屋武兵衛家屋敷表口三間貳尺五寸裏行六間半質物^ニ書
入今津屋伊右衛門^ハ銀札四百匁十一月切借請申度旨

一 林田町坂口屋利兵衛願出候寺田治助妻子私方^江引請申度旨

四月七日

一 町家大破之所^并指庇樋懸候哉檢分小頭大年寄明日罷出ル尤溝筋
見分相済ム

四月八日

一 四月九日 御用場出仕

四月九日

御用場出仕

御用場出仕

一 二階町塗師屋勘平裏御堀足代おろし度旨申出及御沙汰

一 京町妹尾屋松右衛門借屋青市屋六郎右衛門妻悴家内三人西川領久

一 米北条郡下打穴村中村与右衛門才八由緒御座候付引越申度旨御用

所^江申上大目付所^江達ス

一 伏見町大工屋治助娘さく林田上之町喜七妻^ニ遣度旨郡代所申合承

届ル

一 座頭^江被下候御布施銀高及御沙汰大目付所^江達ス

一 鍛冶町鍛冶屋吉左衛門悴七三郎去十二月欠落此度人別除願出御用

所^江申上大目付所^江達ス

一 当秋万人講日限相究建札之義申出十月十六日申付岸権六^江及内談

尤及御沙汰大目付所^江達ス

一 宮川水門之内^ニ有之練綿俵被盜主安岡町車屋利助断出候付伺之上

本主^江戻し遣候様申付候尤大目付中^江及対談立合^ニ不及両町年寄

出合請取渡候様申渡ス

一 桶屋町土手^ニ捨有之候米壹俵同町八助^ハ見付申出西今町三倉屋善

四郎船積米之内之由申出候遂吟味伺之上両町年寄立合請取渡候様

申付ル

一 材木町練綿俵盗人申付候入用惣町^ハ吟味之上遣候様及指図

一 御初入町方御用向調候書付出ス大目付所懸御目候勝間田川部之註

進^者使組被指出候様町方不及註進惣右衛門被申聞候

一 一宮市町参懸り北条見せ物せ話やき吹屋町矢野原屋七兵衛被願候

旨申出及御沙汰尤一札指出ス

一 一宮市町触書大年寄^江渡ス

一 船頭町手嶋屋伝右衛門悴弥平治先年追払之者徘徊之願妙願寺^ハ願

出候之趣於対談之間御用番一学殿御尋被成候十四日御用場御答申

上候年数五年^ニ罷成候七八年も過御免御座候様申上ル

一 河原町北側菓屋藤吉家屋敷表口貳間半裏行八間半代百貳拾匁京町

藤原屋長兵衛^江壳渡申度旨

一 東新町鍛冶屋佐右衛門家表口老間半裏行拾七間質物^ニ書入種屋伊

助方ハ銀札式百匁当十月切借り請申度旨

一 鍛冶町たはこ屋市郎右衛門家表口三間半裏行四間半右之内北之方表老間裏行三間代百匁幾世屋太七江売渡申度旨

四月十日

一 三丁目浜野屋善十郎断出候備前和氣郡秋山久三郎親類之者ニ御座候十日計逗留為仕度旨承届ル土官ニ無之付不及御沙汰候
一 青羽屋和助闕所物払代九拾匁式分坪井町年寄ハ指出ス

四月十一日

四月十二日

一 東新町鍛冶屋庄右衛門寺田治助妹兩人引請申度旨
一 船頭町作人八兵衛広瀬渡守ニ罷越申度旨家内三人人別除
一 林田町馬持伊兵衛久世御代官所勝南郡新田村夫兵衛家内四人私親類付引請渡世為致度旨及御沙汰大目付所江達ス

四月十三日

一米相場御蔵米七拾式匁町米六拾八匁
一一 宮市町田植祭付組兩人如例指出ス

雨天

四月十四日 御用場出仕

一 於対談間御用番一学殿大目付立合被仰渡候戸川町浅右衛門悴伊之助先年御領分追払候処今度御法事付妙願寺願徘徊御免被成候此段可申渡旨早速大年寄江申渡ス

一 林田町福地屋榎三郎借屋天満屋長右衛門家内兩人林田村半四郎借屋江引越度旨郡代申合承届ル

一大目付村山平学対談御初入付御城内掃除急ニ出来兼候町人足ニ七

合五夕遣指出候様致度旨相談付町方之儀者表向ニ而先家ハいたし来り之人足等指出候得共被規之義者難申付趣申談然共格別之御指支御座候へハ達而御断申候氣毒候へ共下方此節困窮殊ニ彼是批判も氣毒幸卯年末迄式拾歩一銀壹貫六百目御座候是を以日雇ニ而御済シ被成度旨申候処御用番江御内意先当分借用遣ひ候可然旨相談相極ル

一 於対談之間一学殿江申達候船頭町手嶋屋伝右衛門悴弥平治事宝曆十四申年錢目付似せいたし候御領分追払被仰付未年数も少ク御座候付七八ヶ年も過御赦免御座候様申上置候

一 京町多賀屋平三郎借屋忠治郎家内三人二宮村忠三郎借屋江引越願申合承届ル

四月十五日 雨天

四月十六日 雨天

一一 宮市町参懸り見せ物世話やき福渡町皆木屋甚助願書指出ス
一 清内闕所道具今日道具屋入札払代三百六拾三匁五分
一 大目付村山平学ハ手紙到来御城内掃除人足御作事指支付去ル勿ハ未迄之家屋敷売式拾歩一銀町奉行所預り之分老貫六百目余御作事方関十治江貸遣し候様申来ル尤此間対談いたし置候付手紙到来

四月十七日

一 大目付ハ手紙御用番一学殿宅江罷越候申来ル右於御宅大目付立合被仰渡候田口小助義入牢申付置候処今般隆照院様就御法事助命御領分追払申付候明朝可申渡旨

四月十八日 御用場出仕

一六ツ時過田口小助出牢右之趣書付を以申渡ス川部御境目江追払見届中山市左衛門金嶋喜代次合石名平太兵衛小頭部屋目付書役読渡候右為御座両所江手紙遣ス

一武拾歩一銀役所預り壹貫六百拾三匁六分六厘閔十治江相渡預り証文御用單筒江入置候

四月十九日

一中之町榎屋弥吉私兄文太郎亥八月御断申上倉敷江三年限奉公罷出候処病氣付罷帰候旨断出ル

一京町藏屋忠八方江備前渡部源治郎今三十日計逗留為仕度旨申出ル

一京町南側ニ而表口五間裏行拾七間家屋敷先年塩屋新兵衛名代ニ而茂渡市右衛門買請置候此度庄右衛門与名代替相改申度旨願出候遂吟

味候処相違無之趣付承届ル

一鍛冶町東西横丁美濃職人町横丁溝筋不埒之所古来之通溝付候様ニ

申渡候

四月廿日

四月廿一日

四月廿二日

四月廿三日 御用場出仕

一二階町白銀屋庄助裏通御堀江足代おろし申度旨書付付シ御用席江申上大目付所江相達ス

一大目付所被申聞候来ル廿八日御城御用場ニ相成候御吸物御酒被下候麻上下着用可罷出之旨

一牢舎無宿十兵衛我俣いたし候付足絆懸申候旨及御沙汰大目付所江

申達ス

四月廿四日

四月廿五日

四月廿六日

一東新町鍋屋儀右衛門闕所田地先達而断申出候付地方三木甚左衛門江及内談取計候

代拾五匁稻葉屋新七江壳渡ス

一下々畑 壹畝六歩 高壹斗八合八出村分

質座芦田幸助江相渡ス

一畑 六畝式拾七歩 高九斗壹舛

右町内年寄取計代銀札元江相渡候様申付ル

一御国使者有之節立宿山本三右衛門戸田市郎左衛門吹屋八左衛門申付ル

四月廿七日

一佐久間上総殿宅江呉服屋綿「」嘉一郎罷越候様宿境屋江申来伺出

候先格之通宿屋指添罷越候様申渡ス

一町馬式拾五疋為見分小頭部屋目付指出ス先年申付取置候式拾五疋

之外五疋分飼料大豆を以往来馬諸入用仕其外御歎ケ敷義申上問敷

残銀者預り置落馬有之節御指図次第仲間江可遣旨尤毎歳帳面指出シ大年寄所ニ而見分を請可申旨一札此度改認直シ可指出申旨小頭江

申付ル

四月廿八日

一 今日御用場御城^二相成麻上下着用罷出御吸物御酒被下候銘々於役所頂戴大目中^江御礼申達ス

一下役石名平太兵衛一宮市町^江罷出候事大目付所^江及御内談御伺申上候処今年^二罷出^二不及之旨御用番被仰聞候

一 〇〇村穢多六左衛門^江牢舍藤左衛門^六貸置候銀札式拾匁返納候様申付度旨御郡代栗原新五兵衛^江申談尤困窮者^二而及難儀候ハ、年賦^二而も指出候様御申付候様申談

一 町飛脚明日出立之旨大目付申遣候処吉田又左衛門^江承合せ候様^二可申付旨申来其段申渡ス

一 土岐三太左衛門今日中奥目付被仰付候

一 鍛冶場舟渡滴水^二而止候段申出御所^江御届申達ス

四月廿九日

四月晦日

一 川水減舟渡始候旨申出御届申遣ス

御用番

五月朔日 小須賀一学殿

大目付

村山平学

大年寄

藏合孫左衛門

一 船頭町今岡屋浅右衛門借屋七兵衛林田村喜平治方へ家内式人引越

度旨申合承届ル

一 勝間田町吉田屋与三兵衛家屋敷質物書入中之町藤屋安右衛門取次一桶屋町魚屋義助家味噌屋清八取次質物^二書入

一 安岡町小倉屋治右衛門持来り自国請酒株坪井町加と屋伝助^江預ヶ置此度取戻ス断出ル

一 福渡町市郎右衛門勝山御領分真嶋郡本郷村七左衛門弟幸助引請度願承届ル

五月二日

一 桶屋町四人之者味噌屋清八^江滞銀濟方三十日切申付置候処銘々拾匁余ツ、指出候付先請取残銀又々可申出旨孫左衛門^江申渡ス

一 二階町出雲屋与治右衛門裏御堀へ足代おろし度旨申出及御沙汰大目付所^江達ス

五月三日

登城

御用場出仕

一 高倉村石性院弟子円寿離縁旨社取次^六川井友益弟子之由町分^六願者無之哉旨尋付拙者承置^二而相濟候間御勝手次第可被申上旨及挨拶

一 修理様院庄辺^江御出之旨隅田族^六申来り大年寄^江申遣ス

一 久世御代官九日頃江戸表^江出立之由郡代中為知被申

一 御奏者番廻状

江戸表^六飛脚到来

去月十六日為上使渡部図書殿御越初^而御暇被仰出着物拾着御拝領従大納言様上使山崎四郎左衛門殿を以着物五着御拝領被成候旨申来恐悦之御事候依之明後五日辰中刻^六巳中刻迄之内為御怡

御帳付候間登城可有之候

五月四日

一 一宮市町組毎日指出無滞相済ム大目付所先格御座不申^二付不申遣候

一 市町引弘^二付町方^江先格之通触書指出ス

五月五日 雨天

一 初^而御暇御拜領被遊候御怡於御城御帳付諸士出仕御用席^江例之通罷出御祝儀申上末座合引取ル

一 鍛冶場舟渡止候段御所^江御届申遣ス

一 坪井町青羽屋和助家屋敷關所相成候処九年以前辰歲質物^二書入願

置候付此度和助追弘右家取上ケ候得共質物^二取置候段断出候付承

届質座^江相渡ス此以後岡本屋勘右衛門名代仕替申候様承届ル

一 目明シ非人扶持証文致奥印相渡ス

五月六日

五月七日

一 鍛冶場舟渡水干落渡仕候旨申出御所^江届ル

一 小頭石名左五兵衛妻出産女子出生之旨

一 酒改之者共合断出候酒株無之者之内酒商売致族相聞候旨訴出候付

先格も有之間触書指出ス尤酒屋共^江も書付を以申渡委敷留帳^二有

之

一 桶屋町市右衛門清兵衛善六茂兵衛滞銀返济方三十日切大年寄方^二而

申渡候旨

一 下紺屋町作人茂兵衛家屋敷売同町作人弥助買

一 二丁目幾屋与三兵衛家同町小倉屋茂兵衛売渡

一新職人町河合友益弟子寺嶋久米次郎上高倉村山伏石性院^江養子^二

遣置候処此度離縁指戻し候私家内人別^江相加申度旨郡代中申合承届ル尤先達^而寺社取次合噂有之付及沙汰

一 大目付廻状江戸表合飛脚到来

去月十八日御老中御連名御奉書御到来御登城被遊候処西御丸御

暇之御礼巷尾好被仰上御馬御拜領被成恐悦之御事候此段為相知候様被仰出候

五月八日

志摩守様御病氣之処御養生不被為相叶去月十五日御卒去被成候

今日合来ル十日迄三日之内鳴物高声御停止之事候尤普請ハ不苦

候

右両通共^二惣町^江相触候組中牢番^二軒屋番^江相触ル

五月九日 登城

一 久世御代官竹垣庄藏殿江戸表^江御越当町通行掃除先弘指出ス右御

用番大目付^江手紙^二而届ル昨日御用番^江ハ今日通行之趣御届申上候

大目付中^江ハ不申遣是ハ郡代中合被届候付不相届候

一 坪井町岡本屋幸助家屋敷桔梗屋庄右衛門^江売渡度旨

一 京町味噌屋清八桶屋町四人之者共^江木代出入書付出ス

一 河原町重兵衛組合吟味書付大年寄持参預り置

五月十日

五月十一日

一 牢内掃除之義申出候間喜代治伝内昼廻合指出取計候

一 東新町津国屋与三右衛門後家家同町桶屋清八^江売渡ス

一銀札揚錢六拾箇川下手形来ル致裏印遣ス

五月十二日

一於御城大盤若転読六ツ時過登城四ツ時前無滞相済ム御用所^江罷出御挨拶申上ル御礼供物宅^江為持来ル

一金嶋喜代治妻出産女子出生届有之

五月十三日

一安岡町村永屋利右衛門当国土居大炊守殿領分久米南条郡南庄東村百性^{マヤ}長助私伯父^ニ而御座候此度私方^江引請渡世為仕度旨家内三人御用席^江及御沙汰大目付所^江達

一福渡町作人勤吉伴蔀長屋市右衛門家内三人借屋貸申度旨

一勝間田町吉田屋与三兵衛家屋敷中之町ふぢ屋安右衛門^江質入

一米相場 御蔵米 七拾五匁
町米 七拾壹匁

一西新町伊崎屋長左衛門娘たミ勝山領大庭郡湯原村油屋長十郎^江養女^ニ遣度旨

五月十四日 登城

一大目付渡部惣右衛門被申聞候

御初入被遊町方御通之節先殿様思召^ニ而関貫杯ノ候^ニ不及之旨被仰出候得共此度^者先々之通^ニ相心得可申旨御用所被仰聞候旨被申渡候

一堺町先年焼失屋敷未家立不申他所御使者杯も御座候砌見苦敷候間家作致し候様申付候得共何も困窮急^ニ立兼申候当分塀覆仕度旨申

候年数限塀覆可申付御用席^江及御沙汰御聞届被成候大目付所^江も談置候

一石名平太兵衛御初入之節御迎^ニ出向之義御伺申上置

五月十五日

一修理様八ツ時過河辺^江被為入候旨隅田族ノ申来り大年寄^江申達ス

一堺町三津屋平右衛門林田屋庄右衛門玉置忠兵衛家敷一兩年之内家

作可仕間当分塀圍^ニ仕度旨申出承届ル表口五間半三津屋平右衛門

表口五間林田屋庄右衛門

一伊勢屋長右衛門印判紛失^ニ付改印印鑑出ス

一桶屋町作人常右衛門家吹屋町作人喜平治^江売渡ス

一勝間田町寺田治助家屋敷表口四間裏行拾壹間入札桶屋平蔵買代

八拾匁売券組合印形^ニ而指出ス右同居人居宅表口五間裏行拾壹間蔵

式ヶ所払代壹貫百五拾匁買主福中屋多助右代札合壹貫貳百三拾匁

御勘定奉行可相納物有之候付御用所^江申立伺之上右代御勘定所^江

相渡ス栗田唯治請取書取之大年寄^江相渡置

五月十六日

五月十七日

一官市町中組罷出候弁当代日数十七日分廿匁四分相渡ス

一惣町人別改帳今日大年寄持參請取置

五月十八日 登城

一京町菊屋清左衛門越中富山板屋利兵衛役介人忠右衛門嘉右衛門^与申者例年之通罷越当月迄召抱置売葉為仕申候断書指出ス

一 上紺町土佐屋藤右衛門家屋敷津嶋屋三右衛門江壳渡申度旨

五月十九日

一人別改帳平太兵衛円六読合清帳出来

五月廿日

五月廿一日

一 鍛冶場舟渡止候旨申出御所江御届申遣ス

五月廿二日

一 舟渡始候旨申出御所江御届申遣

一 河原町善右衛門忩重兵衛義不行跡付組合の指除申度旨断出候付先達^而於大年寄遂吟味今日藏合於宅小頭指出シ呵申渡ス以来父善右衛門の急度可申聞此上不埒候ハ、可申出旨以書付申渡ス委申渡帳^ニ扣有之

五月廿三日 登城

一 御初入後町人町医御目見之義書付を以御用席江伺置候

一 牢舎十兵衛義先達^而足絆懸置誤り申出候付今日指免ス

右御用所江申上ル

一 牢屋御修復書御用所江上置御作事見分御座候様申上ル

一 惣町人別帳御用所江指上候

町惣人別合七千五百拾壹人 四月改
当歳以上

内

男三千九百九拾壹人

女三千四百九拾九人

僧壹人 山伏七人

尼四人 社男三人

神子壹人 座頭五人

右紙^者備中三折^ニ而認張り綴袋なし

一 村山平学被申聞御堀掃除例年六月^ニ候得共御初入前故近日致可申旨被申聞大年寄江申渡ス当時町日雇代御作事江相廻し来候故右之代取立出し候様申付ル

一 岡村文針孫中野屋六郎右衛門娘四才^ニ罷成候病氣^ニ付引取養育致度旨願出大目付所江及内談一学殿江御内意申上候処御評議之上吟味次第可申付旨被仰聞候七才未滿之者^ニ候間願之通承届ル

一 戸川町沢屋茂助娘勝北部平村徳右衛門方江養女^ニ遣度旨承届ル

一 安岡町福嶋屋幸助断出候泉州石屋伊八泰源院様御石塔作請負^ニ付私引請六月中逗留為仕度旨手伝人弥七油兵衛伝次源兵衛

一 川水増鍛冶場舟渡止り候付御所江御届申遣ス

五月廿四日

一 舟渡始候旨昼時申出御所江申遣ス

五月廿五日

一 舟渡止り候旨九ツ時申出御届申遣

一 東一宮村仁右衛門忩松太郎^与申百性於郡代所入牢申付御用番一学殿^ニ手紙^ニ而申来り則栗原新五兵衛^ハ入牢手形来ル組中山市左衛門会所江遣牢屋江召連百性牢^江入ル賄^者宿賄也

五月廿六日

一 舟渡致候旨申出四ツ時御届御所江申遣ス

五月廿七日

一 風雨強シ

一 鍛冶場舟渡往来止り候旨申出御所^江御届手紙遣ス

一 安岡町作人藤十郎悴太兵衛義久世原方村米子屋伝治郎引請具可申旨^ニ付当^子の五ヶ年之間為渡世罷越度旨承届ル

一 尾州名古屋之家中^ハ勝山家中^ハ飛脚元魚町香々美屋友治方^江宿取り申候処致方不宜旨藏合孫左衛門宅^江申来り候付書役之者^ハ人^ヲ付肥後屋方^江遣し申候処肥後屋無礼之挨拶其上今町玉屋方^江書付を添参候様申聞候処文言無礼之旁立服いたし藏合方^江申出^二丁目尾高屋宇兵衛方^江申^一「一宿致させ孫左衛門罷越侘言いたし書添候得共宿共致方不埒相聞候付廿八日御用番^江及御沙汰急度呵置候

五月廿八日

一 町在人別帳郡代中^ニ而認出来今日御用席^江町奉行郡代申合罷出帳面御用番^江指上候尤名面之下^ニ致印形指出ス

一 西今町井口屋利七馬去ル十六日真賀^江入湯直屋惣十郎荷物付罷越下真賀^与申所久世支配所^ニ而山道より川^江落馬人怪我いたし候旨所之者大勢罷出致世話遂吟味候処役所^江礼状等遣^ニ不及之旨相応之礼^者いたし罷帰候由申^ニ付不及^一「義候

一 川口藤十郎湯郷^江入湯いたし度旨願出ス勘定奉行中銀札湯^江被通候様申之一通り御用所^江及御沙汰大目付所^江申達

一 宗旨改帳案紙添証文村井六之進^ハ被指越候大年寄^江相渡ス

一 牢屋修復御作事^ハ大工参候付女牢清内妻外^江出シ入替申付ル六月

二日戻ス

一 清内義只今迄揚り家^ニ指置候得共惣牢^江入替候様申付ル

五月廿九日

御用番

六月朔日 小須賀一学殿

大目付

太田舍人

大年寄

玉置忠兵衛

一 鍛冶場舟渡川水減候付舟渡仕候旨申出御所^江御届申遣ス

一 斎藤孫右衛門玉置忠兵衛呼出シ御国使者宿申付候

一 御堀掃除之義御作事御用向付当役所^ハ取計申付呉候様^ニと大目付所^江申達候旨申来ル

一 掃除料百五拾匁大年寄^江戻ス

一 日雇頭善七右請負度旨申^ニ付申付ル

二日

一 林田町鍵屋安左衛門悴三郎治大橋今橋山本三治郎由緒御座候付引

越申度旨町内人別差除候様願出ル承届ル

一 京町塩屋大三郎家屋敷売券状差出ス

一 東新町加ぢ屋五郎兵衛家屋敷表口四間之内西之方式間半裏行拾七

間同町中屋文吉^江質物^ニ書入五百五拾匁借用度旨

一 元魚町河内屋安兵衛家屋敷南側二丁目通り筋北側^ニ而表口三間裏

行拾間代五百匁伏見町小櫛屋宇八^江壳渡申度旨

一肥後屋治兵衛香々美屋友次大年寄於宅呵禁足申付候

一下紺屋町大溝建札痛候様申出候付及御沙汰

一二階町紺屋源六林田井斎町下目付中村藤兵衛長屋作人文八弟半兵衛^与申者私養子^ニ仕度旨承届ル

一去ル廿九日之夕二階町川嶋桃庵方盗人這入り申候旨口上^ニ而断出ル色目書付出候様申付ル

六月三日 登城

一町在人別帳御社寺所認出来大目付^江郡代^江被相渡郡代町奉行致印形堅帳張目^ニ兩人印形致候

一岩田佐七郎跡式大御番組被仰付候

一御堀掃除日雇頭善七^江申付ル請負手形指出ス御作事関氏^江申談載許人使組式人罷出ル

一中之町高尾屋勤七悴勤右衛門四国辺路百日計逗留願出ス

六月四日

一二階町安永院疱瘡守護神来ル七日^江十四日迄施主有之燈明ともし候旨断書出ス

一茅町之内奥町北側^ニ而藤原屋喜兵衛家屋敷表口六間式尺裏行拾壹間右之内北之詰東西三間半南北三間半代八拾匁安岡町大坂屋勤助^江

壳渡申度本証文出ル

六月五日

一東新町鍋屋儀右衛門家屋敷北側表口五間裏行拾七間但大溝切土蔵式^ケ所此度入札落札壹貫七百五匁家屋敷壳券状出ス此代銀ハ儀右

衛門引負有之札元^江弁納^ニ付家財札元^江遣候様御用所^江被仰付依

之入札私代札元^江相渡請取書取之可申旨大年寄^江申渡ス右請取書^者

大年寄預り置候様申渡ス是ハ先年因州智頭郡之者質物^ニ書入寺田

伝助取次^ニ而候処伝助相果悴治助逐電跡断絶殊^ニ十^ケ年余相立其上指引証文も有之由相聞候間右之通札元^江相渡以後違乱候ハ、札元

右之手形を以埒明可申旨書付取之大年寄^江相渡置候也

六月六日

一土用伺御機嫌御帳付頭分出仕

六月七日

一下紺屋町祇園御戸開来ル七日^江十日迄

一川嶋桃庵方盗人吟味之義目明申出候

六月八日

一勝北郡新野西村百性女足痛歩行難叶由井口村^江送り来り候旨申出候付相送り候様申付ル東新町^江林田村^江相渡候付御所^江御届申遣ス

一旅籠屋頭肥後屋治兵衛^并香々美屋「一屋州^江勝山^江飛脚之義付禁

足申付置候処今日呵指免ス

六月九日 御用日

一拙者少々不快^ニ付及断

六月十日 御出席

一川嶋桃庵方^江這入り候盗人吟味之義^ニ付河原町藤原屋長兵衛桶屋町仁助京町善六右三人大年寄宅^江呼出シ先達^而川嶋方^江居候家来

之宿いたし候義付遂吟味候間小頭左五兵衛指出ス

一今日広瀬甚蔵参候^而御堀掃除之義申談候

一裁許人存寄申聞ル

六月十一日

一組川端又六近在否罷歸ル

六月十二日

六月十三日

一御堀掃除病人有之三人出候由別人を入急ニ出来候様申付ル

六月十四日

一御初入ニ付拙者御道筋見分罷出候義及御沙汰御貸人馬之義申達候

一去ル九日江戸御発駕来ル廿六日御城着之旨

一川嶋桃庵方江這入り候盗人之義付取計及御沙汰

一明十五日修理様院庄辺江御出被遊候御道筋其外申聞ル

一京町々東江古林田迄見分小頭大年寄指出ス

一三軒屋番中尾藤助罷出折レ木有之旨申出ル

六月十五日

一大目付所廻状当月九日江戸御発駕被遊土居御泊ニ而廿六日御着被

遊候旨申来候付五ツ半時諸士登城可致旨委細触書帳ニ留ル御当着

日々五日之内麻上下着用出仕可有之旨火之元之義入念可申候供之

者御城内ニ指置申問敷

一来ル廿五日御用所日參之旨触有之

十六日

一川嶋桃庵々盗人之義ニ付先家来長吉請人并宿河原町藤原屋長兵衛

手錠可申付旨大年寄於宅小頭左五兵衛指出シ金嶋喜代治指出ス書

付を以申渡ス申渡帳留ル略之

一其方懸り之者同町作人長兵衛京町善六桶屋町仁助呵申渡ス

一川嶋方紛失之品遂吟味書付出ス惣町并地方目付御郡代江相頼衣類

色目書付来ル廿二日迄ニ可申出旨相触ル

一入牢松太郎為詮議下代牢屋江遣シ度旨郡代栗原新五兵衛々手紙来

ル組之者老人指出ス

一魚町美濃屋仁兵衛西側家表口六間裏行五間半同町美濃屋彦兵衛

取次ニ而質物ニ書人当十二月切七百目借用仕度旨

一船頭町高瀬屋文助家表口式間裏行六間代式百五拾匁同町高瀬屋勤

右衛門江壳渡申度旨

一御作事方承合御堀掃除料左之通日雇頭善七請負候由

成歳分

一式百八拾九匁壹分四厘

内

百八拾匁

請負人善七江渡ス

残百九匁壹分四厘 砂溜掃除料

亥歳分

一式百八拾九匁壹分四厘

内

式百拾匁

請負人善七江渡ス

残七拾九匁壹分四厘 砂溜掃除料

六月十七日

一御作事方関十治々手紙御堀砂溜掃除向方ニ而可申付旨申来り当役

所^二而申付候間裁許人參候様申談

六月十八日 御用場

一米相場 御藏米 七拾六匁五分
町米 七拾貳匁五分

一 二階町珠数屋金七願出候播州姫路在町松井重藏^与申者内縁之者故十五日計逗留

一 佐久間上総殿大坂^ハ帰着御出席被成候

一 御堀掃除料之内七拾九匁四分厘大年寄指出シ内六拾九匁四分厘作事方^江相廻し^残而拾匁^者藻葉取請負人酒代^ニ遣ス

一 明後日御道筋見分罷出候人馬割場^江申遣ス

一 鍛冶頭之義村山氏被申聞委細略之

一 鍛冶場舟渡御着之碓川崎馬船^ニ遣し候様御船奉行被申聞大年寄^江申渡ス広瀬渡舟替り^ニ取置

六月十九日

一 御先番御近習江戸^ハ着

六月廿日 御用場

一 町分御道筋見分^ニ罷出ル京町^ハ東新町迄下役石名平太兵衛小頭石名左五兵衛大年寄兩人諸吟味役咄人五ツ時罷出四ツ時罷帰ル直^ニ

登城御用場有之

一 大和守様御病氣之処去ル十二日御卒去被成今日^ハ廿二日迄鳴物御停止普請^者不苦惣町^江触書出ス

一 土居勝間田^ハ御迎馬三拾五疋頼来ル前格^ハ多候得共御発駕之例も有之^ニ付大目付中迄申談寄せ馬拾五疋御郡代所^江被仰付候様渡部

氏^江申談

六月廿一日

六月廿二日 御用場有之

一 一宮村松太郎明日出牢御領分追払被仰付候郡代申合出牢致させ可相渡旨御用番一学殿於御次被仰聞候

一 安藤鞆負殿江戸^ハ帰着

一 三木伊平太太坂^ハ帰着

一 夜中小者通り札沓枚中奥目付中^ハ請取ル手形致置

六月廿三日 御用場有之

一 一宮村松太郎今朝出牢御郡代^江相渡ス組咄人罷出会所迄送り遣ス

御用番大目付^江御届申遣ス

一 今日^ハ御用場日參^ニ相成

大目付^ハ

御小性頭^ハ

御番頭 渡部惣右衛門

飯塚弥代

大目付役

本役

六月廿四日 出仕

大目付兼番 村山

一 御料理人^ハ申立之由勘定奉行栗田唯治被申聞候姫路屋甚五郎御着御用相勤候町方^江取寄せ候着之内御用^ニ取可申候間御用相濟不申内^ハ外^江売不申様^ニ申付候様被申聞候相考候処当時着問屋無之前々^者問屋咄人^江其段申付相濟候得共只今銘々取寄申候故左様^ニも難申付候間右之意味大目付村山氏太田氏申談外^江売不申様^ニハ

難申付候間御用ニ着姫路屋江取可申間無指支出し可申旨可申渡置与
栗田氏江申談御料理方ニ而も承知ニ致し若其上指支も候ハ、其節可
申談旨及挨拶

一 非人加廻り申付候事及御沙汰

一 横丁々々関貫四時限メ可申旨町方へ申付候段申上候尤本通り者格
別見合取計可申事

一 御在城之中町筋御通り被遊候節横町々々関貫メ候付先々之通可申
付寺町脇関貫メ候而も他所往来有之節者及断達而通り度旨申面々者
往来之事故通し可申旨申上御聞届被成候大御目付所江も申達ス

一 御城着当日先格御座候義者其通りニ取計可申其余之義者大目付所江
相尋可取計段及御沙汰

一 河原町藤原屋長兵衛手鎖指免可申旨申上候御聞届済ム

一 玉琳御着之註進御城御玄関前組之者差遣シ御注進可申事

一 福渡町重屋治右衛門私娘美名義備前津高郡江与味村大庄屋彦七郎
方江養女ニ遣度旨承届ル

一 河原町長兵衛今朝大年寄於宅手鎖指免ス小頭平組壱人指出ス

六月廿五日 出仕

一 夜ニ入玉置忠兵衛罷出今般御先手磯野伊兵衛町廻り之時分數砂之
端杭を折繩を引候処馬上往来難成旨ニ而杭繩共ニ取候様申付町々
年寄宅江罷越候様被申聞候由如例可致哉大年寄申候ニ付大勢之者
遣し候義不可然忠兵衛罷越様子承り可申旨及差図遣候処磯野氏場
所致方不宣旨ニ而立腹之由相聞候得共先其分ニいたし候事

六月廿六日

一 今日御城着被遊候筈五ツ時東新町立宿江罷越待合居申候

勝間田御着之注進人足壱人

御立之注進 同 壱人

川部御着之注進 同 壱人

御立之注進 同 壱人

玉琳江御見江之注進人足兩人

此注進ニ而組之者壱人

御城御玄関江遣ス只今町分江

御見江被成候旨御玄関江申答承夫中奥目附部屋江申達候

様申付遣ス

一 八ツ時御城着被遊候拙者義古林田舛形外並松有之所南方中程江罷
出御目見申上ル名披露有之大年寄三人舛形之東北之方ニ而御目見
申上ル

一 拙者供若堂兩人注進之者壱人鐘挟箱小田籠草履取合羽籠

一 御城着後御跡ハ登城御用席江罷出御祝義申上ル御奏者大目付所江

も申達ス御用相濟候付退出候旨大目付江申達ス御城家老御年寄御

奏者江御怡相廻ル

六月廿七日 登城

一 当役於御居間五節旬月並御礼之儀太田舎人を以御伺申上候処先格
之通被仰付候

六月廿八日 登城

一 諸士五ツ時登城四時ハ御礼始ル干鯛一箱献上御扇計被下置候小役
人御徒迄内山下廻勤

一御礼後居残り御奏者番を被申聞候向後朔日十五日五節句御礼有之候嫡子之面々年始八朔計

一町奉行先格之通於御居間御礼被仰付年始亥猪外ハ先格之通被仰付候旨御奏者番中江及挨拶

一町方触書出ス文言留帳ニ有之江戸表を参候面々江無礼慮外致間敷候事

六月廿九日 登城

一座頭共御初入之御祝義頂戴仕度旨願書願之通被下置候

一明朔日五ツ半時御供揃地藏院御社参泰安寺御仏詣被遊候旨中奥目付中を被申聞尤御先払指出可申旨服着改有之

一右ニ付町筋御通之刻先前之通取計候様先達而被仰渡候得共今般御装束ニ御出被遊候得ハ近在町方拝見ニ罷出可申ニ付先達申上候

通先前之取計ニハメリかたく候間存寄御伺申上候処御城着之通ニ取計可申旨被仰渡候以後御仏詣之義御伺申上候得是又右之通宣候旨被仰聞候大目付所江達大年寄江右之旨申渡ス

御用番

七月

小須賀一学殿

大目付当番持

町大年寄

斎藤孫右衛門

朔日 登城

一如例御用席江罷出ル初御社参御祝儀申上ル

一七間廊下町奉行勘定奉行村田孫兵衛栗田唯治郡代栗原新五兵衛御通り懸御目見申上ル

一御堀掃除料取立之内御作事江相渡候内拾匁残置請負人善七へ御酒代として遣ス

一大目付中廻状御家中之面々御出有之節御出先之方角向寄ニ候ハ、大勢寄合乱舞等相催候義有之間敷候

一御社参御仏参等御規式之御出有之節武芸たり共稽古場ハ格別御出先向寄之宅ニ寄合致稽古候ハ、御帰後を可相始事

一御社参御仏詣等表立之御出有之節ハ勿論御懸ニ而終日之御出有之節も御出先々之方角向寄ニ候ハ、御帰り後迄ハ足輕共弓鉄砲稽古不相成事

右之趣同役支配方江可相達旨廻状到来組中三軒屋番人牢番相触ル

一大目付廻状今般御初入被遊候為御祝儀於御城御赤飯御吸物御酒被下候来ル五日番外以上麻上下着用四ツ時登城可有之候同六日御小

性組以下坊主迄御祝儀被下候先格之場所登城可有之候尤年始八朔登城相濟候嫡子之面々出仕可有之候

二日

御藏米 七拾四匁五分

町米 七拾式匁五分

一関十治を御堀掃除料残り請取書被相廻下方江相渡ス

七月三日

一座頭共^江御祝儀被下候人数式百九人銀高七百九拾弍匁七分五厘
一御精進日御仏詣書付大目付^ハ借用写

每月十七日 御社参
每月十二日廿日
公儀

每月四日八日十四日

右者五ツ半時御供揃度々案内無之筈也

勘定奉行郡代^江通達

一栗原新五兵衛^ハ手紙南新座馬場之内年頃三十歳計之男病氣行倒罷
在候付小田中村庄屋及見候処無相違由右之者母戸川町橋本庄藏借
屋者之由引請候様^ニ可申付哉^与申来り遂吟味候処弥相違無之^ニ付
引取候様申渡ス町内年寄五人組者罷出庄屋立合請取可申旨申渡ス

七月四日 登城

一御小納戸石川左近右衛門^江於御次逢候^而五節旬月並之御札於御座
申上候様被仰付候可然御指図可被下旨相頼御同役中^江も御通達被
下候様申達ス

一泰安寺妙法寺本源寺^江御仏詣例之御道筋御帰り本源寺夫^ハ大番所
前細工町堀端迄御先払指出ス中奥目付中^ハ被申候

一坪井町関貫上紺屋町関貫鍛冶町関貫元魚町二階町関貫少之
間^ノ置申候事

一七間廊下御通り筋^江罷出御目見申上ル町奉行勘定奉行郡代

一細工町作人伝助家屋敷表口式間裏行拾弍間代百八拾匁同町鍛柄屋

五郎右衛門^ハ売渡申度旨

一下紺屋町作人佐太郎借屋仁助同妻家内式人伴部長屋^江引越度旨

一二階町山手屋弥右衛門借屋文太四国辺路往来八十日願承届ル
一同町同人借屋伝助後家右同断

一二階町珠璣屋金七願播州姫路在町松井重藏来ル廿日迄逗留願

一惣馬持拜借大豆願及御沙汰御聞届濟ム人数式十五人壹人大豆式俵
宛

一船持拜借米同断壹人三俵宛米辻百五拾俵

七月五日 登城

一御祝儀被下頭分番外迄御赤飯御吸物御酒肴二種藤之間番頭桜之
間頭分虎之間番外大目付所^江何も罷出難有旨申述内山下廻勤無
之

一御用番被仰渡候来ル九日大年寄町惣代札元町医諸吟味御藏元右御
目見被仰付候御奏者所書付指出ス

一來ル九日御目見被仰付候旨大年寄三人連名奉書を以申遣ス前以奉
書大年寄宛札元其外御目見之面々申遣ス

七月六日 登城

一組付之面々坊主迄今日御祝義朝夕兩度^ニ被下置

一拙者共麻上下着用罷出候

一佐久間兵右衛門殿御役替被仰付候後面謁無之^ニ付今日於対談間面
謁為御礼宅^江罷越ス

一橋本町豆腐屋庄助今朝宮川^ニ而流死仕罷在候旨断出郡代所構之場

所^ニ付申合立合檢分指出ス疵無之^ニ付町内^江請取候様申付帛勝手
次第申付ル御用番大目付所^ハ御届申達ス檢使藤森権六郡代下代神

西作兵衛尤一札双方^ハ指出ス

七月七日 登城

一七夕之御礼被為請諸士出仕五ツ半時始ル拙者義於御座間御目見申上ル先格之通大目付役所前ニ罷出坊主相頼置御用所御座之間江御越跡江引統罷出御小納戸中指図ニ而御次之間之外御屏風之内ニ而御目見申上ル尤披露無之脇指者差罷出候芥子之間中ハ先江罷出候事也

一 日參御役人七間廊下ニ而御通り懸御目見其外表ニ而御礼始ル四時相済ム

一 明八日泰安寺御仏詣御道筋中奥目付ハ被申聞候

一 今般御祝義来ル九日組之者共江被下候旨太田舍人被申渡

七月八日 登城

一 泰安寺御仏詣御先弘町分指出掃除等申付ル

一 七間廊下ニおいて御通り懸御目見申上ル尤平服

一 玉置忠兵衛裏通り御堀江足代おろし申度旨書付出シ及御沙汰大目付所江達ス

一 今日御通り之節細工町向坂九藏前何者歟罷出御通り之節立居候旨中奥目付ハ被申聞町分之義以後氣を付候様被申聞候間大年寄江以後入念町家前人立申候ハ、家内江引キ込又者追弘可申旨申聞ル人留之義所々入念申付ル

一米相場 御蔵米 七拾貳匁
町米 六拾八匁

七月九日 登城

一 町大年寄町惣代札元町医御用達御蔵元御目見仕候六ツ半時登城ニ候五ツ過御礼始ル寺社社男共迄相濟

一 松間於下段青銅壺貫文持参 蔵合孫左衛門

一 同断 斎藤孫右衛門

一 同断 玉置忠兵衛

右三人名披露

一 鏗箱百入一箱 大御番組持出

下段指置

町惣代

一 松間於下段扇子三本人持参 山本三右衛門

銘々前ニ指置五人一所ニ並居 茂渡市右衛門

一 烈御目見申上ル松間 川口藤十郎

紫陽花之間御からかみ暫ク 茂渡藤右衛門

たて有之開之候事 武田七郎兵衛

右ニ而地方目付

一 松間於上段御礼名披露指上物 岩佐孝碩

扇子三本人大御番組持出ル 渡部甫庵

川嶋桃庵

箕作丈庵

当病河合友益

北山周斎

一御通り懸中ノ口ニ而南を上座東向キ並居ル

諸吟味役

扇子箱三本入銘々

戸田市郎左衛門

持参前ニ指置

伊勢屋

御奏者番披露

長右衛門

諸事取計

御藏元

中奥目付申談置

姫路屋

町奉行右之場所江

伝藏

出合不申事

今津屋

書役

平藏

一今日組之者并三軒屋半番足輕都合拾五人御祝儀御赤飯御酒頂戴小頭御台所江罷出請取頭宅江何も罷出改頂戴候右御礼大目付所江申達ス

七月十日 登城

一京町若松屋善左衛門家表口八間半之内東之方表口四間裏行拾七間俵義助へ相讓度旨願出承届ル

一髮結頭船頭町夫右衛門江申付ル尤大年寄方ニ而申渡ス

一宗門改判取候寺院方町会所江出候様書付寺社取次中江頼遣ス

七月十一日 登城

一西今町浜屋文六家北側表口五間裏行拾七間土蔵式ケ所湯殿雪隠在物不残質物ニ書入同町三倉屋善四郎取次銀札式貫五百匁借用仕度旨

一船頭町片田屋夫助借屋者又治郎同俵外吉兩人四国罷出百日計逗留

申出ル

一京町味噌屋善藏米綿懸合問屋願昨日於対談間御用番一学殿御内意申御烈座江指出候様被仰聞於御席申上候処御聞届相済ム願之通勝手次第申付ル尤諸事入念候様申渡ス仕形相究候ハ、書付出候様申渡ス願書并口上書留帳ニ有之

一戸川町玉津屋勘左衛門野本屋甚藏義ニ付書付指出訴答書請取置

一ニ宮村分送り物有之伺出候付町分送り候様申付ル越前浪人渡部嘉兵衛と申者之由尤御用番大目付江届手紙遣ス

一泰安寺江御仏詣例之御道筋中奥目付被申聞候

七月十二日 登城

一御仏詣ニ付七間廊下江如例罷出村田孫兵衛拙者兩人栗田栗原当病尤先格之通御通懸之当病御断者不申上御用所江出候事計当病断大目付へ達ス

一盆中十三日十四日十五日御出席無之旨村山平学被申聞

一東新町鍋屋儀右衛門持畑少々有之ニ木甚左衛門相談之上売払代拾五匁指出町内入用多ニ付町内江為手当遣ス

一桶屋町市左衛門味噌屋清八滞銀当月中日延断書出ス其外之者共返

齊相濟候由

一境町三津屋平右衛門家屋敷表口五間半之間塀囲先達申付候処来

春迄ニ家立候用意出来ニ付春迄板囲ニ而指置度旨申出承届ル

七月十三日 盆休日

一御用ニ付一学殿御宅江罷越ス

一昨夜大年寄申出候但馬国粟鹿明神神主大杉豊前代り同播磨罷越因

州作州御免勅化寺社御奉行松平伊賀守殿之相對勸化御免狀頂戴御領内町在巡行可致旨申出生野御代官平岡彦兵衛殿手代添狀指越候右之趣御用番一学殿早速御伺申上御評議之上先格も可有之付取計候様被仰付候

七月十四日

一御仏詣ニ付仕候様大目付中々為知来り登城如例御通り筋江罷出ル
一地蔵院泰安寺御參詣
一町廻り雨天ニ付今日延行

七月十五日 休日出仕無之

一町廻り相初七ツ半時出ル五ツ時帰宅順路去歳之通

七月十六日 登城

一御代官平岡彦兵衛殿手代飯村佐助江之返書案文御用所江申上ル郡代連名遣度旨申上御聞届郡代中合ス

一学殿於御次被仰聞候御代官所手代文通之義時節柄旧法懇勸ニ惣辨成候間奉紙認候而も可然哉郡代申合見候様被仰聞候栗原氏申合以後者本文ニ安否不認追語ニ安否認奉紙認候而可然申合候

七月十七日 登城

一地蔵院八播宮徳守宮稻荷宮御祈禱所江御參詣被遊候如例七間廊下江罷出ル

七月十八日

一加茂川筋御川狩御出被遊町分御先払掃除申付ル右ニ付御用所御出席無之拙者共罷出
一安岡町手嶋屋幸助持牛病死断申出ル取捨申付ル

一播州魚住蔵人御初入御悦書状到来返書遣ス委狀留ニ有之
一川合友益湯郷江三廻り入湯願書出承届ル

一福渡町北側浜屋源右衛門家三拾年以前未年作人文六名代ニ而小文字屋忠左衛門之私買求置申候此度私名面ニ付替申度旨先年兩人宛之壳券状写出候相違無之間承届ル

一同町同人北側家屋敷表口三間裏行拾七間三拾五年以前寅年作人八兵衛名代ニ而屋根屋五兵衛之私買求置候此度私名面ニ付替申度旨遂吟味無相違付承届ル

一右同人家表口四間裏行拾七間廿二年以前卯歳作人文六名代ニ而私買求置申候此度私名面ニ付替申度旨吟味無相違付承届ル

七月十九日

一御対面所御出被遊候付御用所御出席無之大目付所之為知手紙来ル不罷出候

七月廿日 登城

一地蔵院江御仏詣七間廊下例之通罷出御目見申上ル

七月廿一日 登城

一早朝之夜半迄北大風吹

一鍛冶場舟渡満水ニ付相止候旨申出御用番大目付所御届申達ス

七月廿二日 登城

一米相場 御蔵米七拾貳匁

一於対談間大目付柴崎甚右衛門立会御用番一学殿被仰渡候鍛冶屋市郎右衛門治左衛門同様御用達可申付候尤鍛冶頭ニ而ハ無之候右早而
一村山平学被申聞先達而御用出精ニ付右之通被仰付候右市郎右衛門

忌中ニ付申渡延引廿七日我等於宅申渡ス尤書付いたし遣候

一御道中御供之面々御吸物御酒今日被下候其外御道中皆勤御褒美被下御城着前御用出精之面々御褒美被下候委細略之

一関十治大御番組被仰付候

七月廿三日 登城

一鍛冶場舟渡今朝相渡候申出御所江御届申遣ス

一戸川町玉津屋勤左衛門姪ふう同町野本屋甚藏馴合去月十一日宿元を立退甚藏方江罷越帰り不申勤左衛門の戻し候様ニ申遣候得共指戻し不申訴出候依之遂吟味不義密通之上不埒ニ付今日伺之上甚

藏并ふう儀居町内追払申付候我等於宅申渡ス隣町追払見届書付取

之但手錠者掛不申尤先格之由右見届組兩人指出ス御用番大目付江

御届申遣ス

一町大工棟梁細工町五郎兵衛於作事被申付候旨五郎兵衛の大年寄江

申出申聞ル先格遂吟味候処作事方町奉行江内談有之作事ニ而申付候先格候由今此度為知無之ニ付為以後関十治江及噂置候

一粟鹿明神神主大年寄及対談勸化銀少々も辻ニ而取集メ可遣哉及対

談候処神慮江対し候而も相済不申ニ付初穂之多少不懸家々巡行致

度旨大杉豊前申趣申出御用所江も申上町々年寄申聞せ保頭指添相廻し候筈

七月廿四日 登城

七月廿五日 御出ニ付御用所出席無之

一今日白神惣社一宮観音寺江御参詣中之口合御出被遊候元魚町二階町為知候様申付ル

一藏合孫左衛門の断書先達而相願候伯母妙隨義病氣ニ付当年中逗留

為仕度旨願出ル先達而済「申候日延計之義ニ付御届不申上候

一勝間田町大屋仁右衛門弟与左衛門義村山左仲江出入奉公致度旨町

内人別指除奥村与左衛門と改号

一味噌屋善藏懸合問屋明廿六日初候旨仕方書付指出ス

覚

一当御町米拾石ニ付數銀札三拾匁宛

口錢

売買ニ付式匁

内

八分中買江遣ス

残者匁式分 問屋納

右者 十月平均相場を以在用仕候

一大坂加賀米帳合商内數銀札右同断

口錢

右同断

右者 大坂毎月廿六日廿七日両日帳合大引相場均直段を以在用仕候

候

一繰綿 拾本ニ付數銀札百匁

口錢

売買ニ付四匁

式匁中買江遣

式匁問屋納

右者備中玉嶋十月廿八日相場を以在用仕候

一加賀米帳合当日切商内

拾石ニ付敷銀札拾匁宛

口錢 壹匁ツ、間屋納

右相場遠目鑑を以瓜生原山之相場相図を見請日々取計候旨

七月廿七日 登城

七月廿八日 登城

一今日於御座之間御目見被仰付候旨大目付中被申聞先格廿八日_ニ者

町奉行_者御目見不仕様先役申伝候旨申候処先年之御日記改有之候

処廿八日御目見仕候先格有之候旨指図_ニ付例之通御用所指統罷出

御座間御敷居之外_ニ而当日之御目見申上ル尤表御礼_者無之

一明廿九日泰源院様御位牌妙法寺_江被為入候_ニ付町御通筋掃除可申

付御先_者使組罷出候故同心指出し候_ニ不及之旨太田舍人_ハ申来

り大年寄_江申渡ス

一修理様毎月四日泰安寺廿九日妙法寺御仏詣被成候度々為知申間敷

旨隅田族被申聞此段大年寄_江申渡ス尤御先_者抽出し不申急度掃除い

たし候先格_ニ無之失礼等無之候様下方_江為知置見苦敷物干物等_ニ而

も無之様に致させ候先格_ニ而候

一戸川町玉津屋勘左衛門慎今日指免候

七月廿九日 登城

一今日泰源院様御位牌妙法寺_江五時被為入候町分掃除申付御先_者ハ

出し不申候尤大目付中_ハ申来ル

一御城内同心組卷人夜中御門通り札中奥目付中_ハ今日請取ル小者通

り札先達_而請取候尤預り出し置候

七月晦日 登城

一御奏者番_ハ廻状到来年始八朔五時揃先達_而相触候得共年始_者五時

揃八朔_者五半時揃_ニ而候旨一統廻状来ル

一佐久間上総殿来月五日大坂_江出立之旨御用番為御知有之

一京町味噌屋清八桶屋町木代滞出入濟口書付出入

一類族居所改帳京町_ハ指出ス

一御藏元_ハ定橋願書出入委細末_ニ記ス

御用番

八月

大橋十太夫殿

大目付当番持

大年寄

藏合孫左衛門

朔日

一諸士登城五半時揃御目見有之

一拙者義於御座間先格之通御目見申上ル

一金岡御藏元小倉屋平吉中之口御通懸御目見仕候由尤御初入_ニ付

一七間廊下日参御役之面々御通懸御目見

一御用席_江町奉行勘定奉行罷出御祝義申上ル尤御礼後罷出候末座_ハ

一同_ニ退ク

一御奏者番伊達隼人被申聞候出仕之節自然同役揃候_ハ、御使番_江揃

候旨案内可申被申聞候拙者義御座之間^江罷出候^ニ付揃不參共^ニ御使番^江者届申間敷旨申候承知^ニ而年始亥猪御具足御祝等表^江罷出候節^者不參揃共^ニ御使番^江者届可申旨被申聞候

一久世御代官所竹垣庄藏殿代り鈴木小右衛門殿御支配手代岩田奥右衛門案内書状来り御郡代^江遣又

八月二日

一二宮^江御遠乗御用席無之

一久世手代岩田奥右衛門の案内之書状^并小桁御番所印鑑御郡代^江来り乍序為挨拶書状遣又文言帳留^ニ有

一御藏元今津屋平藏姫路屋伝藏の木知^ケ原御番所江見孫右衛門の書状指越久世役所代り^ニ付津山御役人中印鑑相廻可申処其儀無之^ニ付川下舟通し不申旨申越候

一雲州御家老の此方御家老中^江御歛之書状飛脚到来宿の書状勸者^江届ル被下物鳥目五百文足輕^江被下候由承伝候

八月三日 登城

一御奏者番の尋御初入御礼町惣代鏝節一箱献上員数被尋大年寄承り及返答

鏝節一箱百入御入部 同 一箱五拾入年始

一御藏元兩人の鍛冶場土橋定橋^ニ仕度旨左候ハ、船頭給舟御修復料等被下候様^ニ願出候御勘定奉行三木村田栗田御郡代栗原一同及相談上之御為^ニ相成候義^ニ候ハ、御伺可申哉^与申談候処何之御益も無之由数年来夏^者船渡^ニ致来り御国絵図等^ニも書乗せ有之義夏分橋^ニいたし万^一往来者滴水之砌怪我等有之候^而者^不宜儀公儀^江対シ

如何^ニ付願不取上指戻ス広瀬定橋之義も御郡代^江願出候是又取上無之由^ニ候

一安岡町作人三右衛門願広原新屋敷仁右衛門悴源吾私甥^ニ御座候引請町人別御入可被下旨郡代中申合承届ル

八月四日 登城

八月五日 同

一牢内喜四郎病氣之旨申出大年寄^江申付有本宗の今昼^一服藥致させ候

一戸川町治助願新田村庄助同妻同悴坂之丞家内三人引請町住宅為仕度旨郡代中申合聞届ル

一牢番足輕松岡左助大吉栄藏請状申付昨日於牢屋敷小頭部屋目付罷出見届相済ム左助請人吹屋町治郎兵衛栄藏請人二階町丸尾屋長兵衛

一佐久間上総殿今朝大坂^江出立

八月六日 登城

一川筋水増加ぢ場舟渡相止御所^江御届申達ス

八月七日 登城

一鍛冶場舟渡今朝の通船いたし候旨申出御所^江届申上ル

一東新町市右衛門借屋^江林田村定^一借屋勘七家内三人為引越申度旨郡代所申談承届ル

一久世^江遣書状御用所^江及御沙汰大目付所^江申達ス

一米相場 御藏米 六拾七匁 町米 六拾三匁

一但州粟鹿明神社人今朝罷帰候由申出ル町方巡行式百匁計り初穂有之候由

一 中奥目付中々明八日秋葉御社參泰安寺御仏詣申来ル

八月八日 登城

一 久世御代官鈴木小右衛門殿手代岩田奥右衛門江書状遣ス此度久世代りニ付木知ケ原御番所改印鑑相廻シ不申候内者当町船通し不申候旨木知ケ原番人江見孫右衛門分蔵元江申越候付左之通久世江申遣ス

一 筆致啓上候然者其御支配所木知ケ原御番所江拙者共役筋印鑑先御役所砌指出置川筋舟荷物致通船来候今般御役所代りニ付相改印鑑指出可申候得共前格無之ニ付其義無御座候是迄之以印鑑無滞御通候様被仰付可申下候日々舟指下候故御番所指支難義下方申出候間互御啓用可有御座候得共急ニ被仰渡可被下候右為可得御意如此候恐惶謹言

八月八日 井上弥兵衛

岩田奥右衛門様

右返書承知之旨御番所江可申付由申来ル右御用所江乃御沙汰

八月九日

一二宮江御遠乗御出被遊御用所無之

一 今日御出ニ付町方掃除御先私指出ス御帰本町通り京橋御門右中奥目付中々為知手紙来ル

一 米相場 御蔵米 六拾四匁

町米 六拾壹匁

一 下紺屋町烏屋清兵衛願戸川町野本屋甚蔵居町追払被仰付候私親類之者ニ御座候付借屋ニ差置申度旨女之居所申出候間聞届ル

一 美濃職人町岡田屋嘉助願出候玉津屋ふう義私親類之者ニ御座候付引請申度旨

八月十日 登城

一 牢屋御修覆書付相認御用所江指上ル大目付所委細申達ス

八月十一日 登城

一 上紺屋町年寄熊屋源左衛門悴清助義名代指出申度旨願出願之通申付ル

一 京町若松屋義助家屋敷南側表口四間裏行拾四間土蔵壹ヶ所共質物ニ書入同町花屋忠八取次銀札四貫目致借用度旨吟味之上承届ル

一 久世御代官所鈴木小右衛門殿手代添簡ニ而国分寺急可申之儀ニ付中原村瓜生原村西吉田村分願書指出シ栗原氏拙者名宛ニ而書状来ル早速栗原氏江通達寺社取次中江相廻し御用所江及御沙汰候処何も申合返書取計候様御用所御指図返書者寺社取次村井六之進清水多橋分委細訳書取り新五兵衛拙者分ハ一通り及返書

八月十二日 登城

一 泰安寺御仏詣七間廊下江如例罷出御目見申上ル

八月十三日 登城

一 明日御仏詣被仰出向後四ツ時御供揃被仰付候旨中奥目付分通達

一 牢舎喜四郎病氣少々快方ニ申出ル

一 同竹十郎十兵衛病氣医師遣候様申付ル

一 町人共之内御家中之面々江於途中足駄之俵下座いたし候者有之由

粗相聞候付御作事^江罷出候もの之内と相聞候間己来左様之儀無之様可申付旨大年寄^江申渡ス名面等可遂吟味候得共此度ハ致用捨候

八月十四日 登城

一 泰安寺^江御仏詣四時御供揃御道筋掃除御先払出ス例之通七間廊下罷出御目見申上ル

一 今日牢屋御修覆場所御作事見分有之旨牢番申出ル

一 伏見町大工才之丞姉市大田村彦太郎方^江嫁^江遣候願御郡代申合奉届ル

一 元魚町なぎ屋喜助去ル十一日之夕近辺^江罷越候留守^江盗人這入り

錢箱盜取申候銀札拾四五匁有之書付指出ス及御沙汰

一 越前守様御徒使參候由勝間田^江為知申越早速大目付^江當番^江手紙^江而申遣ス立宿御使者宿申付ル

八月十五日

一 諾士登城御札有之拙者儀例之通於御座間御目見申上ル

一 八幡宮^江九ツ時御社參七間廊下御通り刻例之通御目通り^江罷出ル尤今朝御目見も有之候付大目附中^江伺候処罷出候様^江御用所御指

図之旨

一 越前守様御徒使山岡市藏^江申上下六人^江而立宿山本三右衛門方^江着

早速注進申出大目付中^江達兼^江申合置候^江付御徒目付中沢曾右衛門御書請取富沢金左衛門御馳走人御使者宿斎藤孫右衛門宅^江罷出

ル立宿^江案内御使町年寄指添御使者屋^江罷越ス御書請取相濟御料理二汁五菜出ル相伴金左衛門尤立宿^江而輕キ吸物小付飯昼支度出

候由翌十六日御返書相渡ル御徒目付并汲幸右衛門持參御使^江相渡

ス金貳百疋御使^江被下百疋才領^江三百文ツ、持歩中間三人^江被下朝昼御賄出昼後出立御進物錫一箱昆布一箱御樽代五百疋右立宿出立之趣申出大目付中御届申遣ス

一 去ル十一日之夕元魚町なぎ屋喜助錢箱被盜候処二階町御門小門之内^江明キ箱捨有之野条平藏組番人御門番所^江取上ケ其上内々^江而な

ぎ屋^江相渡遣候由平藏承之不念之致方^江付平藏大目付所^江相届六ヶ敷成平藏指扣伺候処不及其義旨相濟錢箱^江平藏方^江取寄置候旨町

奉行^江相渡候様被仰付尤請取様大目付^江指図有之今日為持被指越大年寄^江相渡元魚町年寄^江并なぎ屋喜助呼出相渡遣候様申付ル

一 安岡町久米屋勘八持牛落候旨申出取捨申付ル御沙汰^江不申上

一 二階町出雲屋円五郎願出大坂今橋屋崎町藤屋久兵衛内縁之者^江付廿日計逗留願出候三味線張之由粗聞候付無用之者^江候間十日計逗留指戻し候様申付ル

留指戻し候様申付ル

一 中之町佐渡屋伊右衛門家屋敷土手側表口四間裏行六間大溝切役無し代百五拾匁同町佐田屋与平次売渡申度旨本証文出ル

八月十六日 登城

一 妙願寺来春万部建札伺済之旨取次中^江申聞御用所^江御伺申上建させ候様^江大年寄^江申渡ス

一 大年寄呼出シ今般御初入御祝義として三人^江金貳百疋惣町^江銀五枚御酒代として被下候御札廻勤候様申付ル

一 元魚町大庭屋前在馬疋疋繫有之主不知旨申出表^江張紙いたし置候様申付ル尤及御沙汰

一 久世御代官鈴木小右衛門殿明後十八日障着として当町通行先触来

ル

八月十七日 出仕

一地蔵院江御社參七間廊下江如例罷出御目見申上ル

一牢番大谷栄蔵妻今朝出産女子出生届出ル

八月十八日 出仕

一久世御代官鈴木小右衛門殿當町通行町筋掃除先私差出入右無滞通行之段御用番大目付江申達ス

一玉置源五兵衛病死悴忠兵衛定式之忌中引籠

一斎藤孫右衛門從弟定式之通三日引籠右兩人及御沙汰大目付所江達ス

八月十九日 出仕

八月廿日 同

一今日御仏詣御延行

八月廿一日 出仕

一斎藤孫右衛門忌明候付出勤為案内罷出ル

一牢番人栄蔵血忌指免出勤

一勝間田町山形屋喜兵衛小間物売宿切手指出シおろし売申事無之ニ付以後左様認候様申渡ス

八月廿二日 出仕

一射術御一覽有之

一元魚町繁置候馬川崎村市助与申者馬之由相聞候郡代中吟味候様申

談

八月廿三日 出仕

一殿様修理様御館江初而被為入候

一本琳寺鐘之供養建札社取次使被申聞御用所伺建させ候之様申渡ス

一伏見町大工夫助願勝山領真嶋郡幸野村平兵衛悴甚八先年私引請人別入候得共此度指辰申度旨願出吟味之上承届ル

一美濃職人町伝兵衛家屋敷表口式間裏行拾七間代百八拾匁町内縫屋庄助江壳渡申渡旨

一西新町丁子屋源左衛門伯父左助林田上之町太七借屋江引越度旨郡代中申合承届ル

八月廿四日

一今枝流進藤流御一覽有之

一牢舎新五郎喜四郎病氣賀村玄仙薬服用

一元魚町大庭屋前ニ繫キ有之馬元主川崎村市助吟味書付指出候仲人

小性町又四郎中之町豆腐屋治兵衛遂吟味書付指出ス依之右馬公領

香々美実経村太七壳渡候代銀私不申馬當町追放候付元主川崎村

市助受取候様郡代所被申付仲人江も致世話壳渡候様ニと申渡ス

八月廿五日 出仕

一牢舎喜四郎新五郎病氣ニ付薬用候右御用所大目付所御届申達ス

一御年貢外私停止触書御用番御渡被成惣町江相触ル

一万人講場観河原請取渡として小頭郡代下代地方庄屋罷出無滞相済ム

一宗門帳并添証文致奥書兩判為持遣ス

八月廿六日

一二宮江御遠乗京橋御門分御出被遊候御先私出入

一夜^二入御対面所^江被為入候御花火有之

一米相場 御藏米 六拾壹匁五分
町米 五拾七匁五分

八月廿七日 出仕

一徳守宮祭礼之義御用番^江於対談之間御内意申上ル

一三軒屋番所修復書付御用番^江指出ス

八月廿八日

一御出^ニ付御用所無之

一御座間御目見無之

一材木町徳次郎願私借屋喜左衛門娘ふさ野介代村石右衛門養女^二遣

度旨御郡代申合

一鍛冶場土橋掛渡し請負一札指ス

八月廿九日

一牢舎人無宿喜四郎病氣差重り今晝相果候旨申出御用番大目付所以

手紙御届申達ス御徒目付高橋三太夫下目付老入此方小頭部屋目付

検死相済ム取捨如先格申付候様大目付被申聞穢多^江申付ル向河原^江

堀埋メ取計相濟趣御用番大目付所届手紙遣ス

一大々神楽岡田忠太夫罷越所々相廻候旨申出候間御在城^二付及御沙

汰候

一安岡町福嶋屋幸助願久世御代官所勝南郡木知^ケ原村百性十郎右衛

門娘私妻^ニ呼越申度承届ル

一坪井町桔梗屋長右衛門北側家屋敷表口三間裏行拾七間質入銀札六

百匁丑八月切安岡町しの屋佐助^ハ借用仕度旨

一安岡町長次郎願私借屋長藏家内式人広原新屋敷作人宗助借屋^江引
越申度旨郡代中申合

一米相場 御藏米 五拾九匁五分
(欠)

一但州出石千石越前守殿領分作州勝南郡為本村甚次郎と申者伏見町

治兵衛後家跡式之義^ニ付橋本町徳嶋屋長十郎宮脇町大工半右衛門

右懸り合訴状添簡到来及御沙汰

岡部長左衛門 森川岡右衛門 工藤仁兵衛

八月 晦日

一鍛冶場船渡通船無之旨申出御届御両所^江申上ル

九月 朔日

御用番

佐久間兵右衛門殿

大目附当番持

大年寄

斎藤孫右衛門

一諸士登城御礼有之拙者義於御座間例之通御目見申上ル御礼^旨而御

用席^江罷出ル

一牢舎人仕着せ之儀御用所^江及御沙汰大目付所^江も達ス

一 鍛冶場船渡今朝始候旨申出及御沙汰大目付所達ス

九月二日

一 御殺生御出被遊候付御用所無之

一 銀札場錢川下手形致裏印遣ス

一 勾坂九藏逐電治五右衛門義御呵三人扶持被下屋敷揚り在方引越候様被印付

一 久世御代官廻村当町運行ニ付掃除先払指出ス無滞通行以手紙御届申達ス

御藏米 五拾八匁

一米相場 (欠)

九月三日 出仕

一 吹屋町北村屋源右衛門甥古市主馬本組相勤番代入ル三谷林八此度

針医ニ罷成三谷端針と改号私引請申度旨

一 伏見町有本宗的因州鳥取家中市橋宗徳悴来王私養子ニ仕度旨

一 牢屋藤左衛門病氣ニ付服藥申付ル

一 右葉近来牢番中間取ニ遣候得共如先格大年寄の牢屋江為持遣候様ニ

孫右衛門江申遣ス

一 牢舎者仕着せ竹十郎十兵衛新五郎綿入四ツ調遣候様ニ牢番江申付ル

九月四日 出仕

一 泰安寺御仏詣掃除御先払指出ス例之通七間廊下江罷出ル

一 新魚町林田屋治右衛門家屋敷南側表口式間裏行拾式間質入銀札式

百匁丑八月切組合惣左衛門の借請申度旨

一 三丁目沢屋孫四郎断書大坂天満古屋幸五郎弟古屋五三郎用事ニ付

日数廿日余滞留仕らせ度旨御用所及御沙汰是者仕官之者悴故也

九月五日 出仕

一 德守宮祭祀家台出候処有来りハ不苦去歳之通可致旨御用番十太夫殿被仰聞候

九月六日

一 野辺御出ニ付御用席無之

一 福渡町井口屋庄助御使組井汲甚内拝領屋敷鉄炮町ニ居申候佐七同母同妻家内三人私借屋江差置申度旨

九月七日 出仕

一 鍛冶場土橋掛渡し出来部屋目付藤森権六檢分として指出シ往来始ル舟渡相止右御用所江申上大目付所達ス

一 牢舎新五郎病氣快樂止ル賀村玄仙藥

一 牢舎清内妻病氣片山溪水藥用病躰重ク相聞候間御用番御届手紙遣ス

九月八日 出仕

一 泰安寺御仏詣掃除御先払出ス

一 久世御代官通行掃除先払出ス

一 今日吟味者仕候付仕御断申上ル

一 橋本町長十郎宮脇町半右衛門呼出遂吟味晩方為本村甚次郎罷出承

記ス

九月九日 出仕

一諸士登城御目見有之拙者儀例之通於御座間御目見申上ル

一大隅宮祭礼ニ付同心組四人町分江指出ス無滞相済ム御届者不申上候

九月十日 出仕

一泰安寺江御証月ニ付御仏詣有之如例七間廊下江罷出ル町分掃除御先払出ス

一牢内清内妻病氣大切御用所江申上ル

一吉井菜内母死去忌中引籠

一牢舎清内妻とよ病氣指重り昼刻相果候御用番大目付所御届申達候御徒目付下目付檢使被仰付組小頭部屋目付指出ス檢分相済大目付所承合先格之通取捨申付ル御用番大目付御届手紙遣ス

一安岡町久米屋甚八持牛致病死断書出ス取捨申付ル

一安岡町福和屋吉之助持来旅籠屋株当子年辰年迄五年之間西今町

福見屋吉助借り請渡世仕度旨承届ル

一五匁銀判通用之儀ニ付従公儀御触書相廻ル

九月十一日 出仕

一杉山江被為入候町分掃除御先払出ス

一惣船持ハ願出候御登米押付船積被仰付当年者小桁用水八出井手船往来甚愚敷迷惑仕候旨申出候付勘定奉行村田孫兵衛江申談地方岸

権六江被談小桁村船持共吟味有之候処加茂川落合場所ニ而難儀候

様相見候得共外井手口明ケ候様ニも難成候付少々石籠置候而通行候

様ニ小桁村江藏元相談有之様ニ小桁村申談可然段権六被申聞願書

藏元江戻し右之段申渡候様申付ル

九月十二日 出仕

一大般若ニ付六ツ過登城例之通り宇治橋之間江出座御経相済御前御拜有之其節何も相詰罷有候右早而先格之通拜相済退出御用所江罷出無滞相済候旨申上ル

一例之通御仏詣七間廊下江罷出ル尤麻上下致着候義伺候処其俣罷出可申旨大目付指図ニ付罷出ル尤勘定奉行中者平服也

一為本村甚治郎罷出候由大年奇申聞此度出入裁許書相談旁返書相認出石役人中江持參候様相渡ス

一京町ハ德守祭礼家台出シ候願指出ス

九月十三日 出仕

一德守祭礼京町鍛冶町元魚町見せ物出シ候旨申上十八日ならし為致候事申上ル

九月十四日 出仕

一泰安寺江御仏詣町分掃除御先払如例七間廊下江罷出ル

一德守祭礼去年之訳委細太田舎人申談御用所江御内意被申上候処町奉行御使者屋敷江罷出見物いたし候「」共ニ勝手次第之旨御用番被仰聞候旨舎人申聞候

一町分御條目久々不読聞候付今般申渡可然哉之旨御申上則帳面指出し候

一明十五日御故障有之ニ付御礼不可請御奏者ハ廻状到来

一上紺屋町播磨屋猪八借屋藤八同妻同娘俸以上四人戸田源太兵衛長

屋江引越度旨承届ル

九月十五日 出仕御礼無之

九月十五日 出仕御礼無之

一平井半平帰着之由

一錢相場六拾四文立替候旨大年寄申来ル

九月十六日

一二宮江御出被遊候付御用場無之

一祭礼ニ付町方江触書指出ス文言留帳ニ委敷有之

一御幕預り手形致印形小頭江相渡ス

九月十七日 出仕

一地蔵院江御社參七間廊下江罷出ル

一徳守祭礼大目付所ハ触書到来

一警固取り人五人大目付江申達ス

一牢舎人服出来不残相止候旨牢番申出ル数書付出ス

九月十八日 出仕

一諸月番江被仰渡於宮嶋之間御年寄兵右衛門殿被仰渡大目付立会番

外ハ七間廊下ニおいて大目付申渡中奥目付立会

一御條目改被仰渡文言前々之通

一御檢約御書付大目付村山平学申達別紙扣有之妻娘之衣服横袖木

綿ニ相成候

一諸足輕下代之者以来番所江相詰候節袴不及着用候年始五節句只今

迄之通麻上下着用すへし惣而包物塗状箱自身持可申候寝具并当等

是又自身持はこひ苦しからす候已来下番中間左之通減少申付候

但下代足輕等不及申候得共踏込着用之儀不相成候立付ニ限ルへ

し

下番中間渡し方

御家老組 式人 御城代組 老人

右老人ニ而左之通場用事可相達

表鉄御門 同中御門 裏鉄御門 御太鼓櫓

物頭六人 式人 町奉行 老人

宮川御門下御屋敷御門ニハ下番無之

一祭ならし京町元魚町鍛冶町坪井町家台今日元魚町ハ京町迄之間ニ而

ならしいたし場所割合書付渡ス

一町々家台番付書付隅田族江両通遣ス老通ハ御前江出度由族好ニ付

出ス

何芸

何ニ 何屋

誰

九月十九日

一祭礼ニ付御用所無之

一 一釵鉾 上紺屋町

一 一老番風俗大平記 鍛冶町

一 一式番勢曾我出世酒盛 京町

一 一三番取組五鴈金 坪井町

一 一四番義経千本桜 元魚町

右六ツ半時宮川御門揃候様申付ル

御蔵米 六拾匁

一米相場

町米 五拾六匁

九月廿日 出仕

九月廿一日 同

九月廿二日 同

一下番中間老人被下候旨御書付ニ被仰渡候然処只今迄ハ外ニ相兼夜具持候処此度老人相渡り候而ハ請取候事於私後晴様奉存思召も御座候而相極り候義ニ御座候哉大目付柴崎甚右衛門を以御内意申上候処兵右衛門殿御挨拶町方勤方之儀故同心寝具持候様ニハ不被仰付候依而下番老人被下候先申渡候通相心得可申候猶又遂評議可申旨被仰聞候由

一御條目并別紙町方江申渡ス条々

一町方檢約衣服之触書右之通御用所御伺申上ル御披見後刻文言送候間可申渡旨被仰付候

一諸吟味役町目付可申付旨申上候

一去ル廿日大目付村山平学江承合候書付左之通

一組之者私用ニ罷出候節袴着用不苦

一御番所屋敷番詰所者袴不相成旨

一供ニ罷出候節袴着用

一只今迄立付ニ而勤候場ハ立付着用袴ニ而勤候場合ハ白衣又ハ股引

一中奥目付合開合候書付写左之通

一下目付組祭礼万人講之節立付着用

一立合御用廻りハ白衣

一惣鉢警固足輕者股引脚半

一諸組共ニ私用麻上下袴着用勝手次第

一諸組小頭祭礼立付

一惣而御共御先私又ハ押へ御用人ハ只今迄之通

一御家中之面々供ニ召連候組又ハ家来只今迄之通

一 小須賀一学殿今朝江戸表江発足昨日御暇与旁罷越候懸御目候

九月廿三日

一二宮辺江御出ニ付御用所無之

一勝山三浦志摩守殿内筑摩源右衛門合書状到来十月米相場之義頼来ル相応ニ返書遣ス

一材木町菱屋源十郎乃井野御預り所英田郡倉敷村庄兵衛与申者家内

三人私縁家ニ付引請御当地住宅為仕度願出承届ル御用所及御沙汰

大目付所書付出ス

一船頭町今津屋平藏願備前和氣郡香々登村八五郎妹私妻貫引越申度

旨承届ル

九月廿四日 出仕

一新魚町姫路屋伝藏家来儀右衛門多助口論之義伝藏取計儀右衛門引

請人堺町ひご屋治兵衛合訴状出し候得共主人与家来出入ニ付不取

上孫右衛門江申達

一桶屋町大坂屋治郎右衛門合家売券質物ニ取年賦銀用立候滯出入訴

状出候得共売券之質ニ候事不法ニ付不取上

一船持共合願出候生綿実油粕地船計ニ積申度旨願出候得共備前其外

他領船持共も有之付難取上願書戻ス

九月廿五日

一 早朝御出ニ付御用所無之

一 惣町年寄共宅江呼出シ申渡候

一 御條目読聞候義致怠慢候今般御條目大年寄江相渡候銘々写置無怠慢下方江可申聞

一 別紙之条々町内江可申渡候

一 町方衣服之制禁書付指出候間末々急度相守候様可申渡候

一 町人風俗年々悪敷相成大者ケ間敷候遊人多相見候家業出精候様随分親兄弟之致世話別而幼少之者共仕入能いたし可申旨可申付事

一 惣町困窮之様子相聞候町之為ニも可相成筋候ハ、各無遠慮可申出候事

一 町内出銀割方減候様取計可申候割帳面追而及見可申事

一 宿屋共無益之売物宿無用之事

一 旅籠屋共不埒之者宿致間敷候ニ夜共留置候ハ、可断出事

一 其外申渡之趣申渡尤触書帳ニ相留ル

一 中之町甲屋和助私借屋御中間部屋頭小林平八江貸申度旨申出ル

一 右同人願私借屋嘉七家内三人林田上之町善吉借屋江引越申度旨御

郡代申合

九月廿六日 出仕

一 林田孫兵衛之被申聞候町奉行所下番中間之儀兵右衛門殿江伺候処

同心町分勤方故寝具自身持候様ニハ難成儀ニ付中間相渡候銀札場兼只今迄之通持はこひ候人日々指越候様可申付旨被仰聞候由尤小

勘者吉田又左衛門之右申聞候致承知候

九月廿七日 出仕

一 今日京の御覽被遊候市場土岐両門弟於御城執行有之

九月廿八日

一 京的射揚有之

一 牢舎十兵衛新五郎病氣片山溪「」薬服用為致候御用所江申上候

一 牢舎人数書指出候様被仰付候

一 万寿姫君様御結納御祝儀座頭警女江被下候一昨日伺相濟今日相渡ス銀札七百九拾式匁五分人数式百拾式人

九月廿九日 出仕

一 修理様妙法寺江御仏詣被遊隅田之申来町方江為知置

一 院庄村市三郎郡代所之申立入牢為致候様御用番被仰渡七時栗原新五兵衛之牢手形被指越於会所申渡相濟組老人指越入牢取計候尤村賄也

御用番

十月 大橋十太夫殿

大目附月番持

大年寄

藏合孫左衛門

朔日

一 諸士登城御礼有之拙者於御座間例之通御目見申上ル

一 二階町堺屋猪助願京都大仏前葉鐘町柏屋宗吉申者内縁ニ付三十

日計逗留為仕度旨願出候得共内々遂吟味候処淨瑠璃杯かたり候者
之由無益之人^ニ付無用可致旨願書指戻ス

一 佐久間上総殿今日大坂へ帰着

十月二日 出仕

一 無宿盗人 新五郎

無宿似せ札遣 式助

右兩人去月廿九日伺相濟今日御領分追取計候於牢屋小頭部屋目
付書役指出シ申渡ス御境目^江見届中山市左衛門金嶋喜代治罷越候
右御用番大目付所名面書付相届ル

一 川筋通切手扣帳紙數無之^ニ付新帳^ニ為改右帳^者役所^江納置候

十月三日 出仕

一 福渡町大黒屋源左衛門後家家屋敷表口四間裏行拾七間代式百匁同
町中嶋屋勘兵衛^江売渡し申度旨

一 勘定奉行何も不快出勤無之

一 中之町糶屋弥右衛門私弟福田屋利右衛門家屋敷表口巷間半裏行拾

七間利右衛門旧冬相果候妻子無之福田屋^一仕甥弥吉引請世話仕
候此度代百匁相極売弘利右衛門借銀^江売申度旨買主同町作人源吾

一 河原町年寄藤田屋善三郎眼病相煩役儀難勤役免願指出ス

一 十一月万人講日限伺書指出御用所へ申上十五日^ニ申付候大目付所^江
も達

一 京町味噌屋利左衛門方京都諏訪与右衛門罷越逗留為仕候旨口上断
出ル

十月四日 出仕

一 泰安寺御仏詣御先払指出ス如例七間廊下^江罷出ル

十月五日 出仕

一 久世御代官十月米相場頼来ル

一 木知ヶ原口留御番所請負人願出候御益之節^ニ付川筋村々津山町分
障無之哉之旨下方書付惣代持參致候様^ニ申来り船頭町船持^江申渡

一米相場 御藏米 六拾壹匁
町米 五拾七匁

一 京町若松屋善左衛門方播州池田大和屋五兵衛同理兵衛同所森田夫
右衛門代り丈助右逗留口上届出ル丈助五兵衛廿日^ニ罷帰ル

十月六日

一 杉山^江御鹿狩御先払指出ス今日御用所無之

一 橋本町角屋政次郎家表口式間裏行拾式間半代百四拾匁材木町茅屋
源十郎弟庄兵衛^江売渡し申度旨

十月七日 出仕

一 但州出石仙石越前守殿内役人中へ再返答書来ル裁許書存寄無之旨
申来ル

十月八日 出仕

一 泰安寺御仏詣町分掃除御先払如例七間廊下^江罷出ル
一 木知ヶ原御番所川下物之大切手遣置候^而一ヶ月切^ニ請負人小手形^ニ而
無滞通り候様久世役所^江書伏遣候書面御伺申上思召無之遣候様被

仰付候

一 御奏者番廻状明九日亥猪御祝義被下候登城候様廻状

一大目付廻状江戸京大坂^江無益之雜談文通仕間數旨御用所御申之旨

十月九日 朝御出席無之

一西川ハ米相場書頼来ル

一石御領分勝南郡為本村甚次郎津山町橋本町仙嶋屋長十郎宮脇町

大工半右衛門伏見町河本屋治兵衛後家跡式之儀^ニ付及出入先達^ニ

詮議濟今日及裁許後家家屋敷諸道具取上^ケ吊入用^ニ相払殘分治兵

衛夫婦位牌^ニ相添且那寺^江遣シ永々仏事相願可申旨伏見町元組合年

寄^江申渡委細申渡帳^ニ留ル

一亥猪御祝義七ツ半時登城六過ハ始ル無滞相濟^ム御用所へ不罷出頂

戴相濟早速退出

一船頭町今津屋平藏方^江大坂榎村清右衛門手代浅田治兵衛森本多助

逗留之旨口上届出ル

一西今町三くら屋善四郎方^江播州兵庫岡本屋弥兵衛悱弥十郎と申者

内縁之者^ニ付引請来丑ノ二月迄逗留為仕度旨願出承届ル

一美濃職人町大工又藏家表口四間半裏行拾四間代式百四拾匁林田西

新町藤原屋武八^江売渡申度旨

一玉置忠兵衛忌中昨日迄^ニ而相濟今日ハ出勤為届罷出ル

十月十日 出仕

一坪井町桔梗屋庄右衛門願出候大坂過書町和泉屋六左衛門と申者廿^ケ

年以前迄御当地^江參上仕候宿仕候處其後不勝手^ニ罷成參上不仕候

依之播州姫路惠美須町細^一屋彦四郎と申者右六左衛門甥^ニ而御

座候腰物小道具商売仕申候六左衛門代り^ニ御当地^江出入為仕度相
願候付承届ル

十月十一日 出仕

一久世陣屋^江船頭町船持惣代船本屋左助書付為持添状^ニ而遣ス尤小

桁金谷八出船持申合ス右書付文言書狀留^ニ委敷有之外^ニ於久世一

札被好指出候右文言一所^ニ留置

十月十二日 出仕

一泰安寺御仏詣掃除御先払申^一如例七間廊下^江罷出ル

一銀札場奉行手紙到来万人講之節小売場伏見町正木屋^江申付候旨案

内有之

一御給米役料春暮兩度之分今日相渡ル

一牢番足輕給米当四月召抱候^ニ付二月二日ハ四月迄分引ケ残り相渡候

十月十三日 出仕

一泰安寺御証月御仏詣掃除^一御先払出ス如例七間廊下^江罷出ル

一中之町わら屋忠四郎家質請返シ断書出ス

一右同人家表口四間裏行拾七間代八百匁同町わら屋兵藏^江売渡度旨

一元魚町玉嶋屋安右衛門願出候悱弥吉儀西川領久米北条郡里公文村

儀兵衛方^江当子才ハ辰迄五ヶ年之間指遣置申度旨

一下山官太ハ寺田治助家代請取書先達^而栗田唯次ハ取置候處官太請

込之銀子^ニ付官太請取書引替候様申聞候得共役筋ハ外^江相渡候義^者

筋違其低勘定奉行請取^ニ而送候^ニ付村田孫兵衛官太右之段及挨拶

一万人講道具小頭預り書小勘者^江相渡拙宅^江為持御越給り候様申談

我等於宅講元^江相渡ス

十月十四日 出仕
一文照院様御証月泰安寺^江御仏詣掃除御先払出ス七間廊下^江如例出

ル

一京町種屋田平義八十三歳ニ罷成去ル戊年及飢米三俵町奉行切ニ被
下去亥七月又々申出御歎申上候得共相濟不申内々銀札六拾匁遣シ
当七月又々申出町内打寄世話致可申旨申付置候処此度及飢候旨町
内難義之趣申出候依之御用席江申上半扶持非人扶持江入請取遣度
段大年寄江申渡ス

一米相場 御蔵米 六拾匁
町米 五拾六匁

一久世役所江指越候船持惣代今日罷帰ル返書来ル別事無之

一戸川町紙屋嘉助去ル戌正月相願勝山佐渡屋喜兵衛方江三年切奉公
罷越候処相濟罷帰候旨断書出ス

十月十五日 出仕

一諸士登城御礼有之拙者儀於御座間例之通御目見申上ル

一万人講寄セ大鼓打候事及御沙汰候

十月十六日

一観河原万人講寄り札高壹万六千弍百七拾弍枚三步銀弍拾四貫四百
拾四匁

一出役之面々町奉行郡代御徒目附下目付小頭其ニ組拾人下役石名平
太兵衛書役罷出ル使組取り人四人式人供ニ召連候八ツ時計エ懸り
暮前時相濟ム帰リ懸ケ御用番御届罷越ス大目付当番江郡代連名ニ而
届手紙遣ス

十月十七日 出仕

一万人講寄り札高書付御用所江懸御目候

一残り札三拾四番取り人不知

一去ル亥十一月廿二日講残り札四番備前牛窓権之助与申者取り主之
由申出遂吟味無相違ニ付相渡候様申付ル

十月十八日

一二宮辺朝の御出ニ付御用所無之

一元魚町香々美屋友次断出候京都金屋加右衛門手代伝兵衛勘定奉
行江用事ニ付罷越逗留為致候旨

一播州池田大和屋清兵衛同所森田夫右衛門京町若松屋善左衛門ニ逗
留断出ル

十月十九日

一御出ニ付御用所無之

十月廿日 出仕

一地蔵院江御仏詣如例七間廊下江罷出ル

一万人講残り札之儀申上去年之分相渡候事も及御沙汰候

一鍛冶町鍛冶屋伝右衛門不勝手ニ罷成候付小田中村猪助方江家内引
越度旨郡代中及相談承届ル

一安岡町長次郎借屋長蔵広原新屋敷へ引越度旨今日郡代中申合承届
ル

一寺田治助家代請取書相認大年寄江相渡ス先達而銀子栗田唯次江相
渡請取書取之去ル五月下方江相渡置候得共筋悪敷ニ付取戻シ役所
請取大年寄江相渡候御勘定奉行請取ハ御用單子江入置

十月廿一日 出仕

一久世御代官鈴木小右衛門殿役所江川筋通切手之儀申達ス

津山町之積下候諸船荷物度毎ニ夫々請前之役所之荷主手形ニ致裏

印川下致候得共今般川下請負人願出候付承届請負人申付候依之右

之者手形ニ役筋之者裏印之大切手一ヶ月切ニ指遣シ木知ケ原御番所江

指出置追々請負人小手形を以罷通可申候間無滞通船候様被仰付可

被下候請負人等も相改候付為念得御意候恐惶謹言

飛脚使組指遣候廿二日返書委細承知之旨申来り御用所江申上御勅

定奉行及相談

一御勘定奉行不快ニ付頼来田部平兵衛悴嘉斎娘河井三作方江遣度旨

両所願御用番江指出ス佐藤順助佐内与改号口上書指出ス

一坪井町高砂屋兵助願大庭郡久世浜野多左衛門娘私妻ニ貫度旨承届

ル

一御出ニ付御用所無之

十月廿三日 出仕

一蔵合孫左衛門樅之木枯レ候ニ付伐申度旨申出古木之儀故及御沙汰

候

一境町大室屋藤兵衛願当国吉野郡中谷村勘次郎と申者晒蠟木綿嶋

鑿節并荒物おろし売仕候御当地江出入仕せ度願出候新株ニ候得共

故障無之者故承届ル

十月廿四日 出仕

一二階町大工庄助断出候十歳計成男子非人躰之者迷ひ者とも相見へ

難儀之躰相当り不便存候付養育遣度旨申出何国之者哉難知候付大

年寄吟味候様ニ申付候之処まき谷与申所出候由両親無之村庄屋八

十右衛門と申候所之寺忠孝寺善光寺と申由申候村所難相知候先勝

手次第養候様ニ申付及御沙汰候

一京町味噌屋善藏懸合問屋メリ一札指出ス

一中山伝内妻出産血忌引籠

一御作事之米相場書他所江遣ス挾板十枚出来指越候

一二階町境屋猪右衛門願播州姫路本町表屋孫兵衛と申者古手物売御

当地江初入為仕度旨親株ニ候得共故障無之付承届ル

一山北村八子六ツ半時頃出火家一軒焼失早速鎮ル火元江罷出歸り懸

御用番御届申達候

十月廿五日

一御出ニ付御用所無之

一妙法寺横手ニ非人躰之坊主行倒相果居候旨寺社方之届有之由大目

付村山平学之申来り向方之檢使指出候付相濟次第□□□非人取捨

可申付旨申来ル早速大年寄江申渡ス取捨相濟ム檢使御徒目付下

目付寺社取次足輕老人罷出候由

一久世支配所多田村ニ而勝南郡王子村理右衛門と申者銀納持參罷通

候処十七日之夜何者歎切殺シ銀子奪取候よし依之宮尾村庄屋之大

年寄江内々吟味手懸り之儀頼来ル内意申出候廿八日久世御代官所

之書状到来右切害之義ニ付近村庄屋之御領分手懸り之義も致出来

候ハ、其村之可申談候間宜取計候様ニ申付置可被下旨申来ル

一安岡町小倉屋次右衛門持来り他国請酒株当子十月之卯十月迄船頭

町山北屋伊兵衛借り請商売仕度旨願出承届ル

十月共六日

一二宮^江御出^二付御用所御出席無之

一伏見町治兵衛後家家入札取計落札六百六拾匁同町小坂屋善兵衛

一内藤丹後守殿廻米船頭町川筋^二而破船^二付蔵元罷出致世話不殘米

揚り候由申来ル

十月廿七日 出仕

一木屋太兵衛塗師屋勤兵衛御用之御道具預り居候間預り之間^者出火

之節町内出役之義指免可申旨且大紋字付挑灯御貸渡し被置候付灯

し可申間左様相心得候様大目付太田舍人被申聞大年寄^江申渡ス町

内^江申渡置候様申付ル

十月廿八日 出仕

一如例月於御座之間御目見申上ル

一御用日向後一六三八相極り候尤式日^者御出仕御仏詣之節^者罷出可

申旨大目付村山平学被申聞候右^二付相伺候御仏詣日罷出候節是迄

指懸り候御用有之候節^者得^与御用相濟罷出候付御断^者不申上候如

何可仕哉之旨伺候処日参之心持^二而相勤可申候左候得ハ是迄致来

り之通可致旨御用所^江相揃罷出候儀^者御用日之外^者御用も無之候

得^者不及其儀被仰渡候栗原新五兵衛村田孫兵衛^江申合出懸り御用

有之節^者不及御断不快之節^者御断可申旨尤御用日不参之節^者是迄

之通御断可申上事

一御用達町人松屋惣兵衛御上り物御用付不調法有之御料理人佐野喜

兵衛合昨日被申聞先禁足申付置候今日御膳番存寄被申聞候様喜兵

衛申談候処石川左近右衛門存所先右之通^二而相濟可申旨申候由喜

兵衛申聞追而有無被仰聞候様及挨拶右大目付村山平学^江乍内々及
嚙候

一河原町藤田屋善三郎病氣願^二付年寄役指免跡役京町若松屋善左衛

門^江当分兼役申付候

一米中買頭河内屋安兵衛病死^二付跡役浜本屋喜助^江申付候

一久世御代官所御上米檜岸積出候中上ヶ番所町人足之義郡代中申来

り日雇頭^江申付候様申渡

一馬持戸川町源五郎我俣者之由馬指共申出大年寄場合呼出し呵可申

旨申出候其段申付ル

十月廿九日

十月晦日

一蔵合孫左衛門川荷物請負之義小桁木知ヶ原案内致候様申付ル

十一月

御用番

佐久間兵右衛門殿

大目附当番

町大年寄

玉置忠兵衛

朔日

一御吉事日諸士御礼有之御普代之面々御礼先^江被為請候尤麻上下其
外裏付上下常之通御礼有之拙者義如例於御座間御目見申上ル尤裏

付上下右^而七間廊下^ニにおいて御祝義御赤飯被下候大目付所御礼
申上ル御普代衆御用所^江一統^ニ被出候

一十月米相場書久世西川勝山野井野先達^而頼^ニ付指出ス右飛脚久世
勝山彦人西川^江彦人乃井野^者飛脚来り返書^ニ遣ス但西川勝山平均
相場也

一修理様御前髪御取被成候為御知被仰出大目付所廻状来ル

一今町松本屋五右衛門孫猪助去戌年致欠落候処借物等有之五右衛門
ハ相払銀子故障無之^ニ付帰住宅御免之願五右衛門組ハ願出遂吟味
候上御用所へ申上願之通申付ル尤大目付所^江達ス

一久世御代官御廻米□□番人之儀郡代中申来り大年寄^江申付ル

二日

十一月三日

一三軒屋御番所先達^而申達未見届無御座旨番人申出大目付所^江其段
申達ス当番太田舍人

一大目付所廻状来ル六日長勝院様百五十回御忌於泰安寺御法事被仰
付候此段為相知候様御用所御申之旨

十一月四日 出仕

一今日泰安寺^江御仏詣

一就御仏詣七間廊下^江罷出ル御用無之^ニ付御用所^江者不罷出

一松屋惣兵衛禁足指免候旨佐野喜兵衛申来ル大年寄^江申渡ス以来入

念候様申付ル

一來ル六日長勝院様御法事^ニ付町方自身番今町組之者固メ先格調候
処光円院様廿七回御忌宝積院様御遠忌之砌自身番不申付^江固も無

之誓海院様御七回忌^ニ者申付候由伺候処今般ハ入御念候御法事之
思召^ニ候間辻固自身番可申付皆被仰付候小頭大年寄^江申渡ス

一福渡町中村屋久三郎借屋平六鉄炮町喜久原源吾渡り屋敷^江引越申
度旨承届ル

一元魚町津田屋与平治借屋米屋時八願私儀橋本時八と改栗田唯治^江
奉公^ニ罷出度旨承届ル

十一月五日

十一月六日 出仕

一長勝院様百五十回御忌御法事来ル六日之処御取越於泰安寺御執行
町方自身番申付ル当日計今町辻固メ指出ス

一御仏詣有之御先払辻固之者兼相勤ル

一七間廊下^江如例罷出ル

一川端円六妻出産男子出生

十一月七日

一御法事^ニ付座頭御布施銀被下小頭部屋目付罷出相渡高四百六拾九
匁五分人数百弍拾八人割合例之通

十一月八日 出仕

一泰安寺^江御仏詣如例七間廊下^江罷出

一院庄村百性市三郎出牢郡代申合取計候様御用番被仰渡

十一月九日

一院庄村市三郎出牢組彦人差出入御領分追払郡代下代於牢屋申渡見
届足輕郡代所ハ出ル右御用番大目付^江御届申達ス

一修理様御前髪被為取候御祝義座頭^江被下候今日相渡ス銀高四百七

拾匁七分五厘人数百貳拾六人

一新魚町魚屋六左衛門悻勤次郎当子三十式才十月廿七日之夜罷出行
衛不相知兼々不所存者趣断書指出ス猶相尋追_而人別離可願旨申渡
ス

十一月十日

一神田権兵衛妻出産男子出生

一豆腐直段十三文之処大豆下直ニ付十式文ニ仕度旨願出勝手次第申
付ル

一佐々木弥太夫被參材木町室屋喜兵衛相渡候銀子引込不埒七拾匁計
り有之返済申付呉候様被頼候

十一月十一日 出仕

一智円院様御証月泰安寺_江御仏詣七間廊下_江如例罷出ル

一米相場 御蔵米 六拾壹匁
町米 五拾七匁

一椿川下切手小林市左衛門持參裏書致印形相渡ス尤先達_而御勘定奉
行村田孫兵衛_ハ被申聞候

十一月十二日 出仕

一泰安寺御仏詣如例七間廊下_江罷出ル

一堺町林田屋明キ蔵此度御受納米御用ニ付御借り右之所ニ_而納有之
候林田屋_ハ申出御勘定奉行案内有之候ニ付右御用番及御沙汰近町
火元等人念候様申付ル

十一月十三日 出仕

一町方檢約之触書大目付所為見候様被申聞村山平学_江両通相渡ス

一錢相場六拾五文通用立替大年寄申来ル
十一月十四日 出仕

一米相場 御蔵米 六拾貳匁
町米 五拾八匁

一泰安寺_江御仏詣如例七間廊下_江罷出ル

十一月十五日

一視河原万人講寄札高壹万六千六拾壹枚割合六拾番

一御郡代栗原新五兵衛町奉行御徒目付下目付小頭平組老人郡代下代
老人町奉行書役同心組拾人内使組四人取り人式人供ニ召連大年寄
地方目付庄屋等罷出ル日明シ非人頭穢多出ル無滞相済ム帰懸御用
番御届申上ル大目付所_江郡代連名届手紙遣ス

一惣町_メり夜廻申付ル非人加廻り五七日致し候様ニ是ハ此間町方_ハ
つさうニ付如此

一材木町三家屋幸三郎姉きゆう内藤山城守殿領分久米北条郡栃原村
伝九郎方_江養女遣度旨承届ル

十一月十六日

一御出ニ付仕無之

一二宮御遠乗り御先払出ス

一昨日講場ニ_而召捕候巾着切乙吉人牢申付可然旨御用番十太夫殿御
伺申上牢舎申付ル盗取候紙入三ツ有之本主申出候ハ、戻し遣候様
申渡ス

十一月十七日 出仕

一地蔵院^江御社參泰安寺御仏詣惠照院様御証月^ニ付七間廊下^江如例罷出ル

十一月十八日

一御出^ニ付御用所無之

一銀札場錢川下切手札座^ハ被指越致裏印遣ス

一御作事弘竹川下切手被指越致裏印遣ス

十一月十九日

一三丁目佐和屋孫四郎願勝山御領分古酒屋善左衛門娘きす当子貳拾歳罷成私役介仕引越申度旨吟味候処追^而外^江も縁付候存所之由相聞承届候

一林田町山本三右衛門娘ちよ勝山御領分田中治郎左衛門妻^ニ遣度旨承届ル

一伏見町作人治兵衛後家屋敷南側表口三間裏行貳拾五間半此度入札^ニ被仰付私落札買上仕候代銀札六百六拾匁上納仕候完券状指出ス伏見町五人組買主小坂屋善兵衛

十一月廿日 出仕

一地蔵院^江御仏詣七間廊下^江如例罷出ル

一目明非人扶持請取証文致裏印遣ス

十一月廿一日 出仕

一町方^江触書指出ス不宣出家宿致間敷旨委細文談触書帳^ニ留ル略之
一二階町五兵衛と申者十八日之夕京町吉兵衛と申者之妻調物^ニ罷出候処於途中ざれ事申懸調物相止罷帰候処五兵衛も付添罷越候由夫

吉兵衛答候処^江戸者成由及返答候然処^ニ割場中間共一兩人通懸り

不届者之儀^江戸者^江渡候様申割場^江召連帰り候趣粗風聞有之依之

世上一統沙汰有之儀不申候迎も聞捨^ニも難成遂吟味今日御用番兵

右衛門殿^江於対談之間御内意申上候五七日追込可申付旨被仰付候

十一月廿二日

一二階町五兵衛儀大年寄於宅小頭立合追込申付候右御用番大目付所^江御届申達ス

一安藤造酒之助殿御家老当職^ニ今日被仰付候

一渡部惣右衛門殿御年寄^ニ被仰付候

一佐久間上総殿御家老役御免被成同氏兵右衛門殿御役被召放上総

殿^江御預ケ徘徊無用之旨造酒之助殿於宅被仰渡候

一安藤鞆負殿遠慮被仰付大目付太田舍人罷越申渡候由

一其外御両家召抱之面々指扣伺有之由

一飯塚弥代出仕無用之由相聞候

十一月廿三日 出仕

一錢相場六拾四文通用立替候大年寄^ハ申越ス

一下紺屋町紺屋忠五郎家屋敷表口五間裏行拾七間代百貳拾匁同町福

住屋吉左衛門^江壳渡申度旨

一京町味噌屋清八断出候備前金岡木地屋平十郎商売向^ニ付罷越十日

計逗留為致度旨

一堺町西川屋重三郎京都松原通龜屋源兵衛三味線張替御当地へ参来り候処近年不罷越右源兵衛兄大坂大手筋折屋町田金屋庄左衛門と申者腰物小道具商売御当地^江出入仕度旨故障無之趣^ニ付承届ル

十一月廿四日 出仕

一栗原氏拙者御用所^江九ツ時過迄^ニ罷出其後御断申罷帰可申候役筋宿元^ニも御用向可有之^ニ付申達候様^ニ御用番御申之旨太田舍人被申聞候

十一月廿五日 出仕

一山岡与左衛門今日御勘定奉行格式御使番被仰付候
一非人加廻り今日切^ニ而相止候様大年寄へ申遣ス
一万人講三步銀取納之義町奉行所^ニ而^者取計不申三木甚左衛門吞込岸権六取納候故員数増減等之義不存之旨御用所御存之儀^ニも可有之候得共被仰上可被下旨村山平学^江申達候

十一月廿六日

一伏見町南側辰野屋喜助家表口三間裏行式拾壹間代四百五拾匁八出屋太助^江壳渡申度旨 十二月四日本証文出ス

一佐野喜兵衛父子昨日御役御免拜領物有之由

一平井半平江戸御用被仰付候

一飯塚弥代御役御免被成候

一元魚町古川屋惣助願新職人町瀧本屋五郎右衛門持来り古道具取売相譲り申度旨申^ニ付私商壳仕度旨承届ル

一万人講拜借道具今日返納御中間式人小勘者^江申遣シ為持遣ス小頭罷出相納候

一御連名之御奉書到来明廿七日出仕候様^ニ申来ル御請相勤ル

十一月廿七日

一弥三兵衛儀大目付役被仰付跡役永井甚太夫^江被仰付候依之今日七

ツ時書役并同心組召連罷越引渡相濟候

一今日御役替左之通

御小性頭 隅田族 修理様付 宇津木弥右衛門
格式物頭

大目付役 井上弥三兵衛 格式物頭 永井甚太夫
町奉行役

御使番 馬場喜内 御使番役御免 大山郡太夫
金三百疋被下候

一甚太夫今日於御用所御面謁有之大目附同道罷出候且又明後廿九日役儀神文被仰付候旨大目付太田舍人^江申聞

十一月廿八日 出仕

一甚太夫今朝当役被仰候付木知ヶ原御番所^江指遣候印鑑久世御代官所迄相廻候依之使組老人指越候様小勘者中^江御申渡候様大目付所^江申達則晚方使組^江相渡ス并小桁御番所^江も印鑑石丸紋吾^江添状認御郡代所^江指遣ス

一式日御居間御礼当役罷出候義候得共拙者儀未御役御礼不申上内故大目附中^江承合候処御礼不相濟内ハ罷出^ニ不及旨柴崎甚右衛門被申聞候

一同心組并小者夜中御城内通り札式枚中奥目付中々請取尤手形認指出候

一今日左之通被仰付候由

御小納戸役

於江戸和泉様

格式番外

植木左士

御病氣ニ付

鈴木喜右衛門

御見廻之御使者

一先達而味噌屋利左衛門方江罷越候京都河井十右衛門手代金沢利兵衛今日罷帰又候佐竹吉兵衛と申者昨晚罷越候由大年寄届出候

十一月廿九日 出仕

一甚大夫儀於大目付所役儀神文被仰付無滞相済ム

一先達而伏見町作人治兵衛後家死後出入一件濟口之義但州出石役人中江文通有之右再答昨日到来

一去ル廿二日追込申付置候二階町五兵衛儀最早日数も相立候間指免可申旨御用所江及御沙汰今晚大年寄玉置忠兵衛江其段申渡又相済以後御用番并大目付当番江以手紙御届申候

一久世御代官鈴木小右衛門殿ハ佐久間上総殿安藤鞆負殿江之白木状箱到来之由「」之意ケ様之類ハ直ニ大年寄共ハ御家老中御宅江御届申候得共当時者御両所共御指扣之義ニ付当役所江指出則於御用所造酒助殿江指出シ御請取被成候飛脚之者者例之通榎野屋助右衛門方宿申付候様大年寄江申渡又

一当十月十一月兩度万人講上り札渡残式枚今日請取ニ罷出候付例之通同心小頭罷出吟味之上相渡候尤御郡代所ハも下代罷出候事

晦日 出仕

一京町類族無難罷在候旨例之通届書大年寄ハ指出承置候此儀何方江も不及届切支丹奉行中江者下方ハ別段ニ相届候由

一久世御代官鈴木小右衛門殿江安藤造酒助殿ハ御返書入白木状箱於御用所造酒助殿ハ御渡被成候付右飛脚之者江相渡候様大年寄江申付候

一昨日久世御代官所江遣候使組罷帰り増田村右衛門ハ返書到来

十二月

御用番

渡部惣右衛門殿

大目附当番持

大年寄

斎藤孫右衛門

朔日 出仕

一月次御礼被為請候

一甚大夫義於松間御礼申上干鯛一箱献上無滞相済ム右ニ付式日御礼御居間江者不罷出候

一今日左之通被仰付候由

御年寄

大熊兵庫殿

来春

山田主水殿

当役

出府

御側勤

吉田登内

修理様付

宇津木弥内

修理様付御免

飯塚祐助

幸山十治

御広間帰番

一 御礼後諸士居残り候様被仰出紫陽花間^江御出座被遊御家老御年寄^并

御奏者大目付左右^ニ列座大番頭^ハ御使番格迄一烈松間^江御呼出今

般御儉約之義被仰出御書付隅田族読之^早而思召之趣御意有之以後

造酒助殿^ハも御挨拶有之及御請退去為御礼大目付所^江罷出下城後

御家老御年寄中御宅廻勤右御書付大目付中^ハ被相渡候得共数少^ニ

付追々写相廻候筈諸物頭中申合候右頭分被仰渡相濟已後番外^ハ小

從人中迄一列御呼出同様被仰渡候由

一 上田邑平田村弥兵衛と申者御所務方不埒之筋有之牢番預取計申度

由三木甚左衛門申達御聞届候間今晚郡代中申合先格之通可取計旨

惣右衛門殿被仰渡晚方御郡代^ハ手紙到来只今之内同心組老人会所^江

指越候様申来即刻三船磯八指遣郡代所^ハも足輕老人指添罷越牢番^江

引渡候旨磯八届出候付右取計相濟候段御用番^并大目付当番へ以手

紙御届申達尤牢番^ハも右請取候段届出候

一 大坂大和屋利兵衛と申者京町蔵屋忠八方^江罷越逗留いたし候旨大

年寄届出候

一 明二日九ツ時御供揃^ニ而二宮^江御遠乗被仰出御道筋京橋御門^ハ京

町堺町馬方町二丁目三丁目坪井町宮脇町今町茅町安岡町筋違橋御

通り之旨中奥目付中^ハ申来御先^ハ之義小頭^江申付町筋掃除等之儀

例之通大年寄^江申付候

十二月二日 出仕

一 二宮^江御遠乗^ニ付町筋御先^ハ指出入御帰^者田邑^ハ今日神通御道筋之

由

一 川下品々大切手蔵合^ハ指出致裏印遣ス

一 佐々木東馬^ハ材木町室屋喜兵衛^江銀札七拾五匁先達^而相渡置返納

相滞候^ニ付東馬^ハ頼有之十一月中相濟候様先役弥兵衛申付置候処

昨日迄^ニ返納相濟候旨大年寄申出承置

一 当十月^ハ御救扶持被下候京町円平儀老病^ニ而今晚相果候旨大年寄

届出翌三日御用所^并大目付所^江申達

十二月三日 出仕

一 小性町万屋清右衛門家売京町作人源六買代銀百目願書大年寄昨^二

日指出承届候今日申渡^ス同六日本証文出ル

一 安藤靱負殿指扣御免出仕之義^ハ追^而可被仰出由

一 平井半平今朝発足出府

一 明四日泰安寺^江御仏詣御道筋例之通之由中奥目付中^ハ被申聞御先

払之儀小頭^江申渡町方掃除人留等之儀大年寄^江申付候

一米相場書付指出^ス御蔵米六拾三匁町米五拾九匁

一 町奉行御勘定奉行御郡代一緒^ニ御用所^江御呼出今度御儉約筋之儀^ニ

付厚キ思召を以被仰出候処銘々請前役筋之義存付候事有之候^而も

前役後役^ハ対シ遠慮之筋も有之存分之取計難致筋も可有之候旁役

所向取物等一旦致減少候得^ハ重^而餘分之申立難相成^与申様成事^ニ而

心付候事も其分^ニいたし候様成事も可有之候入用之節^者時之増減

いか様^ニも可相成候間其外^ニも随分致勤弁諸事御入用少^ニ御儉約

相立候様可致出精旨御用番惣右衛門殿被仰渡候

一 当年中牟舍人扶持米小頭請取証文相認自分致奥印指出^ス

十二月四日 出仕

一 四時泰安寺^江御仏詣例之通七間廊下^江罷出ル

一大坂銀主室谷仁兵衛昨日罷帰候旨大年寄申出候

一 祇園坊御札指上申度旨藏合孫左衛門昨日申出今日御用所江及御沙汰候処御聞届尤御初穂去歳之通金百疋被下置候旨被仰渡大目付所江も申達依之明日小勘者江御札指出候様孫左衛門江申渡尤小勘者吉田文左衛門江右之趣談置

一 安藤靱負殿指扣昨日御免ニ付甚太夫義此間御役被仰付候御札罷越候

一 京大坂諸銀主ニ而物御用所御方々向後受納無之候右ニ付役筋之面々其趣可相心得旨村山平学被申聞

一 銀札場御用錢七拾箇備前岡山江積下候ニ付小桁木知ケ原御番所通切手裏印之儀札座奉行中今申来り則取計候

一 東新町河内屋左吉不勝手ニ付大坂生至坂下紙屋三郎兵衛方へ当子歳辰歳迄五年之間身上稼罷越度願書大年寄指出承届ル

一 東新町紺屋長四郎立願有之往来八十日計之逗留ニ而四国廻罷越度願書承届候

一 東新町鍛冶屋左右衛門兄勸右衛門義去ル申歳今今年迄五年限英田郡山口村八十平方江奉公罷越居候処又候来丑歳今已歳迄五年限同人方江奉公為仕度願承届ル

一 小性町作人庄助養父八郎兵衛同妻はる当二月上野国秩父坂東江罷出最早此節可罷帰筈之処道中ニ而足痛日数相延依之来丑三月中罷帰申度日延願書指出承届ル

一 暮時過因州松平飛彈守殿御使来り尤御書御進物等も有之飛脚宿相尋候得共不案内ニ候間宣相頼旨ニ而斎藤孫右衛門方江罷越候付様

子尋候処足輕山田七郎兵衛と申者之由併御書御進物等も有之儀故飛脚宿江も難遣先孫右衛門方ニ留置候由当役所江伺出候付即刻登城右之趣大目付所江申達候之処右請取人并御会釈等之義者明日被取計候積り先止宿賄等之義相当相考可取計旨被申聞候付旅籠屋鳥屋与三兵衛方宿申付賄取計候様孫右衛門江申渡候

但今夕ハ鳥屋肥後屋共ニ故障有之外ニ相応之宿無之ニ付先孫右衛門方ニ指留置翌朝与三兵衛方江指遣候事

一來ル九日御成大掃除ニ付御用所御出席無之旨大目付中今申聞

十二月五日 出仕

一 町方馬持共大豆拝借之儀例年之通願書指出御用所江及御沙汰候処御聞届相濟其段大年寄江申渡尤大目付中江も申達勘定奉行中江も談置但馬持式拾五人一人ニ大豆三俵宛也

一 上田邑平田村弥兵衛義御年貢皆濟相成候付指免申旨三木甚左衛門今申達候間御郡代申合例之通可取計旨御用番被仰渡則同心組中山市左衛門会所迄指出し夫今郡代所足輕同道牢屋江罷越右弥兵衛召連会所江相渡相濟候旨届出御用番并大目付所江以手紙御届申達尤牢番今も其段届出候

一 山岡与左衛門大坂御用被仰付候由

一 因州御使来り候ニ付御書御進物等為請取御徒目付斎藤孫右衛門宅迄被指出右足輕山田七郎兵衛鳥屋今町年寄案内ニ而孫右衛門方江罷出請取渡相濟早而一汁五菜之料理被下之尤相伴無之持歩三人江一汁三菜然処御直書ニ而ハ無之御奏者中へ向方御用人中今之状箱并御供頭大沢長太夫へ向方役人中今之状箱到来之由

御進物生鱈一折二

外二

御鍔箱入 是ハ大沢長太夫名当

右返書今晚御徒目付持参使之者へ相渡候処及暮候間又候鳥屋方へ引取り今夕止宿之由尤右使山田七郎兵衛江島目五百文持寄三人江三百文ツ、被下候由

十二月六日 出仕

一因州御使今朝出立罷帰候旨大年寄届出大目付所江御届申達候

一西新町稻屋岩吉借屋八三郎家内式人林田村分上之町幸七借屋江引

越申度段当月願書指出候処郡代所江願出不申ニ付見合有之候処

右八三郎当御年貢ニ指支家財不残売弘母ハ橋本町加と屋文助方江

預置八三郎儀奉公ニ罷出候間幸七借屋江引越候儀得不仕依之願下

シ仕度旨断書大年寄指出承届ル

一勝間田町古手屋孫市後家英田郡福本村清兵衛悴清五郎と申者を養

子ニ仕度旨願書并 向方庄屋手形相添大年寄昨日指出今日承届候

同十八日本証文出

一銀札場御用銭貳拾四箇岡山江遣候付川下札元手形四通札座奉行中

合来り裏印加遣ス

一土井官左衛門大坂御用被仰付候由

一伏見町辻屋六郎右衛門義銀札小売場相勤候処近来不勝手ニ付難相

勤依之右代り同町正木屋左助江小売場申付候由札座奉行中合申来

承置

十二月七日 出仕

一明八日御仏詣被遊候由例之通中奥目付中合被申聞夫々申渡ス
一米相場書指出ス御蔵米六拾四匁町米六拾匁

十二月八日 出仕

一四ツ時泰安寺江御仏詣例之通七間廊下江罷出ル

一御郡代栗原新五兵衛今日当病無出勤段申来り候ニ付大目付所江御

断申達候

一明九日御城大掃除ニ者候得共御用所御出席之由大目附所合坊主触

来ル

一吹屋町年寄吹屋六兵衛儀此度西今町江別宅致度ニ付年寄指免呉候

様願書此間指出尤跡役之者遂吟味名面書付大年寄指出候依之右六

兵衛願之通役儀指免ス跡役釜屋市郎右衛門江申付候間大年寄於宅

可申渡旨今日斎藤孫右衛門江申付候

十二月九日 出仕

一今朝三木甚左衛門儀思召有之ニ付役儀被召放知行半知大目付格尤

遠慮被仰付候右ニ付同氏伊平太御役御免遠慮被仰付候由

一岸権六義思召有之ニ付役儀被召放格式大役人遠慮被仰付候由

一右両家親類縁者之面々伺之通指扣被仰付候由

一今日被召候面々左之通被仰付候由

御供頭 三原右門

勘定奉行 清水多橘

御刀番 渡部其助

御使番格 御小性組 服部弥八

御側勤

修理様付 後藤專助 格式大役人 岡七郎左衛門

仕度段願書指出承届ル

一伏見町辻屋六郎右衛門年来銀札小売場相勤候処近年不勝手難相勤

一伏見町辻屋六郎右衛門義田中六郎右衛門と改号山岡与左衛門方下代奉公罷出度旨願書指出承届ル

十二月十一日 出仕

趣ニ付此度被引替候尤小売場引替手当銀札上納候様札座少被申渡候之由然処近来別而難渋小店等も相仕廻裏屋ニ而も借り請妻子共賃仕事ニ而も為仕当日を送り申度依之先年被仰付候封銀札五百匁

一明十二日御仏詣ニ付例之通中奥目付中少被申聞小頭并大年寄江申付候

何卒開封被成下候様去ル七日歎書指出候右極難之趣無相違哉否組合之者共遂吟味候様大年寄江申付候処吟味之上組合も書付指出

一大年寄共先格之通歳暮御祝儀指上申度此間申出候付今日御用所江及御沙汰置候

候ニ付昨日勘定奉行中江も遂内談置右之趣御用所江及御沙汰候処今日御聞届相濟候則其段大年寄江申渡ス尤大目付中江も申談候事

一御領分町在人別之内鰥寡孤独之類有之者御救可被遣候間可申出旨申渡候様当役御郡代一統ニ於御用所惣右衛門殿被仰渡明日申渡候

一今晚同心共牢番三軒屋番招呼始而盃遣候

積申合候事

一西川小形伴左衛門同進吾少甚太夫役付怡之書状来り則及返答

十二月十二日 出仕

一安藤造酒之助殿来春御参勤之御供被仰付候由

一四時泰安寺御仏詣例之通七間廊下ニ罷出ル

十二月十日 出仕

一井上弥三兵衛郷中吟味兼役被仰付候由

一昨日被仰渡候鰥寡孤独御救之儀大年寄三人招呼申渡ス

一京都金屋手代先達而罷越元魚町香々美屋友治方ニ逗留候処此度罷

一米相場書指出ス御蔵米六拾六匁米六拾式匁

帰候由

十二月十三日 出仕

一古川屋宗助商売方用事ニ付大坂松屋甚兵衛方へ十五日之逗留ニ而

一明十四日御仏詣之儀中奥目付少被申聞小頭并大年寄江例之通申付ル

罷越度旨断書指出シ承届ル

一去月晦日竹之馬場辺ニ而小相口拾ひ候者有之郡代所江訴出候由依

一備前金岡木地屋平十郎先達而罷越京町吟味噲屋清八方逗留候処今以用事不相濟今廿日計逗留之願大年寄指出承届

之町在触流之儀被及御沙汰来ル廿日迄ニ心懸り之者有之者可申出旨在中江被触候間町方江も触流具候様申聞則大年寄江触流書付相

一京町吉田屋喜八郎方坪井町刃金屋後家所持他国酒小売株去ル申歳

渡ス

今当年迄五年之間借請居候処又候丑歳今已歳迄五年之間借請商売

一先達而諸組寝道具物御引上ケ之処此度以前之通被相渡并下代足輕

袴着用之義も以前之通被仰付候同心組寢道具持之義^者是迄相濟居

候得共袴着用之筋可申渡旨大目付井上弥三兵衛被申聞則同心共奉

番三軒屋番共^二其段申渡候様小頭^江申付候

一 町方困窮^二付為御救来丑歲^三今卯歲迄三ヶ年之間正月一度宛万人講

被仰付被下候様惣町年寄共^六願書大年寄指出シ今日於閑談間惣右

衛門殿^江御内意相伺候上御用所へ及御沙汰願書指出置候処暫有之

願之通御聞届被成候間勝手次第申付候様惣右衛門殿被仰渡則大年

寄^江申渡ス尤大目付中^江も前後申談候事

十二月十四日 出仕

一 四時泰安寺^江御仏詣例之通七間廊下^江罷出ル

一 甚太夫義御用所^江御呼出大目付立会御用番惣右衛門殿被仰渡候^者

何も及承候通御勝手向至^而御難決之事近來於御用所勘定奉行之場

合をも取計候様成来り候得共左様之筋^二而ハ不宣前之通御勝手向

之儀勘定奉行^江御委被成候然処當時勘定奉行古格存候者無之候其

方儀前方右役筋も相勤候事候間存付之筋有之候ハ、無遠慮可申談

候勿論今般重キ御意之趣も有之義是非五七年之内御趣意相立候

様無之^而者不相成事^二候間万端無覆臟勘定奉行可及相談旨被仰渡

且造酒助殿今も何分此御場合之義御為之筋無遠慮申合相勤候様^二与

思召候旨御挨拶有之

一 御仏詣之筋御先弘同心組罷出候御通前今町宮脇町辺町家^江立寄り

待合罷在候内酒杯給候迎何角町内物入等有之様も相聞候此御時節

之儀心得も可有之事候間大目付太田舍人内々被申聞候付其趣指合

以後相慎候様小頭^江申渡候

十二月十五日 出仕

一 日並御礼例之通御居間^江罷出ル

一 今日被召候面々左之通被仰付候

大番頭格

三拾石御加増

御刀番

御小性組勤方

只今迄之通

御小性組勤方

御小性頭

御側勤

御金奉行

稻垣茂治

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

宗旨奉行

小嶋此母

寺社取次

御小性頭

磯野権之丞

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

御側勤

一東新町茶屋五郎右衛門義中之町三室屋宇左衛門所持他國請酒株當

子年寅暮迄丸二年之間借り請商売仕度旨願之通承届

一東新町肥後屋兵吉方江同町玉屋伊左衛門所持自國請酒株去ル戌歲

合当年迄借り請候処又候来丑歲合卯歲迄三ヶ年之間借請商売仕度

願承届ル

一東新町小池友の姪かね義去ル戌之三月久世村竹田屋新右衛門方江

若分遣置候処此度右新右衛門方江養女ニ遣度依之人別離之承届ル

一船頭町作人伝助売家表口三間裏行三間半但四步役代銀札百八拾匁

同町今津屋伊右衛門買願之通承届ル

一大年寄共歳暮御祝義之儀去ル十一日伺置候処先格之通指上候様可

申渡旨惣右衛門殿被仰渡則申渡ス尤御奏者中江申達置

一大年寄札元町医諸吟味御歳元年頭御目見之儀伺出候付御用所江及

御沙汰候処先格之通被仰付則申渡ス御奏者中江名面書付指出候事

一明十八日早朝合御鷹野御出ニ付御用所御出席無之旨大目付所合坊

主触来ル

十二月十八日

一例年之通月迫ニ付町中触書大年寄江相渡ス

一米相場書差出入御蔵米六拾五匁五分町米六十老匁五分

一武芸学問出精候様遊芸者文武之学務を以致候ハ格別ニ候得共浄る

り三味線類者風俗ニ懸り候儀ニ付専流行之義者不宣思召候間心得

可有之旨大目付廻状到来同心組半番三軒屋へも申渡候

一夜半比西寺ニ鐘突候由出火と申町方一近町合注進申

出候得共火元も不相知様子聞合候内世上静ニ相成候付不罷出候事

十二月十九日 出仕

一昨夜出火と申様子今朝承候へハ鉄炮町小堀三内家少々ふすぶり候

処わくをぬき早速打滅候由

一西川小形伴左衛門同進五合為寒中見舞飛脚致来例之通通谷紙千枚

被相触候然ル所先日被仰出も有之義故可致受納哉否之義大目付を

以相伺候処何分此度殿敷御俊約ニ付諸方音物等堅致受納間敷旨被

仰出候趣を以宣及断由村山平学合被申聞則右之趣を以返答音物

差戻候事

一二階町年寄山手屋弥右衛門病身ニ付役免之願去十五日差出尤例之

通跡役之者吟味之上書付大年寄指出候付弥右衛門義願之通役義差

免跡役塗師屋勘平へ申付候旨大年寄へ今日申渡ス

一西今町房屋六兵衛義東新町三輪屋文助所持自國請酒株当年合寅年

迄三ヶ年之間借請商売仕度旨願書大年寄差出承届候

一藏合孫左衛門伯母大庭郡下方村次右衛門役介妙隨為病氣養生孫左

衛門方ニ当年中逗留之筈之処未相勝ニ付来丑七月迄滞留為致度願

書差出承届候

一東新町倉敷屋七郎右衛門弟次郎兵衛義去ル戌四月大坂嶋之内平野

屋清右衛門方へ三年切罷越居申度已後清右衛門方へ引請渡世為仕

度旨ニ付差遣候義依之人別離願書差出承届候

一米中買新魚町魚住屋一五郎致成人候付商売仕候間請状大年寄合

差出ス

一播州網干木屋甚六と申もの福渡町罷通り候処俄ニ氣分悪敷由ニ而

作人勘助方へ立寄候ニ付近辺医師呼集致療治候得共兎角相勝不申

其内右網干仲々間之者共駈付候由何分定宿西新町山根屋茂兵衛方
迄引取看病仕度段申之由大年寄伺出候ニ付勝手次第引取致養生可
遣尤随分無鹿略心ヲ付養生加遣候様宿茂兵衛へ可申付旨大年寄へ
申渡候

一 明廿日地藏院御仏詣之義中奥目付中ハ被申聞例之通大年寄へ申付
候

十二月廿日 出仕

一 先達而味噌屋方へ罷越候京都河井手代佐竹吉兵衛此間罷帰候由届
出候

一 四時地藏院へ御仏詣例之通七門廊下へ罷出ル

一 播州網干木屋甚六義山根屋茂兵衛方へ引取色々懸養生候得共不相
叶昨夜相果候由国元妻子も有之ニ付右死骸受取罷帰度同道人網干

鍛冶屋久次郎同大和屋善五郎願書并宿山根屋茂兵衛印形加差出候

付勝手次第引連被帰候様申渡尤後日申分無之段同道人共一札町内

年寄方へ取置候様ニ与申付候右等之趣御用所并大目付所へ申達候

一 東新町松本屋新六方へ勝北郡新野西下村八十次倅久太郎と申者養
子ニ仕度尤今年十九才ニ罷成候由向方庄屋送手形相添差出承届ル

同廿二日本証文出ル

十二月廿一日 出仕

一去ル十三日触流し候小相口之儀ニ付二かい町鳥屋左助去月廿日頃

小脇差紛失之由委細書付昨日差出し郡代中へ申談候処遂吟味候得

八寸尺色品無相違之旨被申聞則其段大年寄へ申渡候

一来正月万人講ニ付木札拵極印打壳出し申度旨二かい町大坂屋作次

願書昨晚差出候へ共何角故障之筋共有之ニ付此願不承旨大年寄へ
申渡願書差戻ス尤今日大目付中へ懸り及相談候事

一 先達而味噌屋清八方懸合問屋願之通申付置候処此節及自廻候付右
商売相止候旨大年寄届出候

一 牢舎人藤右衛門清内十兵衛義ニ付甚太夫并御郡代新五兵衛一所ニ
御用所へ被呼出被尋之趣有之

十二月廿二日 出仕

十二月廿二日 出仕

一 佐久間上総殿遠慮御免本出仕ハ暫可差扣由

一 昨日御尋之義御返答申上并巾着切乙吉事御伺申上候事

一 細江武助下御屋敷附石垣伝太夫小勘者役松田左一御徒格被召出

一 明朝取計之義於対談間惣右衛門殿被仰渡候大目付立合承之夫々手
配申付候

十二月廿三日

十二月廿三日

一 六半時於牢屋御仕置左之通取計

死罪

郡代所申渡

藤左衛門

死罪

町奉行所申渡

清内

御領分追払 文助

御領分追払 文助

穢多

御領分追払

竹十郎

同 乙吉

同 乙吉

右ニ付役御徒目付高橋三太夫下目付植月八書役円六同心小頭

石名左五兵衛同部屋目付川端文六組
中山市左衛門 中山伝内 金嶋喜代次 郡代

所下代一人足輕吾人罷出無滯相濟其段御用所^并大目付中へ御届申
達候但右追払もの古城御境目迄相送り則古城村庄屋見届手形伝内
喜代次の差出ス

一 大熊兵庫殿御家老御当職被仰付候

十二月廿四日 出仕

一 明朝取計之義於対談間惣右衛門殿被仰渡尤大目附立会承之夫々手
配申付候

一 同心組金嶋喜代次義苗字改度旨小頭を以願出今日承届藤森喜代次
と名乗候事

一 大熊兵庫殿昨日御家老御当職被仰付候ニ付其段町方へ触知せ候様
大年寄へ申渡候

一 伏見町小桜屋半兵衛方へ久世支配所宮尾村十右衛門弟清藏と申者
引請渡世仕らせ度旨願書^并宮尾村庄屋手形共ニ此間差出今日承届

候段大年寄^江申渡同廿八日本証文差出ス

一 安岡町鳥取屋清介家屋敷表口五間半裏行十三間此度同町吉田屋太
四郎方へ質物書入当十二月今来丑十月切式割之利足^ニ而銀札六百

匁致借用度断書此間差出承届同廿七日本証文出ル

一 安岡町作人勘七兄長助後家久世支配所西北條郡真経村社男因幡方
へ差遣度人別離願此間指出今日承届ル翌丑二月廿二日引越証文差
出ス

一 江戸表能役者村上長次郎と申者此度御当地へ罷越上下式人逗留中
宿之義鳥屋与三兵衛方申付候様昨夜立合目付今大年寄方へ申来候
付則与三兵衛へ申付置候旨届出承置

一 村山左仲江戸表今今日着之由

十二月廿五日 出仕

一 六半時於牢屋左之通取計

剽刑盗人立焔者

十兵衛

御領分追払

右見届御徒目付遠藤十助下目付江田太七書役川端円六同心小頭石
名左五兵衛同部屋目付河端又六平組藤森喜代次室并政次罷出無滯
相濟古城御境目迄相送則庄屋手形取罷焔右取計相濟候段御用所^并

大目付所へ御届申達候

一 向後御鷹野等御出ニ付町方御通之節ハ掃除^ニ不及旨被仰出候御仏
參御社參之砌ハ只今迄之通之旨大目付井上弥三兵衛被申聞候付其
段大年寄へ申渡尤御鷹野等之節掃除^ニ者不及候へ共格別不淨成義^者
無之様心^ヲ付^并横丁人留等之義ハ是迄之通取計候様申付候

十二月廿六日 出仕

一 播州赤穂赤松村忠藏と申もの正銀為引替昨日銀札場へ罷出候処持
參之銀札之内贖札有之由ニ付札座奉行中内吟味之筋有之依之宿禰
本町朝本屋源藏へ預ケ被申候由今朝大年寄の届出承置何分吟味
筋^ニ而被預候事^ニ候へハ取逃シ不申様無由断心^ヲ付候様申付候尤
右之段札座奉行中のも噂有之

一 村山左仲今日被為召御用人当役被仰付候

一 御番方^并御近習向皆勤御褒美其外医師中御役人已下例格之御褒美
被下候由

一米相場書差出入御蔵米六十七匁五分町米六十三匁五分

一林田町升屋新介家屋敷表口三間裏行六間巷尺五寸但三步役之処去亥十一月質物ニ書入銀札百六十匁中之町作人武平次取次ニ而かり請候当十一月限之処兎角相濟不申及難義候趣武平次ハ願書差出候付大年寄手前ニ而先遂吟味升屋新助返答書取之一所ニ此間差出候新介かり請候段無相違趣勿論家屋敷質入之事ニ候ハ不埒可致筋決而無之ニ付是ハ三十日之日切申付夫迄ニハ急度筋立候様新助へ可申付旨大年寄へ申渡ス

一柴山門次組河本新次方役介中山龍意と申針医此度下こん屋町福住屋吉右衛門引請町内借家ニ差置度旨吉右衛門願書差出承届候

一材木町大工平助家表口式間裏行十七間之処質物ニ入銀札百五匁同町大工源七取次ニ而來丑十月切かり請度願承届ル同廿九日本証文出ル

一米中買元魚町河内屋安兵衛先達ニ病死ニ付悴安之丞義安兵衛と改号中買商売致度旨願承届ル

一船頭町舟元屋八右衛門姉いち家屋舗表口式間裏行八間巷尺九寸但半役之処西方表口巷間通代銀札六拾匁瓜生原屋平兵衛へ売渡東方巷間通代銀札六十匁大工六兵衛へ売渡申度旨願書兩通差出承届同廿八日本証文出ル

十二月廿七日 出仕

一御郡代栗原新五兵衛不快無出仕御断之義頼来大目付中へ申渡候
一明廿八日四時御供揃二宮へ御出御道筋田町御門より西大番所今町通御帰寿光寺横丁通御対面所へ被為入候由中奥目付中ハ被申聞小頭大年寄へ例之通可申付候御道筋違新屋敷荒神之脇ハ安岡町へ

御出尤御往来共右御道筋之由夜ニ入申来又候夫々申渡候

一惣船持共拜借五年賦今年迄ニ上納相濟又候此度銀札壹貫八十匁拜借仕度旨願書差出勘定奉行中遂内談置御用所へ及御沙汰候御聞届相濟則大年寄へ其段申渡

十二月廿八日 出仕

一式日御礼例之通御居間へ罷出候

一大年寄三人歳暮為御祝義雉子式羽宛献上但小勤者所ニ而塗台借用名札付町奉行役所之先迄小遣ニ為持夫ハ御奏者所へ坊主ニ差出させ候其後中之口段橋之下北向ニ大年寄三人列座居町奉行ハ中柱之脇ニ罷有御奏者伊達隼人竹之間之方ハ被出歳暮之御祝義差上遂披露候段被申聞町奉行取合及挨拶早ニ而勝手次第退出例之通御礼廻勤候様申渡候尤右之者共今日御城内通行之儀昨日中奥目付中へ申談置裏下ハ罷出ル

一四時迄二宮へ御出御先払差出無滞相濟

一茅町作人千助方へ新屋敷持宝院借家有之候作介と申もの家内四人引請渡世仕らせ度旨願出郡代中申合承届ル

一安岡町増原屋藤九郎表口式間半裏行十三間但半役之家屋舗代銀札貳百三拾匁相極同町江川屋太郎一へ売渡申度旨願書指出承届ル同晦日本証文出ル

一赤穂赤松村忠藏義於銀札場内吟味有之候処大略及白状候趣ニ候間当役所へ受取猶又可遂吟味由於対談間惣右衛門殿被仰渡尤大目付立合承之依之今晚右忠藏義宿朝本屋源藏并組合町内年寄召連罷出候様申付石名平太兵衛勤同心小頭同部屋目付平組兩人書役并大年

寄諸吟味役迄立合遂吟味候処本在所赤穂郡新浜村荒井屋十次郎と申者之由右贖札致候ニ無相違段及白状候ニ付口書取之右ニ付手錠申付朝本屋組合之者共へ預ケ候間昼夜無由断番致候様申渡朝本屋方迄同心兩人差添遣候十次郎申口委細口書扣有之

十二月廿九日 出仕

一 贖札師吟味之趣御用所并大目付所へ申達候

一 右贖札師あらい屋十次郎入牢可申付旨於対談間惣右衛門殿被仰渡大目付立合承之依之同心組兩人差遣入牢申付候右取計相濟惣右衛門殿并大目付中へ以手紙及御届候右十次郎所持之品者宿朝本屋へ預ケ置手形取罷帰候事

一 明日者出仕ニ不及之旨大目付所へ坊主触来ル

十二月 晦日

一 二かい町三保屋十右衛門借家之内此度奥村次郎藏へ用立候旨大年寄届出承置

一 当夏御初入御祝義惣町へ被下銀五枚此間勤者中へ相廻り今日割賦仕相渡候旨大年寄申出候

一 赤坂御前様御不縁ニ付御離縁之義去ル十六日御用番へ御届被成候依之向後御直様と相唱可申旨被仰出候段大目付中へ廻状到来

津山郷土博物館紀要第七号

津山松平藩町奉行日記四

平成七年三月三十一日 発行

編集
発行

津山郷土博物館 ©

岡山県津山市山下九二番地

印刷

株式会社 廣陽本社

岡山県津山市田町二二

